

飯舘村 住民意向調査 報告書

平成27年3月

復興庁
福島県
飯舘村

飯舘村 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	22
3-1-4 震災発生当時の住居形態	28
3-1-5 避難前の自宅へ戻る頻度	29
3-1-6 避難で留守にしている間の自宅の被害状況	30
3-1-7 現在の住居形態	32
3-1-8 現在のペットの飼育状況	36
3-2 復興公営住宅の入居意向	37
3-2-1 復興公営住宅への入居意向	37
3-2-2 復興公営住宅へ入居を希望する自治体と世帯構成	41
3-2-3 復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービス	45
3-2-4 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態	47
3-2-5 復興公営住宅へ入居を希望しない場合に居住したい自治体	49
3-3 将来の意向	51
3-3-1 飯舘村への帰還意向	51

3-3-2	飯舘村への帰還時期	56
3-3-3	飯舘村へ戻る場合の家族	58
3-3-4	飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援	60
3-3-5	飯舘村へ帰還する場合の住居形態	63
3-3-6	飯舘村へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	66
3-3-7	村営住宅への入居意向	67
3-3-8	飯舘村との“つながり”を保ちたいか	69
3-3-9	飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報	71
3-3-10	帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援	76
3-3-11	現時点で戻らないと決めている理由	78
3-3-12	帰還しない場合に居住したい自治体	81
3-3-13	帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	83
3-3-14	飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援	84
3-4	現在の生活について	87
3-4-1	避難後の家族の食生活・栄養状態	87
3-4-2	家族の生活や体調などの変化	89
3-4-3	家族の健康状態	91
3-4-4	飯舘村で実施している家庭訪問による健康・生活支援相談	92
3-4-5	友人・知人・地域コミュニティ面での困りごと	94
3-4-6	子どもたちの教育についての心配ごと	96
3-4-7	教育の充実を図るために必要なこと	97
3-4-8	放射線に関する勉強会等の開催する際の参加のしやすさ	98
3-4-9	除染終了後の家屋及び家屋周辺の維持管理	99
3-4-10	除染終了後の農地の維持管理	100
3-5	意見・要望	101
IV	◆考資料	117
4-1	使用調査票	119

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、飯舘村住民の復興公営住宅の入居意向など避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	飯舘村
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 2,973 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成 27 年 1 月 7 日（水）～平成 27 年 1 月 21 日（水）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、飯舘村
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 1,413 世帯（有効回収率 47.5%）

1-5 報告書の見方

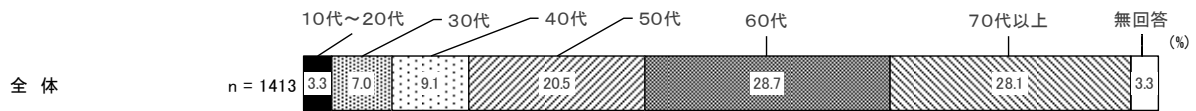
- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の行政区別の分析は n 値が 30 を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

(1) 年齢

<図表2-1-1>



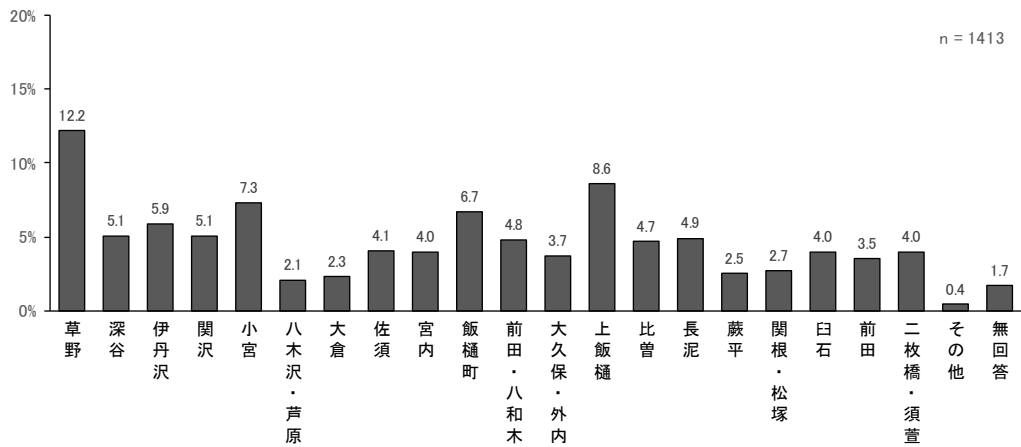
(2) 性別

<図表2-1-2>



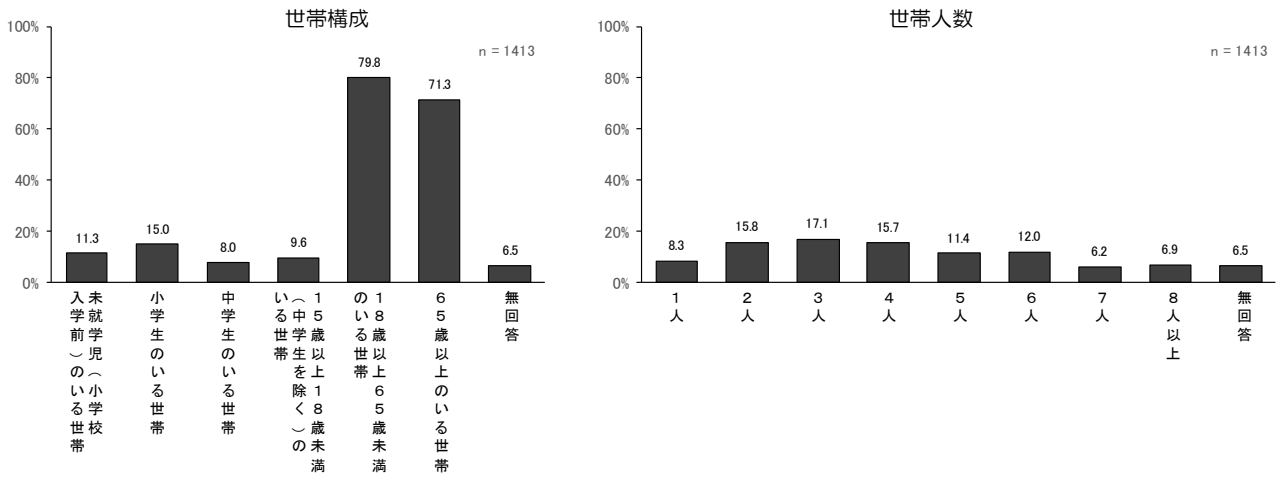
(3) 震災発生当時の行政区

<図表2-1-3>



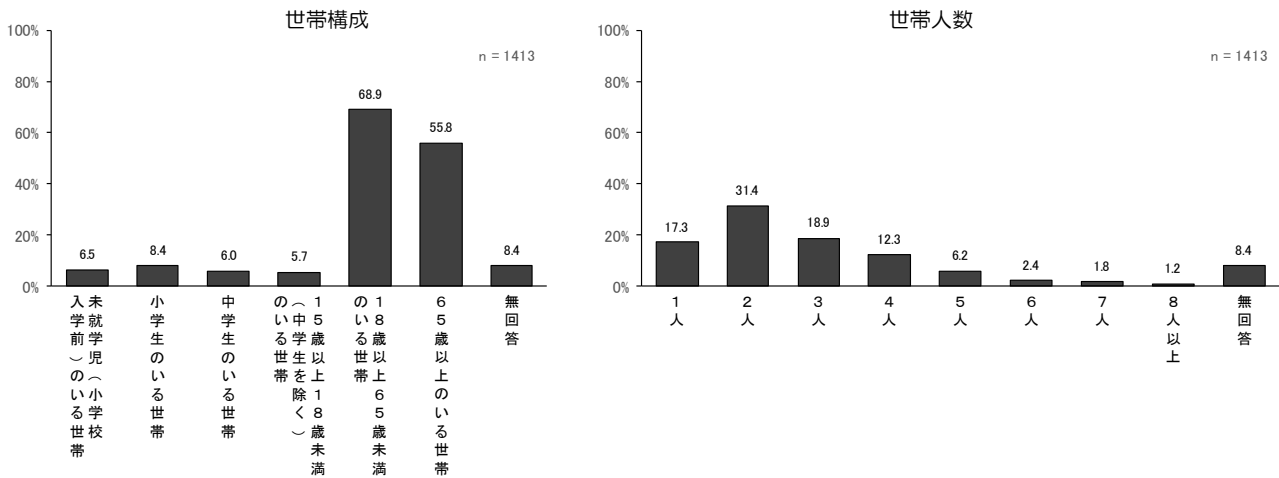
(4) 震災発生当時の世帯構成・人数

<図表2-1-4>



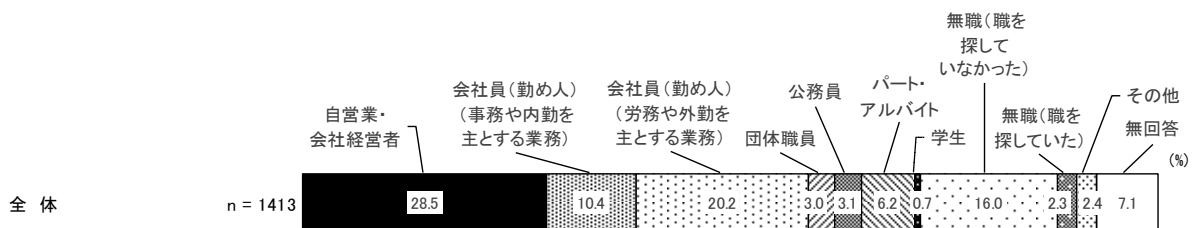
(5) 現在の世帯構成・人数

<図表2-1-5>



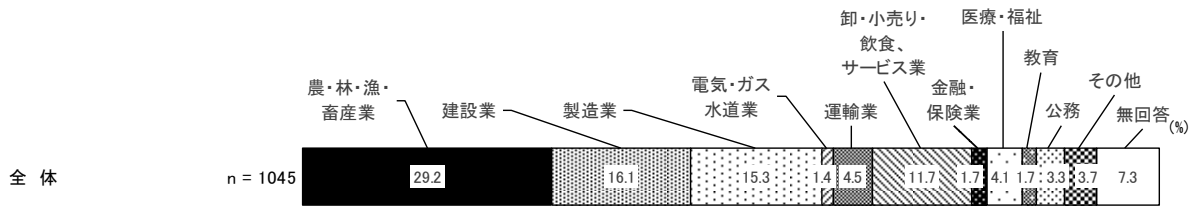
(6) 震災発生当時の職業(就業形態)

<図表2-1-6>



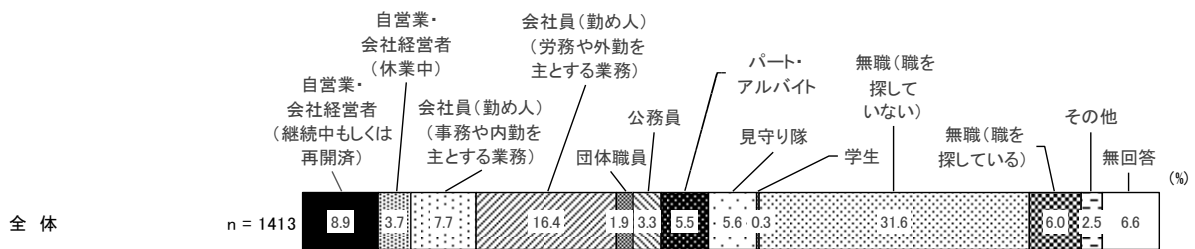
(7) 震災発生当時の職業（業種）

<図表2-1-7>



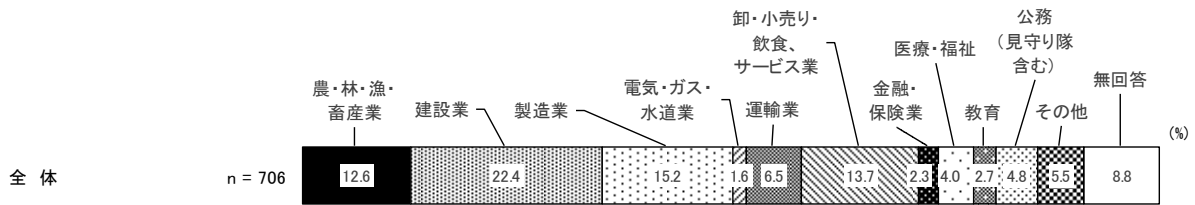
(8) 現在の職業（就業形態）

<図表2-1-8>



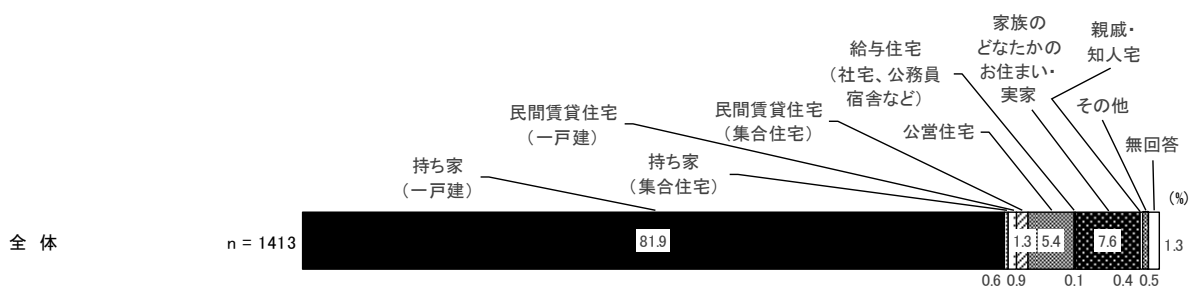
(9) 現在の職業（業種）

<図表2-1-9>



(10) 震災発生当時の住居形態

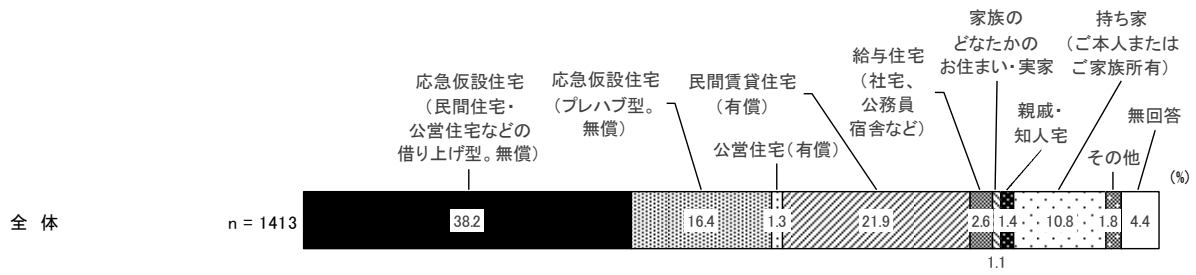
<図表2-1-10>



II 回答者の属性

(11) 現在の住居形態

<図表2-1-11>



III 調査結果

3-1 現在の状況

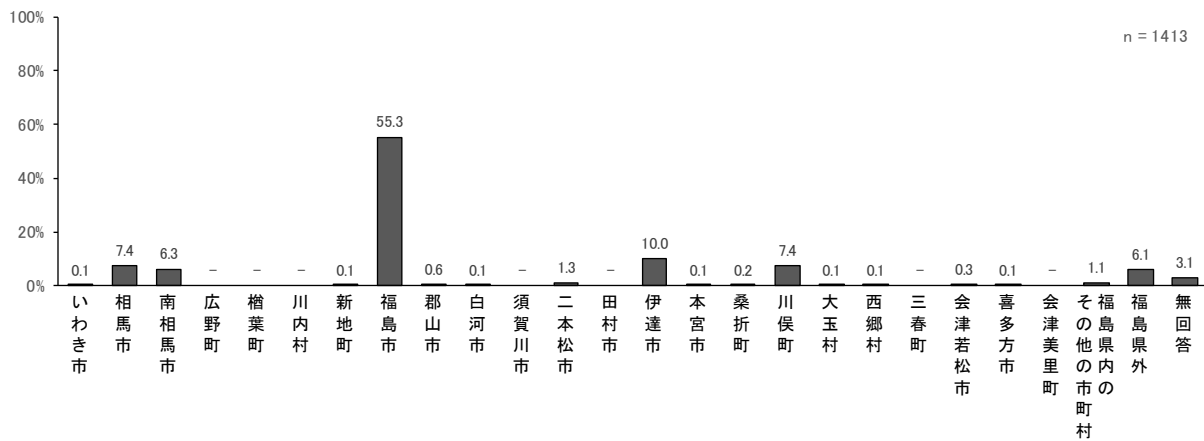
3-1-1 現在の避難先自治体

問9 あなたが現在避難されている市区町村名を教えてください。(〇は1つ)

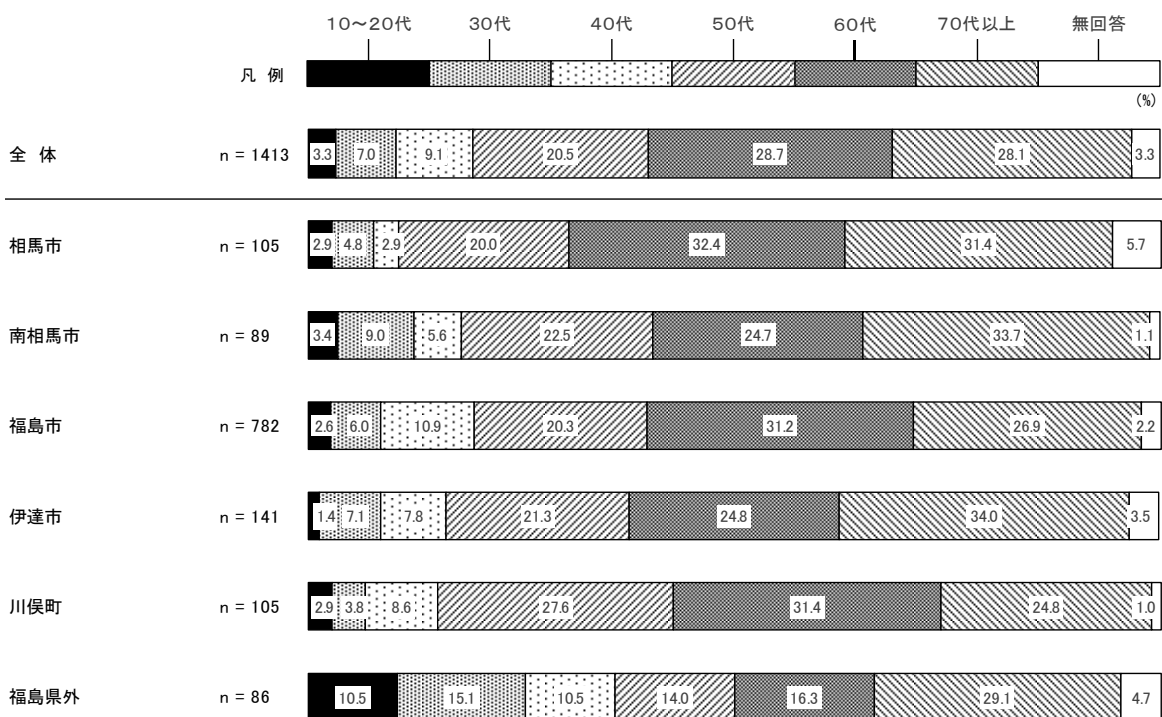
現在の避難先自治体については、「福島市」が55.3%と最も高く、次いで「伊達市」が10.0%、「相馬市」、「川俣町」が7.4%となっている。

主な避難先自治体について、回答者の年齢別にみると、60代以上では「相馬市」(63.8%)、「南相馬市」(58.4%)、「福島市」(58.1%)、「伊達市」(58.8%)、「川俣町」(56.2%)が5割以上をとっている。「福島県外」では60代以上は45.4%と5割を下回る。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



III 調査結果

震災発生当時の行政区別にみると、深谷、伊丹沢、宮内、大久保・外内、上飯樋、比叢、長泥、関根・松塚、臼石、二枚橋・須萱では「福島市」が6割以上、大倉では「相馬市」が6割以上となっている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（震災発生当時の行政区別）>

	n	(%)					
		相馬市	南相馬市	福島市	伊達市	川俣町	福島県外
全 体	1413	7.4	6.3	55.3	10.0	7.4	6.1
草野	172	8.7	8.1	50.0	9.3	4.1	8.7
深谷	72	4.2	4.2	62.5	6.9	6.9	6.9
伊丹沢	83	7.2	2.4	74.7	4.8	4.8	3.6
関沢	72	11.1	9.7	45.8	6.9	6.9	13.9
小宮	103	11.7	18.4	40.8	7.8	4.9	7.8
八木沢・芦原	29	13.8	13.8	58.6	3.4	3.4	-
大倉	32	68.8	9.4	6.3	-	3.1	6.3
佐須	58	3.4	1.7	32.8	37.9	8.6	8.6
宮内	56	3.6	8.9	62.5	7.1	3.6	7.1
飯樋町	94	4.3	5.3	55.3	7.4	11.7	9.6
前田・八和木	68	5.9	7.4	58.8	5.9	7.4	4.4
大久保・外内	52	7.7	9.6	69.2	5.8	3.8	-
上飯樋	121	4.1	2.5	62.8	7.4	12.4	5.8
比叢	67	1.5	1.5	67.2	4.5	16.4	3.0
長泥	69	7.2	4.3	65.2	5.8	4.3	4.3
藤平	35	8.6	17.1	40.0	11.4	8.6	5.7
関根・松塚	38	5.3	2.6	63.2	10.5	5.3	5.3
臼石	56	3.6	3.6	66.1	12.5	7.1	1.8
前田	50	-	-	30.0	50.0	12.0	6.0
二枚橋・須萱	57	-	-	70.2	5.3	12.3	3.5
その他	5	20.0	-	40.0	40.0	-	-

3-1-2 世帯構成・人数

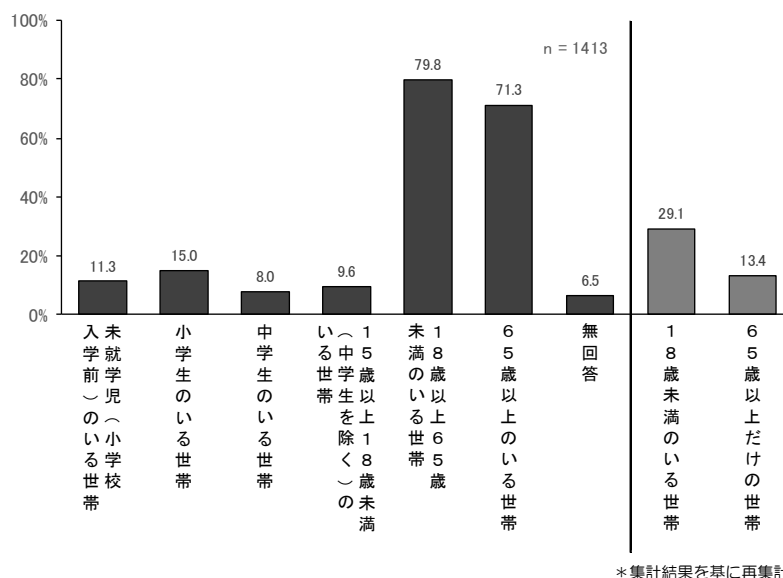
(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

問10 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

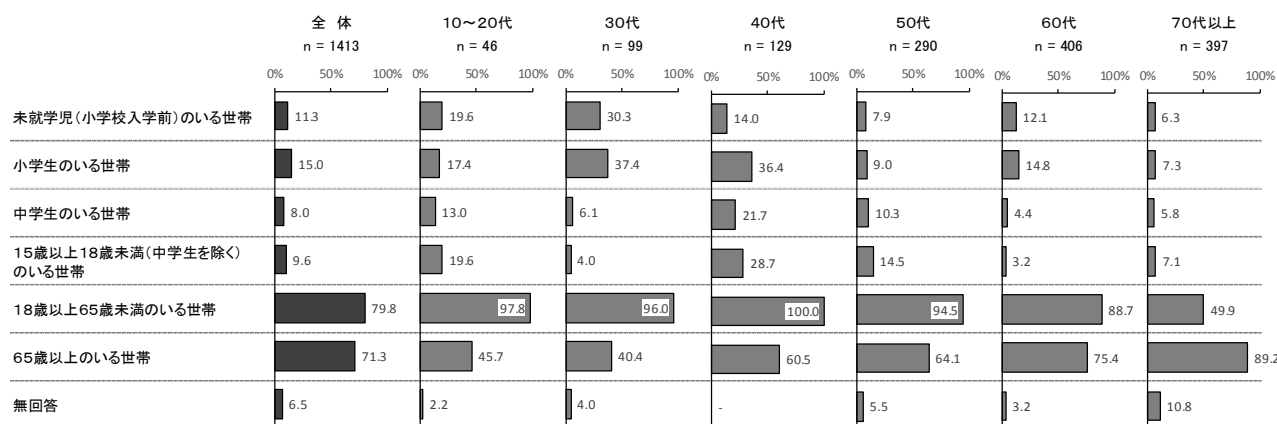
①震災発生当時の世帯構成

震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が79.8%、「65歳以上のいる世帯」が71.3%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(11.3%)、「小学生のいる世帯」(15.0%)、「中学生のいる世帯」(8.0%)、「15歳以上18歳未満(中学生を除く)のいる世帯」(9.6%)はいずれも1割前後となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>



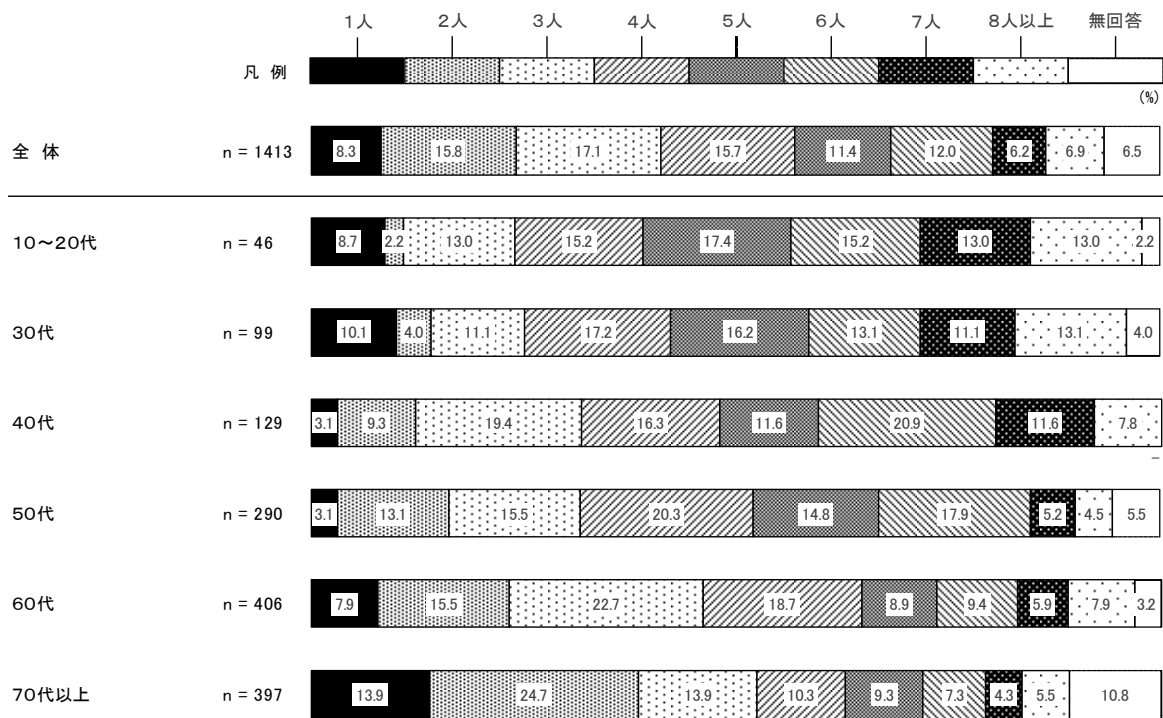
III 調査結果

②震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「3人」が17.1%と最も高く、次いで「2人」が15.8%、「4人」が15.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「3人」は60代（22.7%）、「2人」は70代以上（24.7%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数（年齢別）>



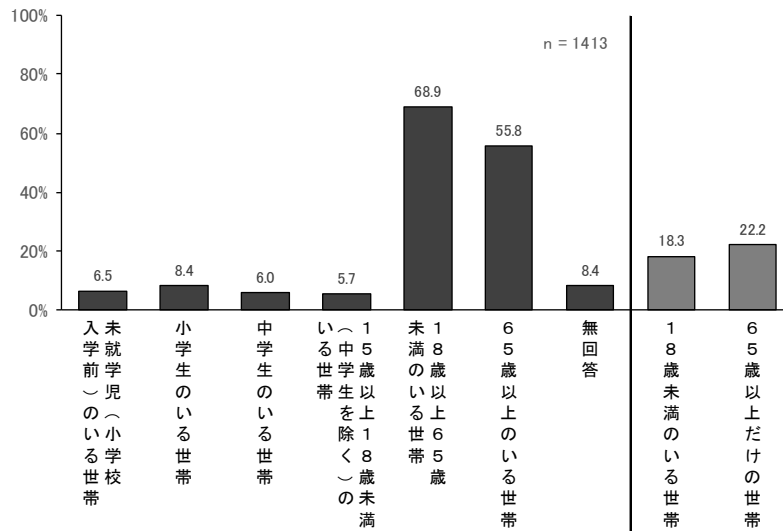
(2) 現在の世帯構成・人数

問 10-1 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

①現在の世帯構成

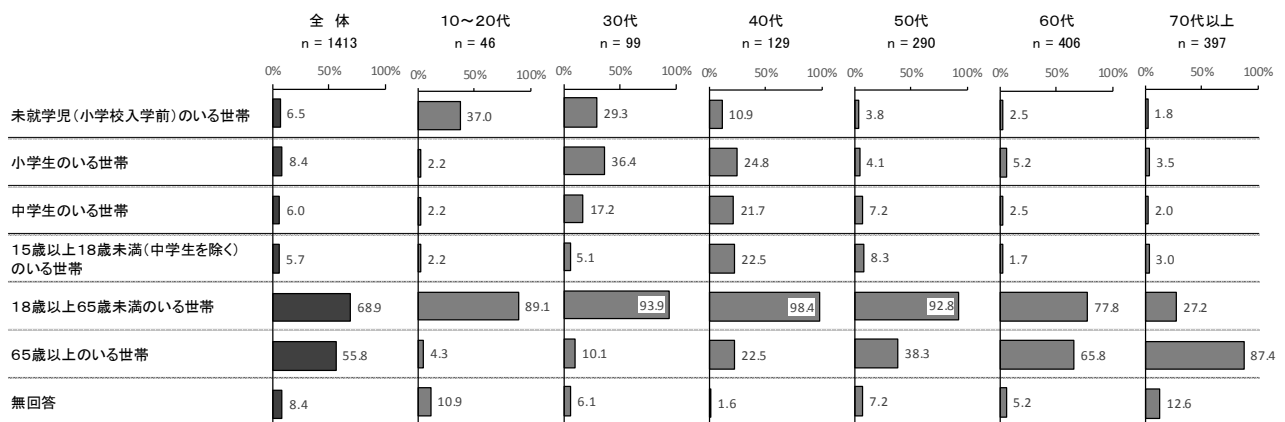
現在の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が68.9%、「65歳以上のいる世帯」が55.8%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(6.5%)、「小学生のいる世帯」(8.4%)、「中学生のいる世帯」(6.0%)、「15歳以上18歳未満(中学生を除く)のいる世帯」(5.7%)はいずれも1割を下回る。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



* 集計結果を基に再集計

<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>



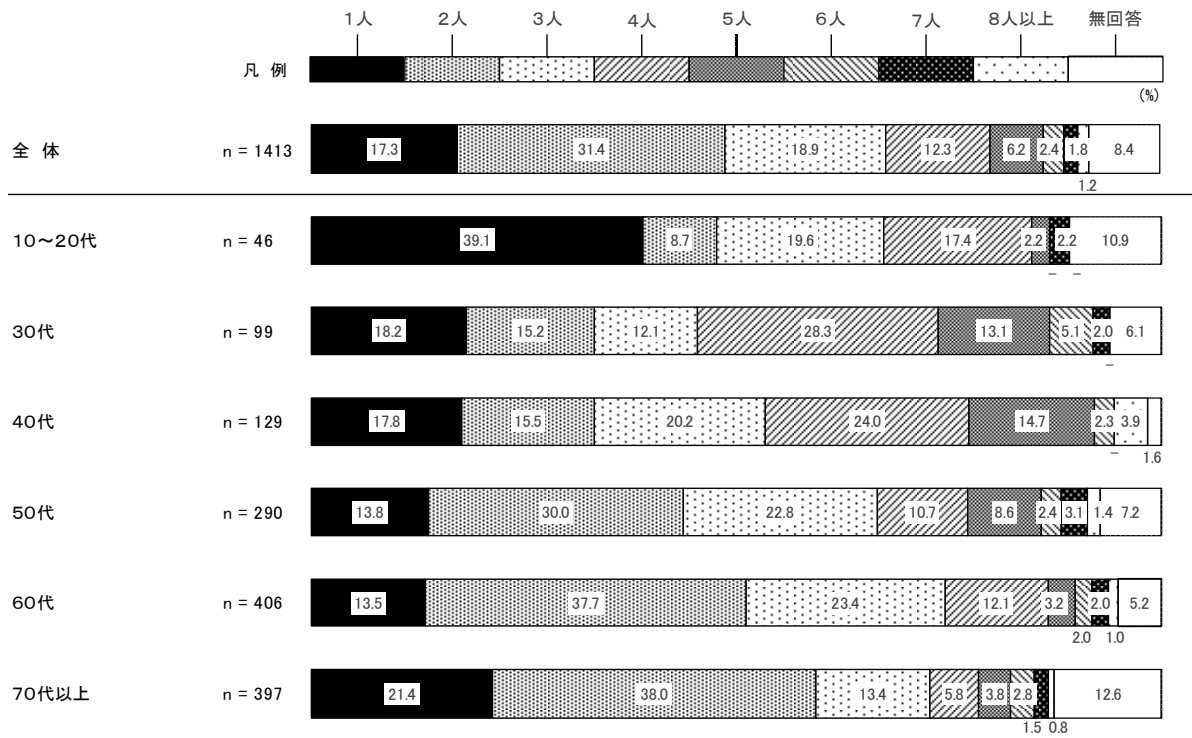
Ⅲ 調査結果

②現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2人」が31.4%と最も高く、次いで「3人」が18.9%、「1人」が17.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は60代(37.7%)、70代以上(38.0%)、「1人」は10~20代(39.1%)、「4人」は30代(28.3%)、40代(24.0%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-6 現在の世帯人数(年齢別)>



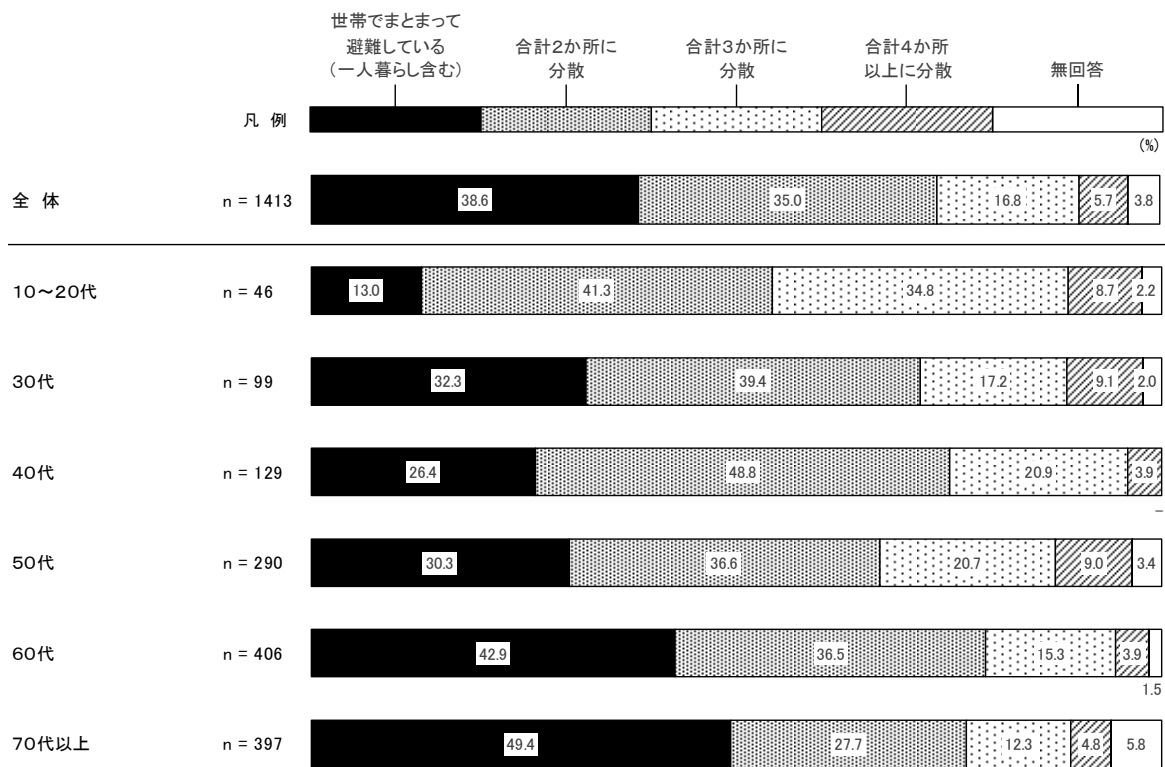
(3) 世帯の分散状況

問 10-2 震災発生当時一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(〇は1つ)

世帯の分散状況については、「世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む)」が38.6%と最も高く、次いで「合計2か所に分散」が35.0%、「合計3か所に分散」が16.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む)」は70代以上(49.4%)、「合計2か所に分散」は10~20代(41.3%)、40代(48.8%)、「合計3か所に分散」は10~20代(34.8%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-7 世帯の分散状況(年齢別)>



(4) 分散して住むことになった理由

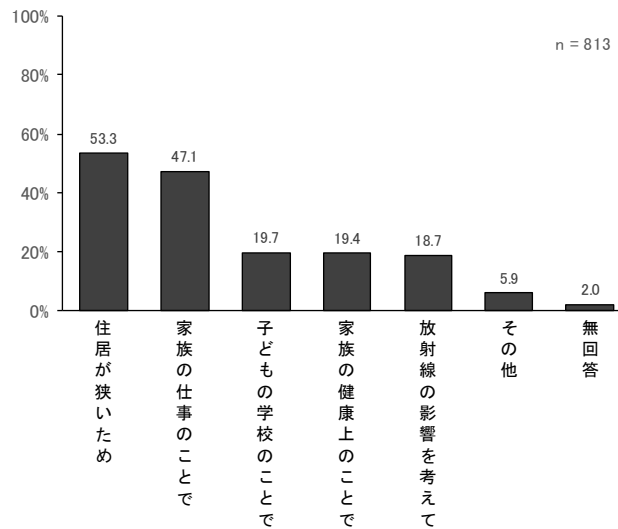
【問 10-2 で「2」「3」「4」と回答した方にうかがいます。】

問 10-3 分散して住むことになった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

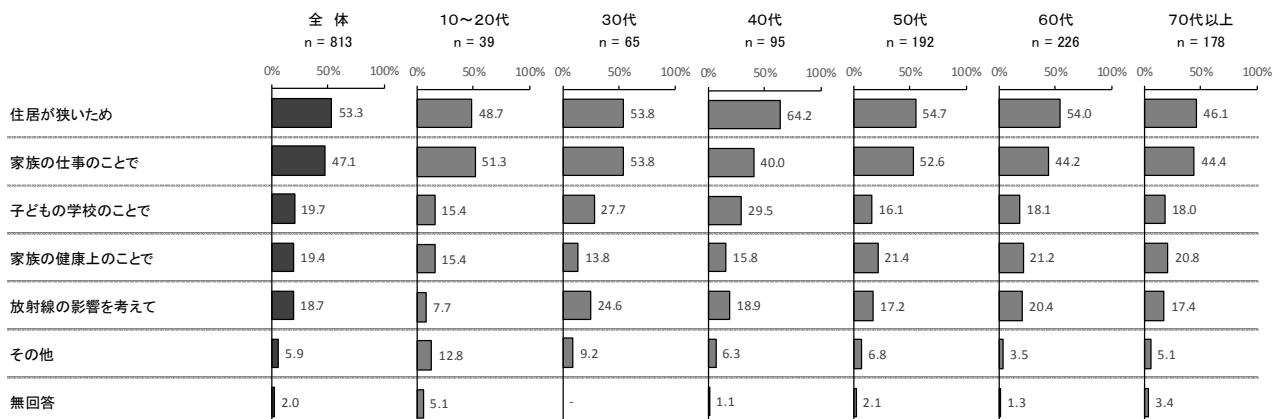
分散して住むことになった理由については、「住居が狭いため」が53.3%と最も高く、次いで「家族の仕事のことで」が47.1%、「子どもの学校のことで」が19.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「住居が狭いため」は40代(64.2%)、「家族の仕事のことで」は30代(53.8%)、50代(52.6%)、「子どもの学校のことで」は30代(27.7%)、40代(29.5%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-8 分散して住むことになった理由>

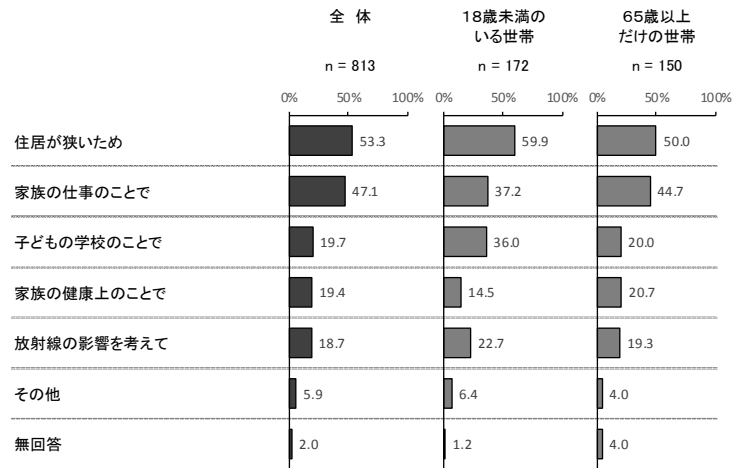


<図表3-1-2-9 分散して住むことになった理由(年齢別)>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では、「住居が狭いため」が59.9%、「子どもの学校のことで」が36.0%で、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-10 分散して住むことになった理由（世帯構成別）>



3-1-3 職業

(1) 震災発生当時の職業（就業形態）

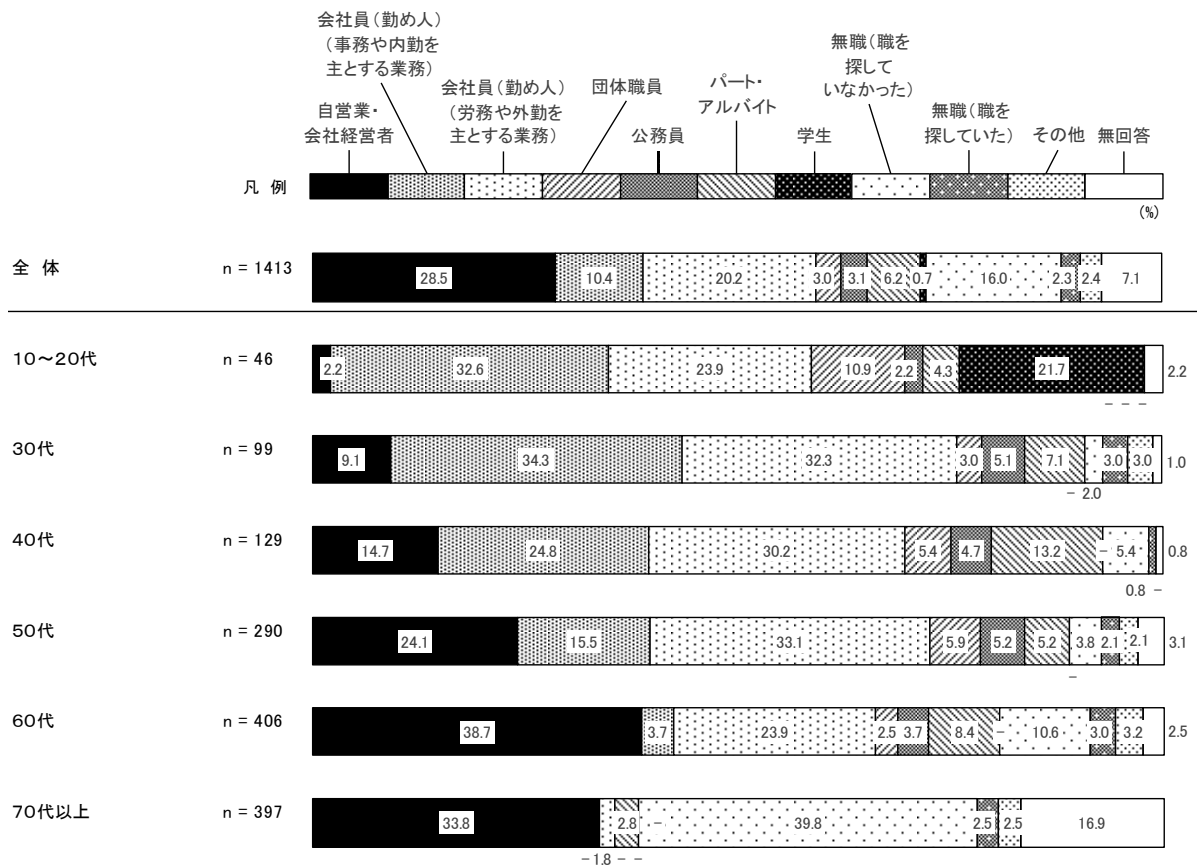
問8 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。なお、当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在市区町村も教えてください。また、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

震災発生当時の職業（就業形態）については、「無職（職を探していなかった・職を探していた）」以外では、「自営業・会社経営者」が28.5%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が20.2%、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が10.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「自営業・会社経営者」は60代（38.7%）、70代以上（33.8%）、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」は30代（32.3%）、40代（30.2%）、50代（33.1%）、70代以上（39.8%）、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」は10～20代（32.6%）、30代（34.3%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-1 震災発生当時の職業（年齢別）>



(2) 震災発生当時の業種

問8 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。なお、当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在市区町村も教えてください。また、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

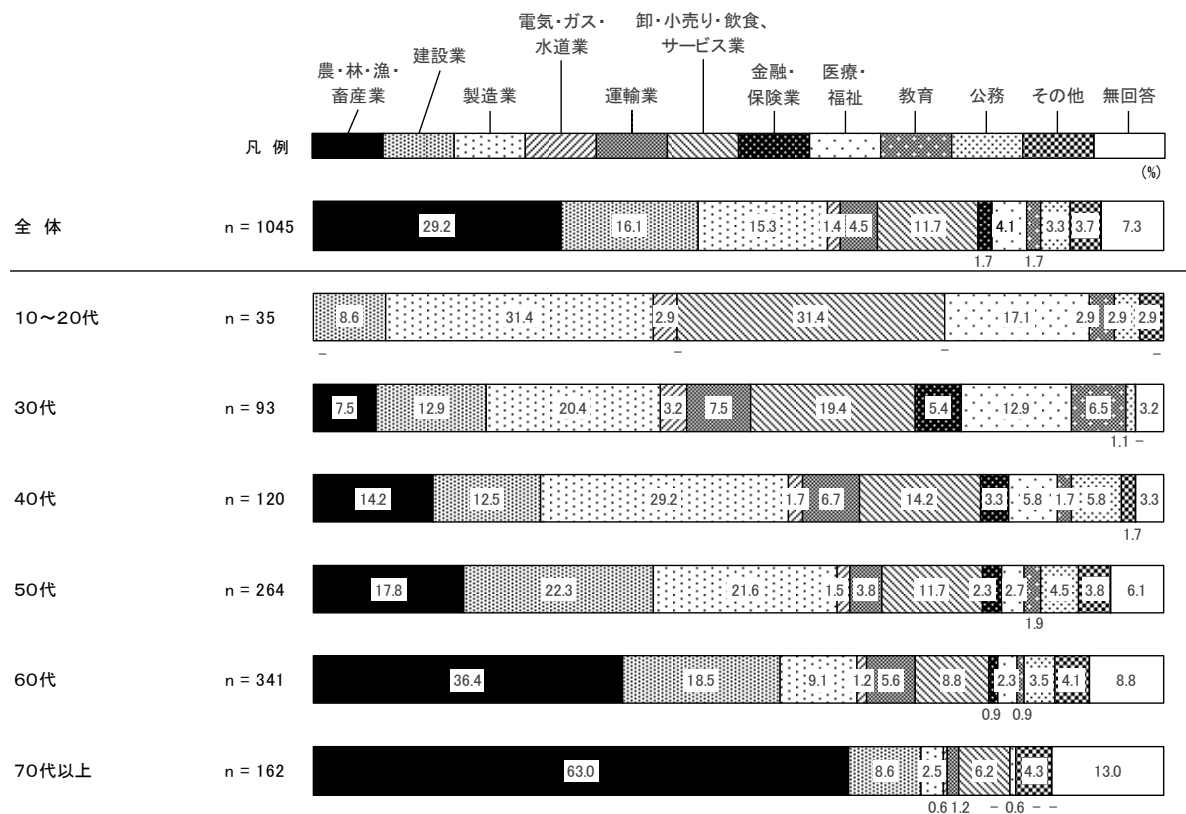
【問8(1)で「1」～「6」、「10」と回答した方にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

震災発生当時の業種については、「農・林・漁・畜産業」が29.2%と最も高く、次いで「建設業」が16.1%、「製造業」が15.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「農・林・漁・畜産業」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなっており、70代以上は63.0%となっている。「建設業」は50代(22.3%)で、「製造業」は10~20代(31.4%)、40代(29.2%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-2 震災発生当時の業種(年齢別)>



(3) 震災発生当時の就業先

問8 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。なお、当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在市区町村も教えてください。また、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

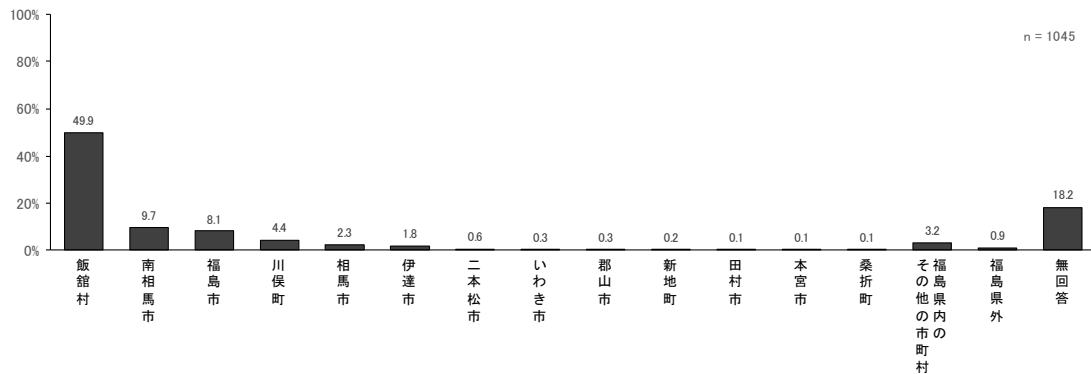
【問8(1)で「1」～「6」、「10」と回答した方にうかがいます。】

(3) 就業先の所在市区町村

震災発生当時の就業先については、「飯舘村」が49.9%と最も高く、次いで「南相馬市」が9.7%、「福島市」が8.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「飯舘村」は70代以上(56.2%)、「南相馬市」は30代(15.1%)、「福島市」は10～20代(14.3%)、40代(15.0%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-3 震災発生当時の就業先>



<図表3-1-3-4 震災発生当時の就業先(年齢別)>

	n	飯舘村	南相馬市	福島市	川俣町	相馬市	伊達市	二本松市	いわき市	郡山市	新地町	田村市	本宮市	桑折町	その他の市内の町村	福島県外	無回答
全体	1045	49.9	9.7	8.1	4.4	2.3	1.8	0.6	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	3.2	0.9	18.2
10～20代	35	45.7	8.6	14.3	8.6	-	-	5.7	-	2.9	-	-	-	-	2.9	-	11.4
30代	93	44.1	15.1	7.5	5.4	6.5	-	-	-	-	1.1	-	1.1	-	4.3	2.2	12.9
40代	120	50.8	10.0	15.0	9.2	0.8	-	1.7	-	0.8	-	-	-	-	1.7	1.7	8.3
50代	264	47.0	11.4	8.0	6.4	1.5	3.0	0.8	0.8	-	0.4	-	-	-	4.5	0.8	15.5
60代	341	50.4	9.1	8.2	2.9	2.9	2.9	-	0.3	0.3	-	-	-	-	2.3	0.9	19.6
70代以上	162	56.2	3.7	2.5	-	1.2	0.6	-	-	-	-	0.6	-	0.6	3.1	-	31.5

(4) 現在の職業（就業形態）

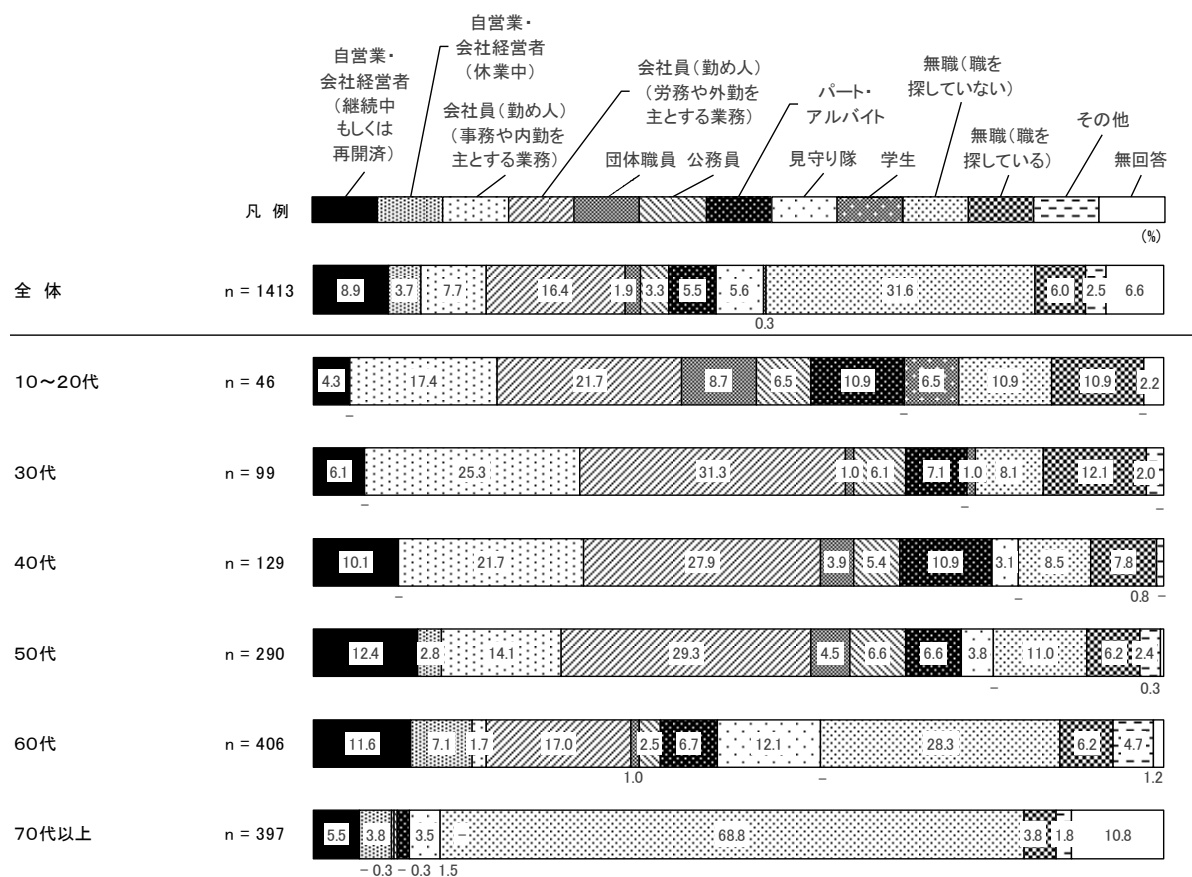
問3 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

現在の職業（就業形態）については、「無職」（職を探していない・職を探している）以外では、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が16.4%、「自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）」が8.9%、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が7.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」は30代（31.3%）、40代（27.9%）、50代（29.3%）、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」は30代（25.3%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

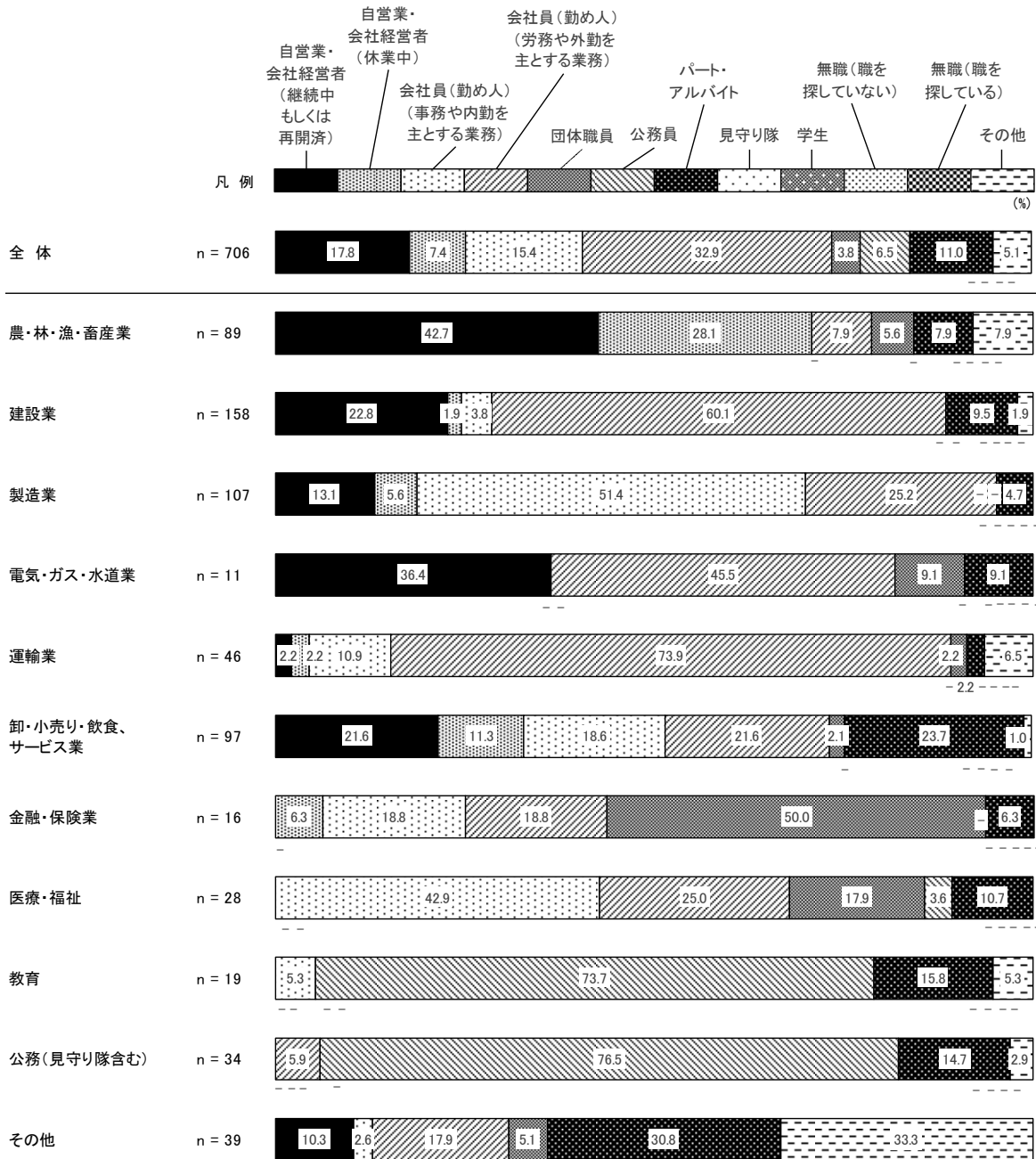
<図表3-1-3-5 現在の職業（年齢別）>



III 調査結果

業種別にみると、建設業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（60.1%）、製造業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」（51.4%）、卸・小売り・飲食、サービス業では「パート・アルバイト」（23.7%）が、他の業種と比べて高くなっている。

＜図表3-1-3-6 現在の職業（業種別）＞



(5) 現在の業種

問3 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

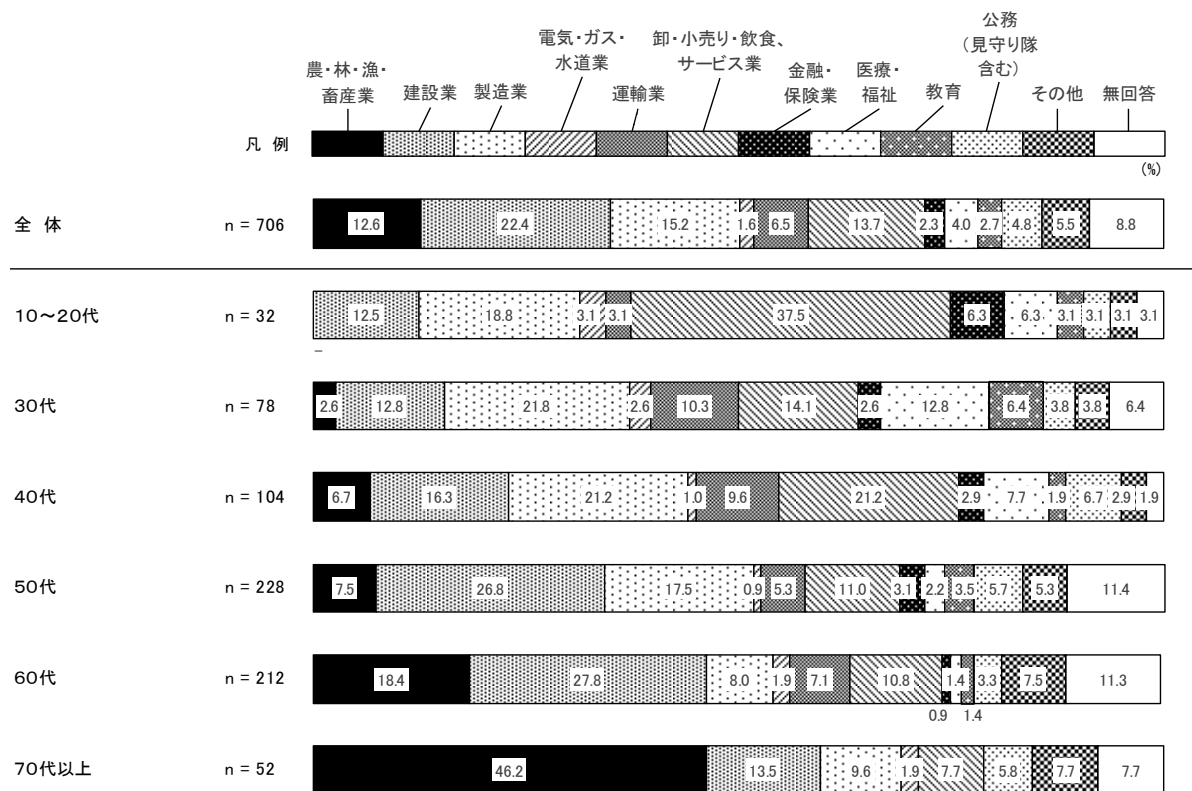
【問3(1)で「1」～「7」、「12」と回答した方にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

現在の業種については、「建設業」が22.4%と最も高く、次いで「製造業」が15.2%、「卸・小売り・飲食、サービス業」が13.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は50代(26.8%)、60代(27.8%)、「卸・小売り・飲食、サービス業」は10~20代(37.5%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-7 現在の業種(年齢別)>



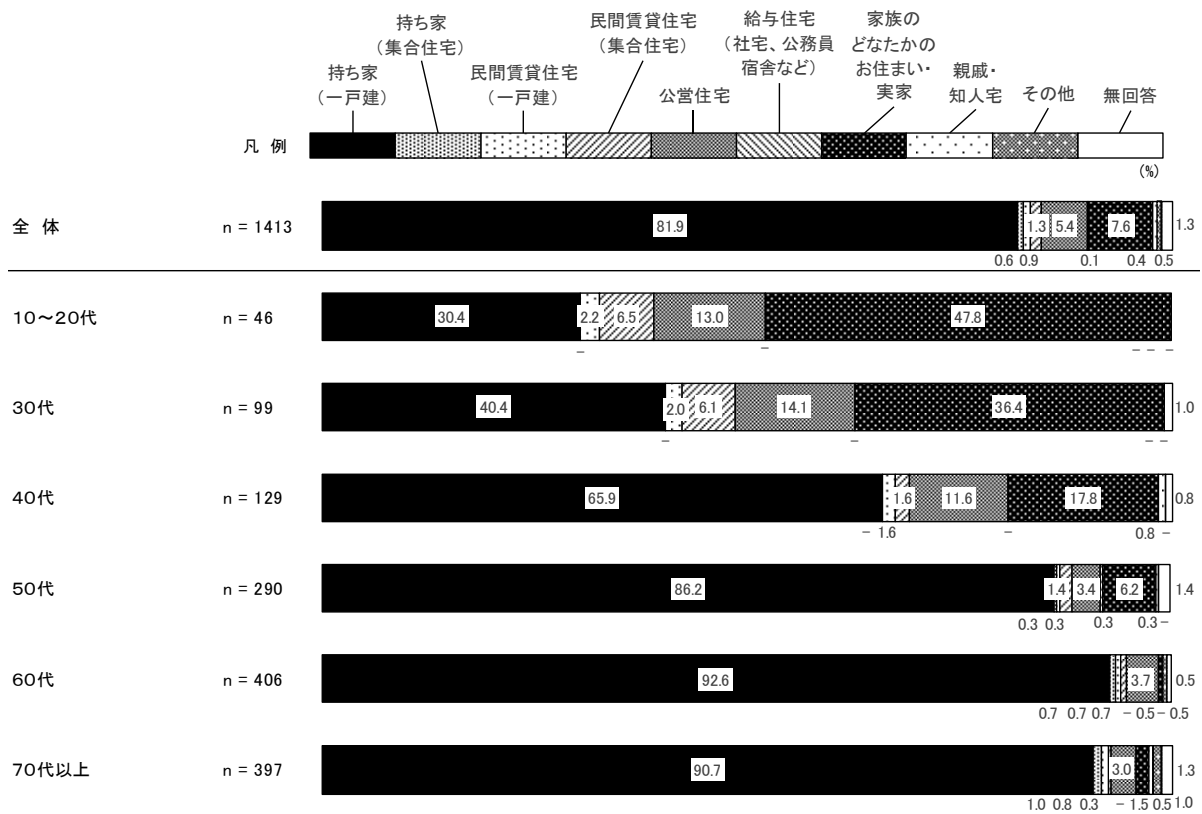
3-1-4 震災発生当時の住居形態

問5 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が81.9%と最も高く、次いで「家族のどなたかのお住まい・実家」が7.6%、「公営住宅」が5.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は年齢が高いほど割合が高くなる傾向にあり、60代では92.6%、70代以上では90.7%と9割以上を占めている。一方、「家族のどなたかのお住まい・実家」は10～20代（47.8%）、30代（36.4%）、「公営住宅」は10～20代（13.0%）、30代（14.1%）、40代（11.6%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態（年齢別）>



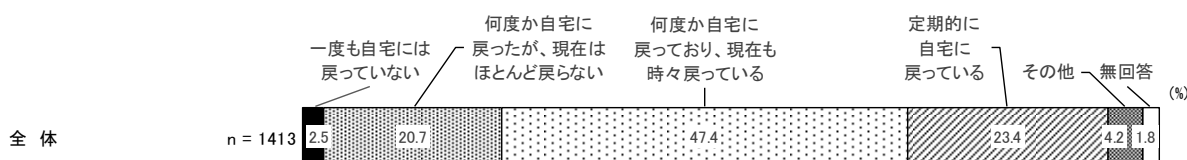
3-1-5 避難前の自宅へ戻る頻度

問6 あなた（もしくはあなたのご家族）は、避難後に、避難前のご自宅へどの程度戻られていますか（一時帰宅の形も含めます）。（〇は1つ）

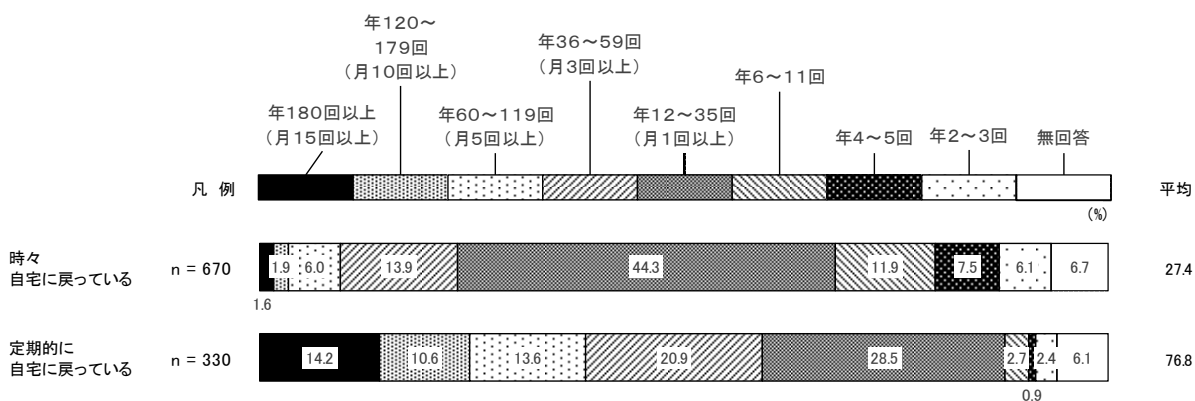
避難前の自宅へ戻る頻度については、「何度か自宅に戻っており、現在も時々戻っている」が47.4%と最も高く、次いで「定期的に自宅に戻っている」が23.4%、「何度か自宅に戻ったが、現在はほとんど戻らない」が20.7%となっている。

現在も時々戻っている、定期的に戻っている方の、避難前の自宅へ戻る回数については、現在も時々自宅に戻っている、定期的に戻っている方ともに「年12～35回（月1回以上）」（44.3%、28.5%）が最も高くなっている。なお、避難前の自宅に戻る年間平均回数は「何度か自宅に戻っており、現在も時々戻っている」が27.4回、「定期的に自宅に戻っている」が76.8回となっている。

<図表3-1-5-1 避難前の自宅へ戻る頻度>



<図表3-1-5-2 避難前の自宅へ戻る回数（年換算）>

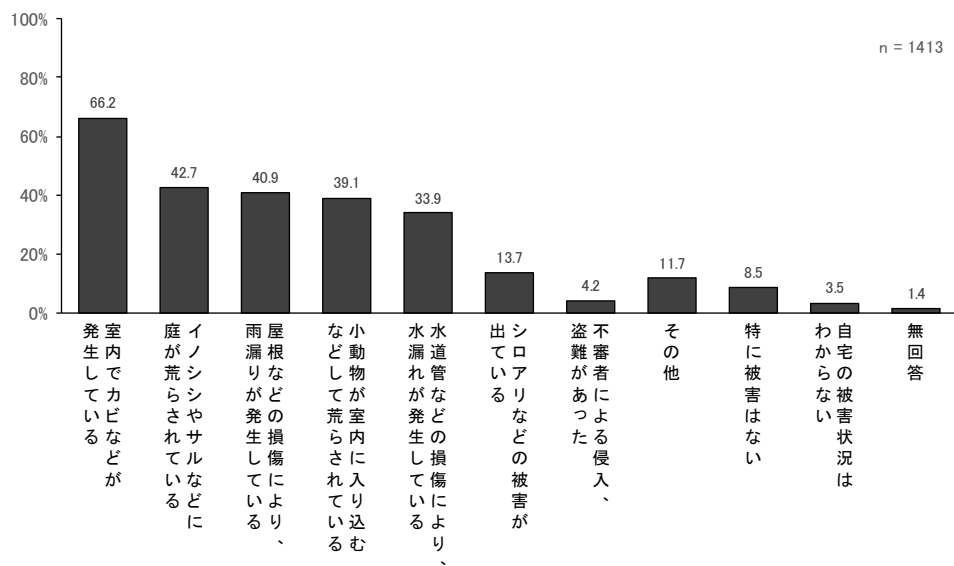


3-1-6 避難で留守にしている間の自宅の被害状況

問7 避難で留守にしている間の、ご自宅の被害状況についてうかがいます。わかる範囲でお答えください。(〇はいくつでも)

避難で留守にしている間の自宅の被害状況については、「室内でカビなどが発生している」が66.2%と最も高く、次いで「イノシシやサルなどに庭が荒らされている」が42.7%、「屋根などの損傷により、雨漏りが発生している」が40.9%となっている。

<図表3-1-6-1 避難で留守にしている間の自宅の被害状況>



震災発生当時の行政区別にみると、いずれの行政区でも「室内でカビなどが発生している」の割合が最も高い。また、小宮、八木沢・芦原、大倉、佐須、宮内、長泥では「イノシシやサルなどに庭が荒らされている」が5割以上、大倉、佐須、宮内、長泥では「屋根などの損傷により、雨漏りが発生している」も5割以上となっている。

<図表3-1-6-2 避難で留守にしている間の自宅の被害状況（震災発生当時の行政区別）>

		(%)																		
	n	発生室内でカビなどが	い庭が荒らされている	イノシシやサルなど	より、雨漏りが発生している	屋根などの損傷に	荒らされている	入り込むなどして	小動物が室内に	より、水漏れが	水道管などの損傷に	被害が出ている	シロアリなどの	盗難があった	不審者による侵入、	その他	特に被害はない	わからない	自宅の被害状況は	無回答
全 体	1413	66.2	42.7	40.9	39.1	33.9	13.7	4.2	11.7	8.5	3.5	1.4								
草野	172	61.6	19.8	27.9	27.3	35.5	9.9	0.6	15.7	9.9	7.6	2.9								
深谷	72	59.7	47.2	33.3	29.2	30.6	8.3	5.6	13.9	12.5	4.2	-								
伊丹沢	83	68.7	36.1	42.2	37.3	30.1	12.0	1.2	13.3	8.4	1.2	1.2								
関沢	72	66.7	54.2	40.3	36.1	47.2	16.7	1.4	11.1	4.2	2.8	1.4								
小宮	103	73.8	52.4	48.5	46.6	33.0	13.6	3.9	13.6	10.7	1.9	-								
八木沢・芦原	29	72.4	58.6	31.0	41.4	37.9	13.8	-	13.8	6.9	-	-								
大倉	32	75.0	71.9	50.0	50.0	25.0	37.5	12.5	12.5	-	-	-								
佐須	58	77.6	67.2	50.0	29.3	44.8	19.0	5.2	17.2	1.7	1.7	-								
宮内	56	73.2	60.7	57.1	60.7	32.1	16.1	1.8	10.7	3.6	1.8	-								
飯樋町	94	52.1	17.0	39.4	45.7	24.5	12.8	4.3	7.4	16.0	6.4	-								
前田・八和木	68	61.8	42.6	47.1	22.1	27.9	16.2	2.9	13.2	10.3	1.5	-								
大久保・外内	52	67.3	40.4	42.3	32.7	25.0	17.3	-	11.5	11.5	3.8	-								
上飯樋	121	67.8	42.1	38.0	45.5	33.9	10.7	8.3	9.1	7.4	6.6	0.8								
比曾	67	65.7	55.2	46.3	47.8	44.8	19.4	3.0	10.4	7.5	1.5	-								
長泥	69	72.5	68.1	44.9	55.1	43.5	13.0	1.4	5.8	5.8	-	1.4								
蕨平	35	74.3	42.9	54.3	57.1	45.7	14.3	8.6	11.4	-	2.9	-								
関根・松塚	38	76.3	42.1	44.7	42.1	31.6	18.4	-	13.2	2.6	2.6	2.6								
臼石	56	67.9	23.2	33.9	28.6	23.2	8.9	7.1	10.7	19.6	3.6	-								
前田	50	70.0	48.0	44.0	44.0	34.0	8.0	22.0	6.0	10.0	2.0	-								
二枚橋・須蓋	57	57.9	42.1	36.8	35.1	38.6	15.8	3.5	14.0	7.0	3.5	-								
その他	5	40.0	20.0	40.0	20.0	-	-	-	20.0	20.0	20.0	-								

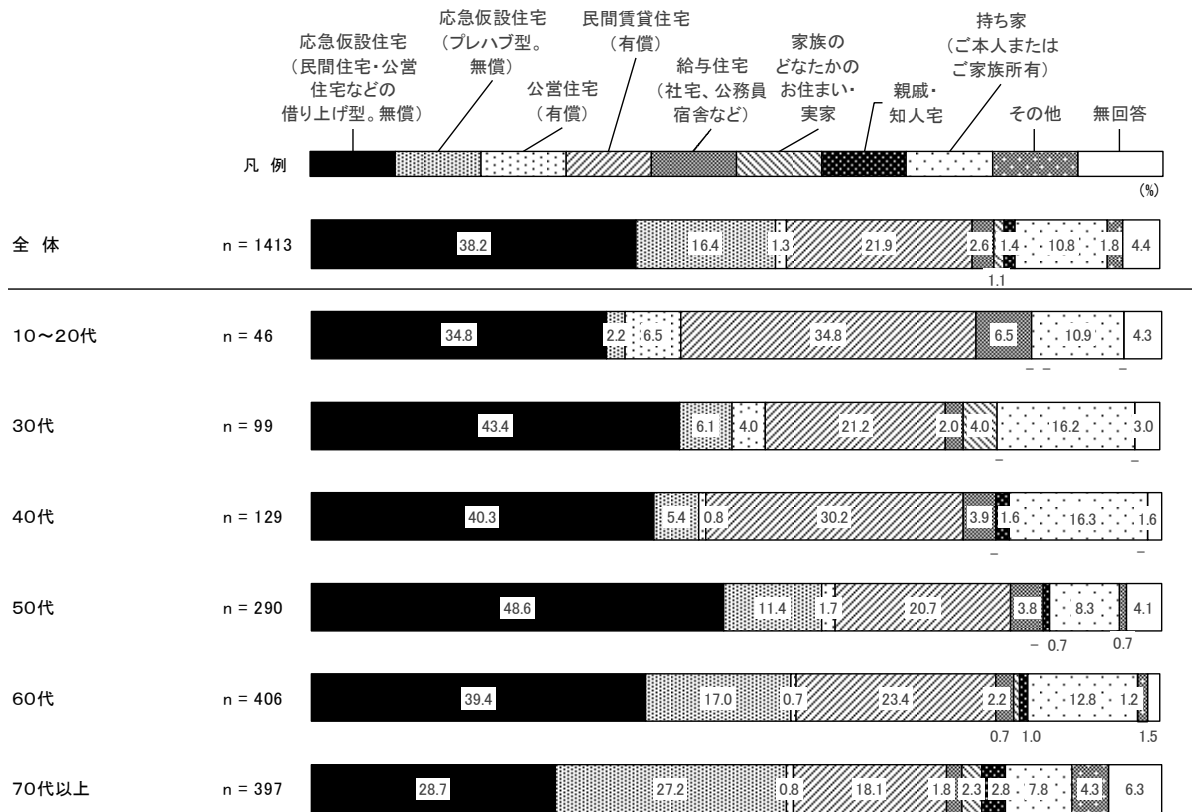
3-1-7 現在の住居形態

問 11 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が38.2%と最も高く、次いで「民間賃貸住宅（有償）」が21.9%、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」が16.4%となっている。

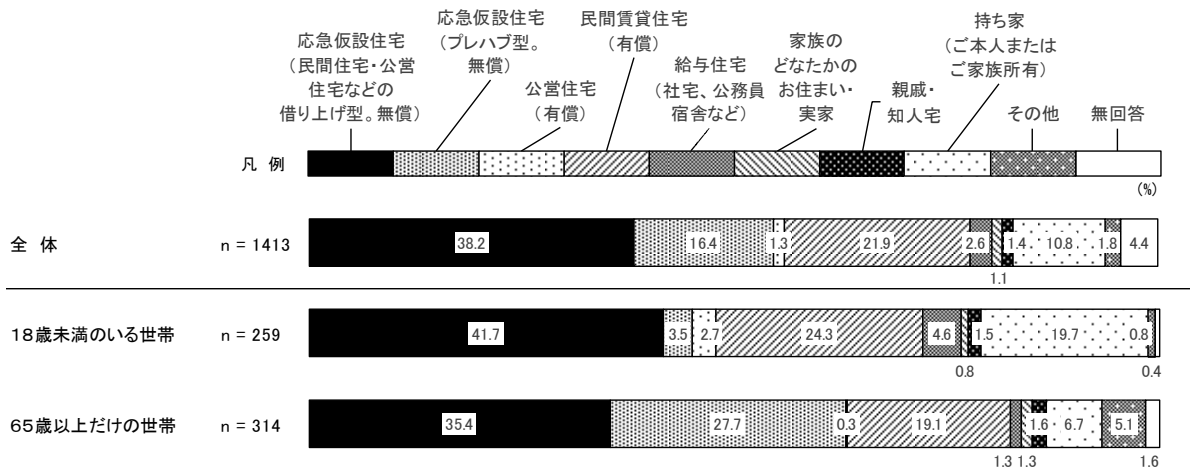
回答者の年齢別にみると、30代以上では「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が最も高い割合となっているが、70代以上では「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」（27.2%）も高い割合となっている。10～20代では「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」、「民間賃貸住宅（有償）」がともに34.8%となっている。

<図表3-1-7-1 現在の住居形態（年齢別）>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯、65歳以上だけの世帯ともに「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」（41.7%、35.4%）が最も高くなっているが、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は18歳未満のいる世帯は3.5%であるのに対し、65歳以上だけの世帯は27.7%となっている。

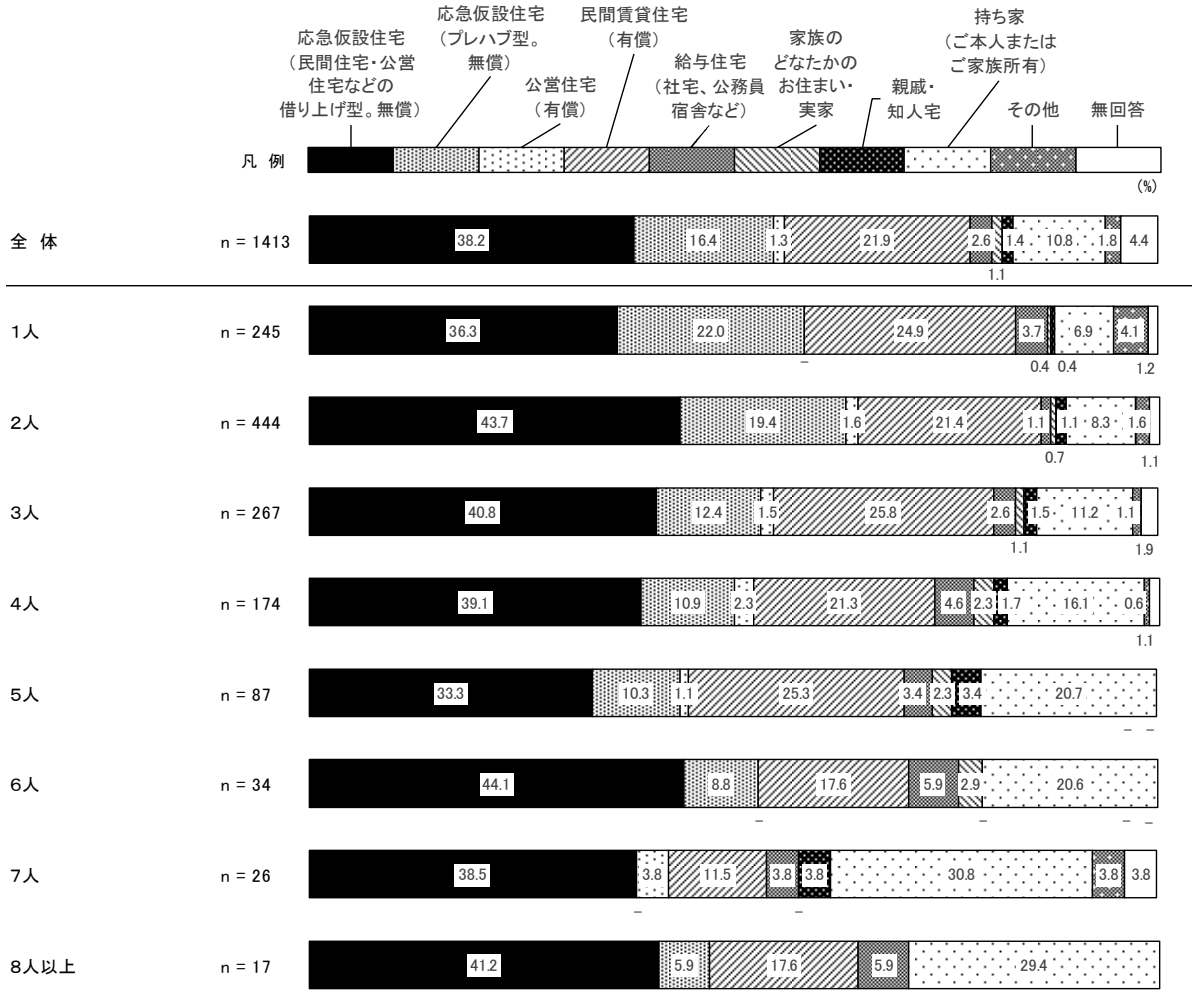
<図表3-1-7-2 現在の住居形態（世帯構成別）>



III 調査結果

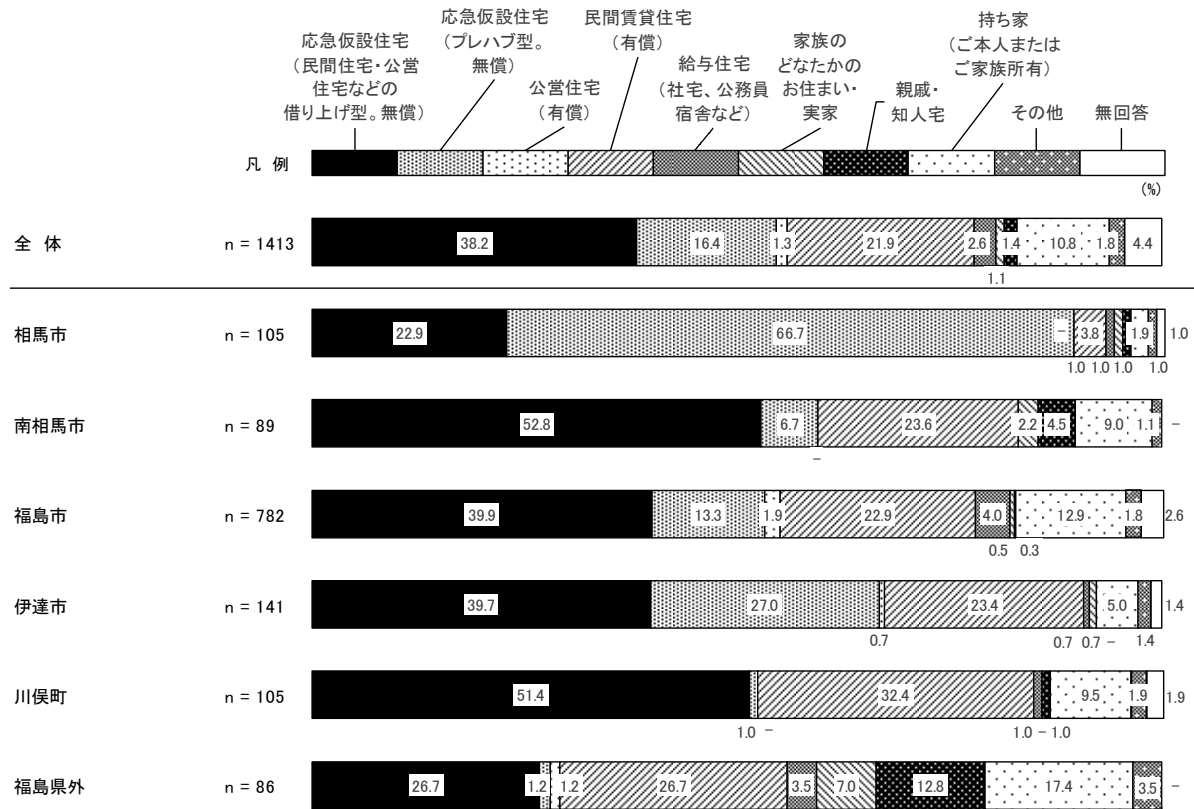
世帯人数別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は2人（43.7%）、6人（44.1%）で、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は1人（22.0%）が高くなっている。一方、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は世帯人数が多くなるほど割合が高くなり、5人では20.7%、6人では20.6%となっている。

<図表3-1-7-3 現在の住居形態（世帯人数別）>



主な避難先自治体別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は南相馬市、川俣町では半数を占めている。「民間賃貸住宅（有償）」は南相馬市、福島市、伊達市、川俣町、福島県外では2～3割を占めるが、相馬市は3.8%となっている。一方、「応急仮設住宅（プレハブ型無償）」は相馬市で66.7%と、他の自治体と比べて高くなっている。

<図表3-1-7-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>



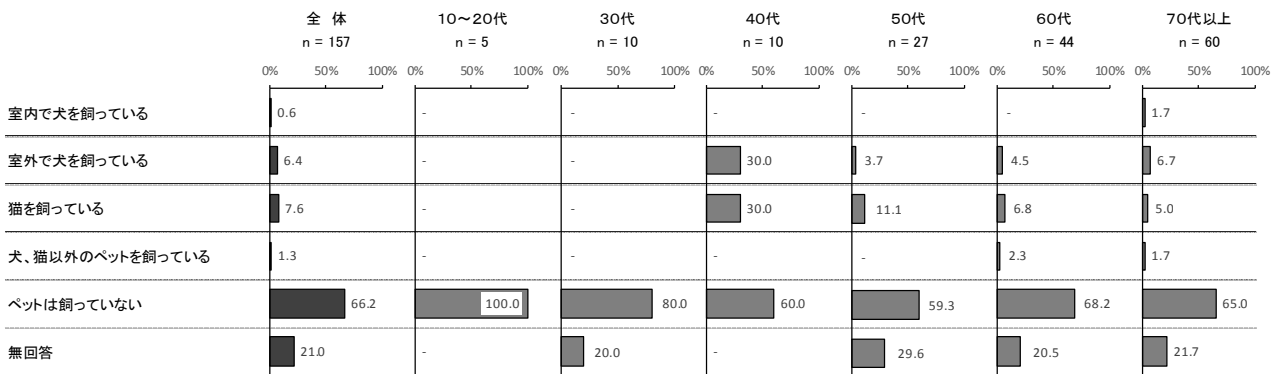
3-1-8 現在のペットの飼育状況

【問 12で「1」、「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

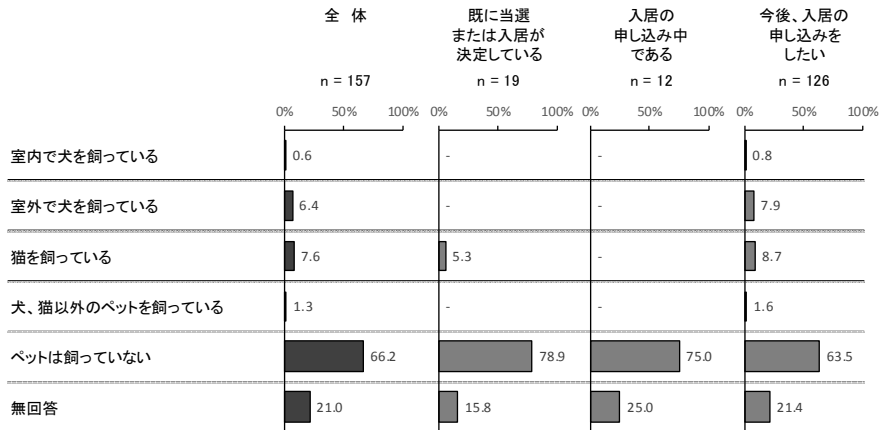
問 12-3 現在、ペットを飼っていますか。(〇はいくつでも)

現在のペットの飼育状況については、「ペットは飼っていない」が66.2%と最も高く、次いで「猫を飼っている」が7.6%、「室外で犬を飼っている」が6.4%となっている。

<図表3-1-8-1 ペットの飼育状況（年齢別）>



<図表3-1-8-2 ペットの飼育状況（復興公営住宅への入居意向別）>



3-2 復興公営住宅の入居意向

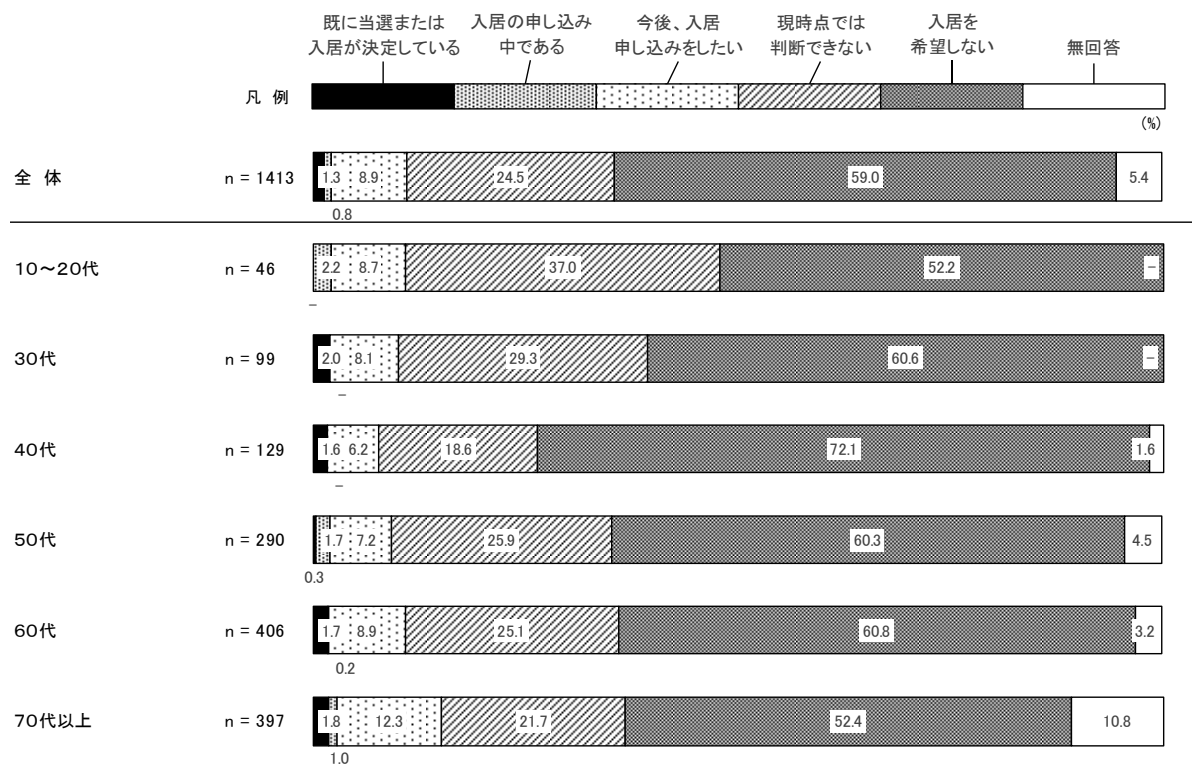
3-2-1 復興公営住宅への入居意向

問 12 現在、福島県は（調査票）6 頁に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。（〇は1つ）

復興公営住宅への入居意向については、「入居を希望しない」が59.0%と最も高く、次いで「現時点では判断できない」が24.5%、「今後、入居申し込みをしたい」が8.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「入居を希望しない」はいずれの年齢でも最も高いが、「現時点では判断できない」は10～20代（37.0%）と、他の年齢と比べて高くなっている

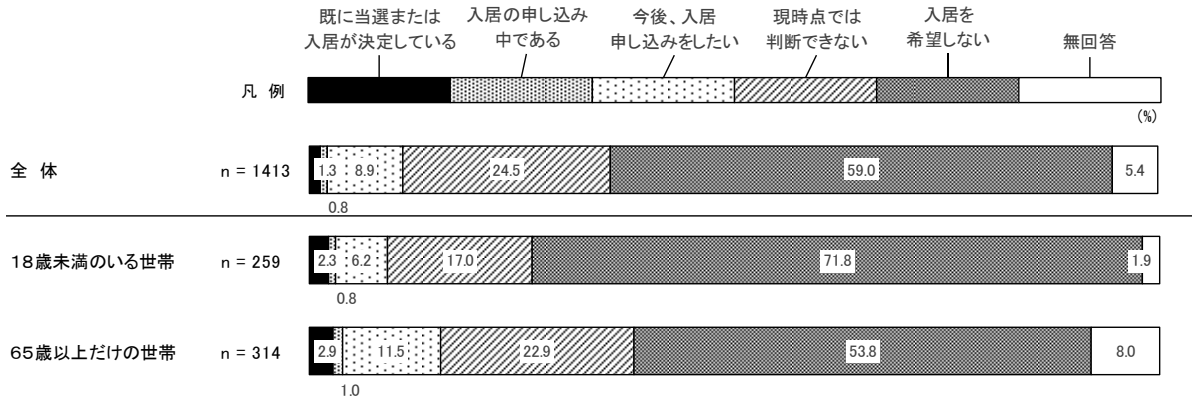
<図表3-2-1-1 復興公営住宅への入居意向（年齢別）>



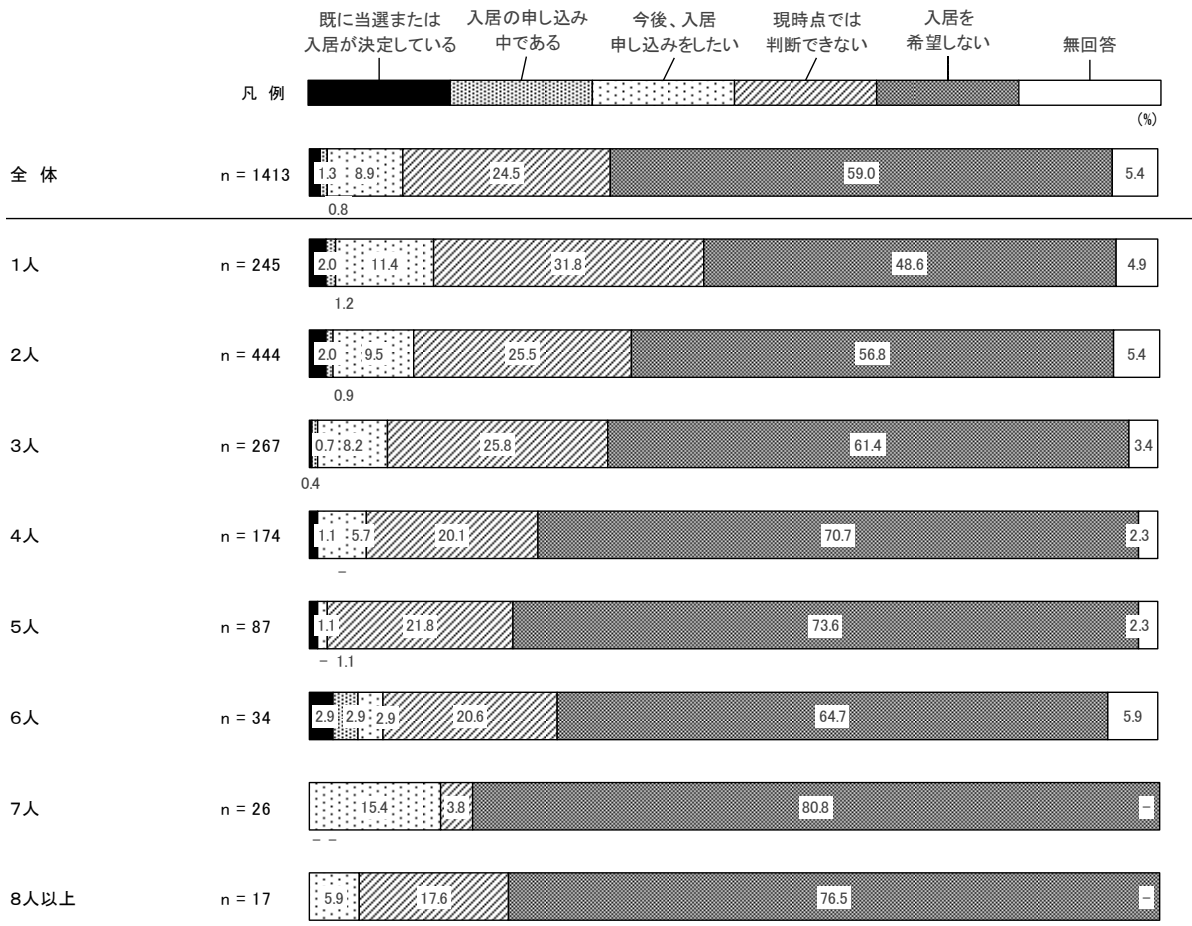
世帯構成別にみると、「入居を希望しない」は、18歳未満のいる世帯では71.8%となっており、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。

世帯人数別にみると、「入居を希望しない」は人数が多いほど割合が高くなる傾向にある。一方、「現時点では判断できない」は世帯人数が1人の世帯で31.8%と高くなっている。

<図表3-2-1-2 復興公営住宅への入居意向（世帯構成別）>

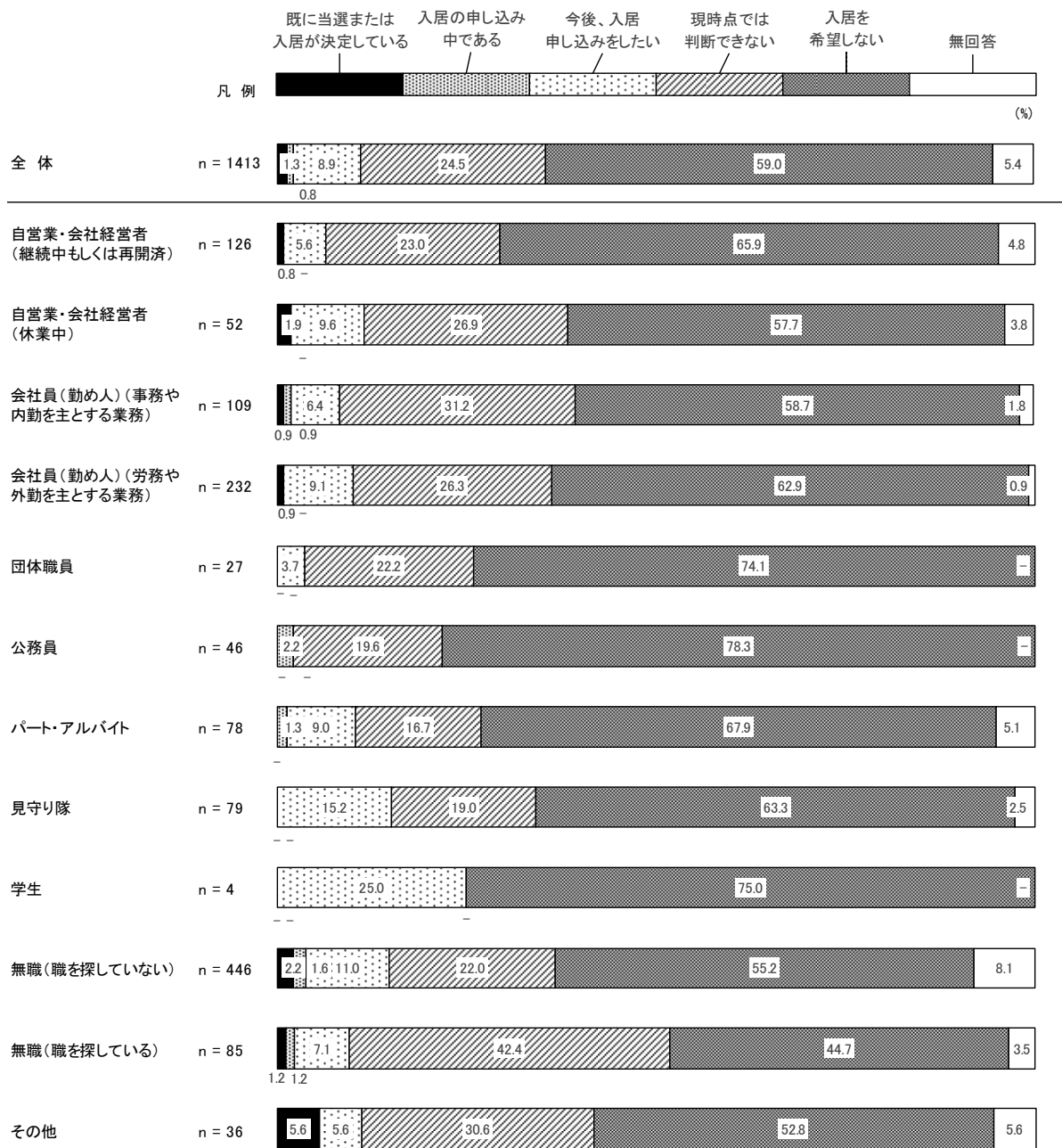


<図表3-2-1-3 復興公営住宅への入居意向（世帯人数別）>



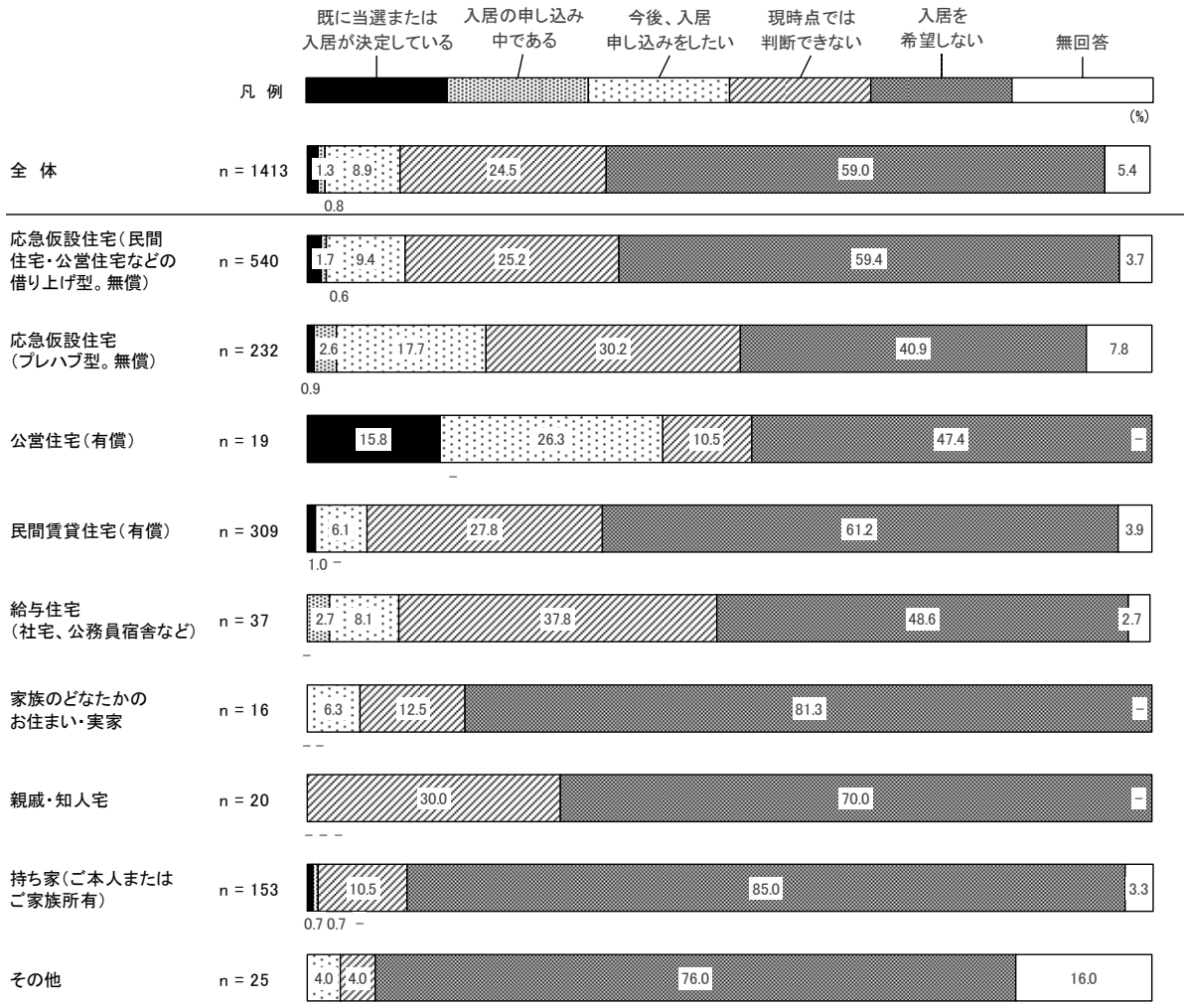
現在の職業別にみると、「今後、入居申し込みをしたい」は見守り隊（15.2%）で他の職業と比べて高くなっている。「現時点では判断できない」は会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）（31.2%）、無職（職を探している）（42.4%）で他の職業と比べて高くなっている。

<図表3-2-1-4 復興公営住宅への入居意向（現在の職業別）>



現在の住居形態別にみると、「今後、入居申し込みをしたい」は応急仮設住宅(プレハブ型。無償)(17.7%)、「現時点では判断できない」は応急仮設住宅(プレハブ型。無償)(30.2%)、給与住宅(社宅、公務員宿舎など)(37.8%)で、他の住居形態と比べて割合が高くなっている。

<図表3-2-1-5 復興公営住宅への入居意向(現在の住居形態別)>



3-2-2 復興公営住宅への入居を希望する自治体と世帯構成

【問 12 で「1」、「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

※家族が多い等の理由により、復興公営住宅を2戸借りられる方（希望も含む）は、＜2世帯目＞の列にもお答えください。

＜1世帯目＞

- (1) 市町村名を教えてください。(〇はひとつ)
- (2) 入居する際の家族構成をご記入ください。(人数で回答)

＜2世帯目＞

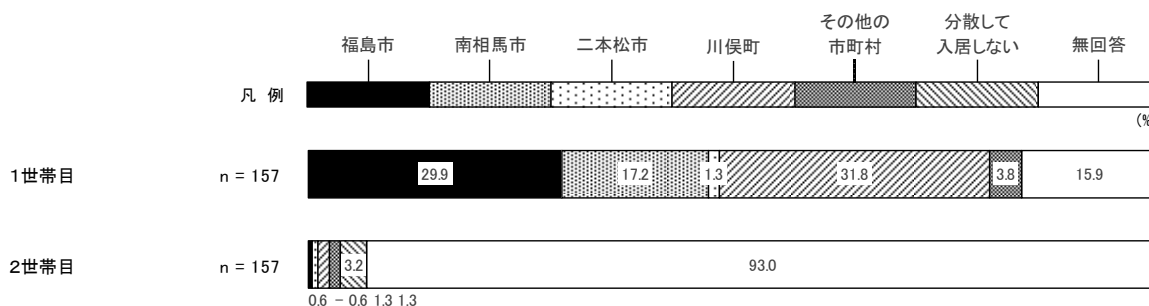
- (1) 市町村名を教えてください。(〇はひとつ)
- (2) 入居する際の家族構成をご記入ください。(人数で回答)

＜1世帯目＞の復興公営住宅への入居を希望する自治体については、「川俣町」が31.8%と最も高く、次いで「福島市」が29.9%、「南相馬市」が17.2%となっている。

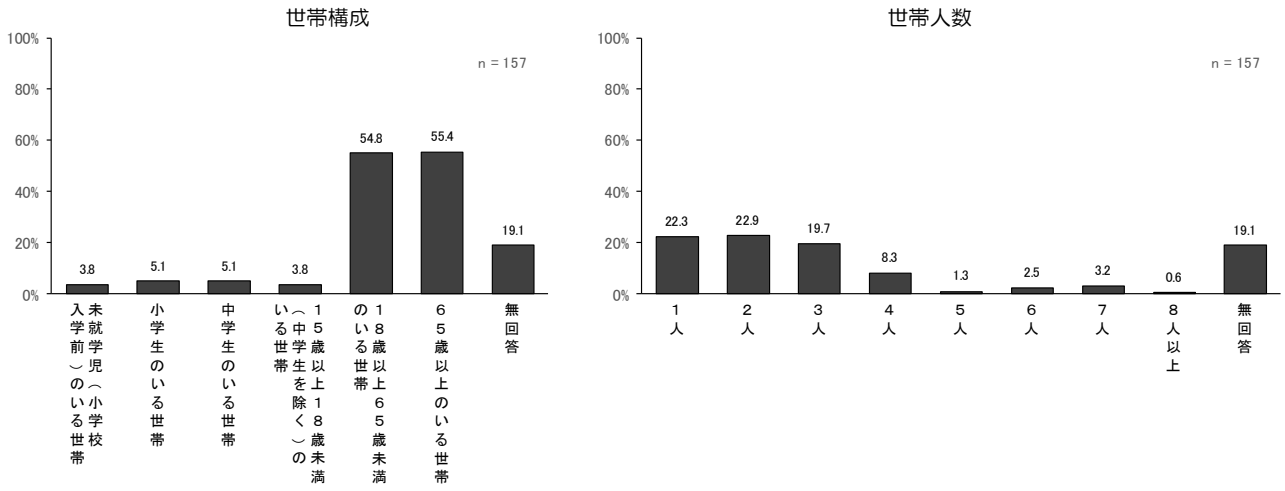
世帯構成（1世帯目）については、「65歳以上のいる世帯」が55.4%と最も高く、次いで「18歳以上65歳未満のいる世帯」が54.8%となっている。世帯人数（1世帯目）については、「2人」が22.9%と最も高く、次いで「1人」が22.3%、「3人」が19.7%となっている。

＜2世帯目＞については、入居を希望する世帯のうち、3.8%が2世帯目の入居を希望している。

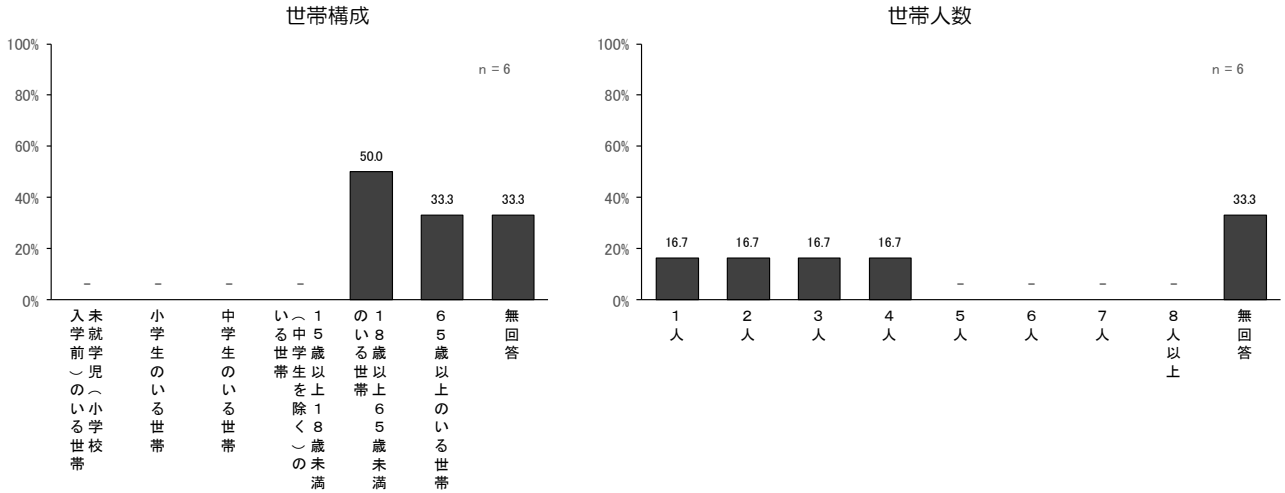
＜図表3-2-2-1 入居を希望する自治体＞



<図表3-2-2-2 入居を希望する世帯構成・人数（1世帯目）>

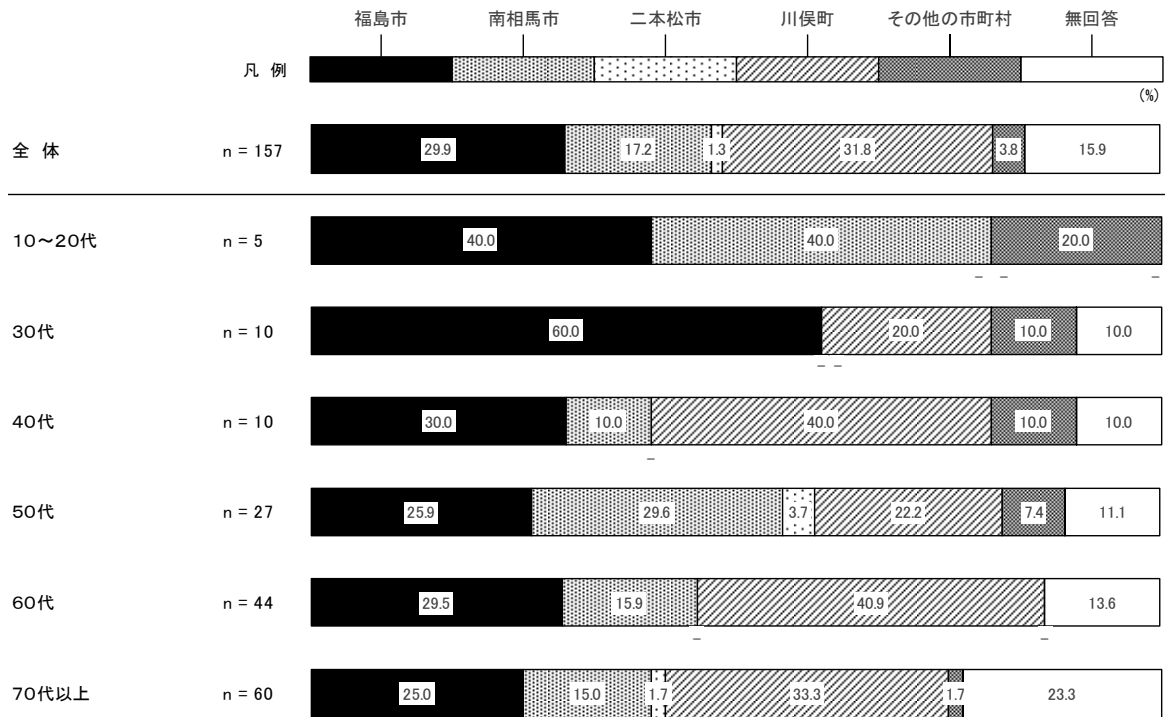


<図表3-2-2-3 入居を希望する世帯構成・人数（2世帯目）>



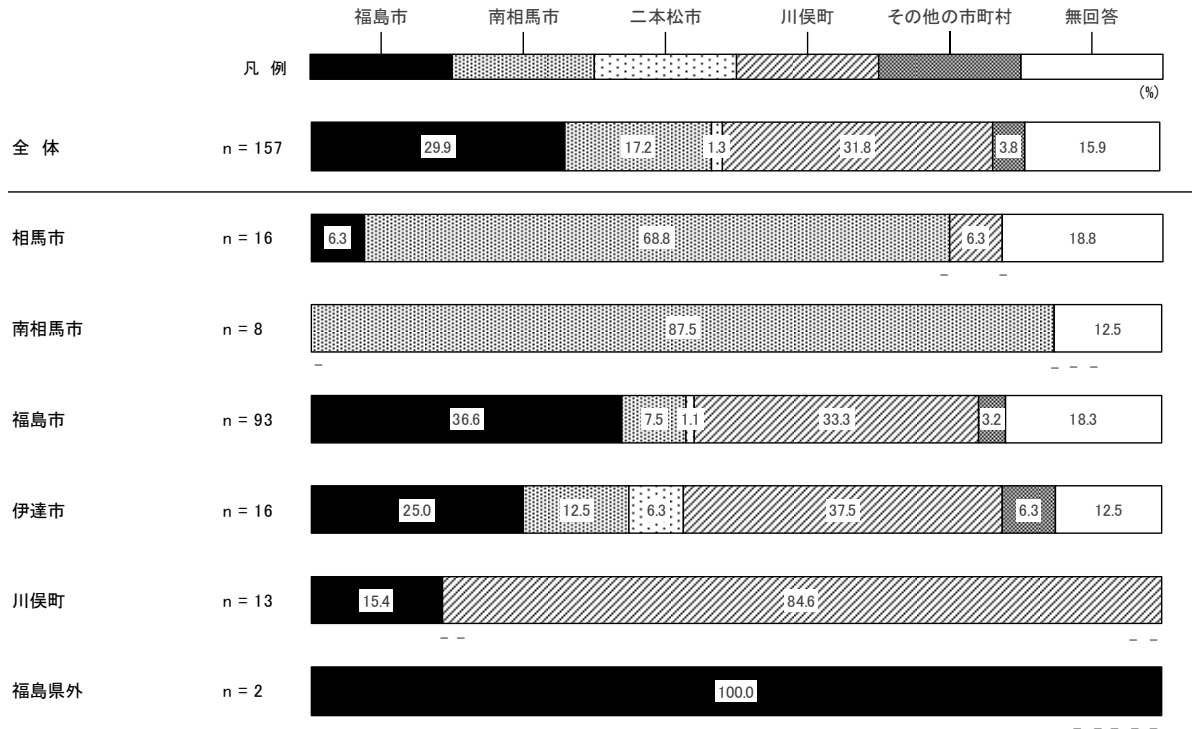
復興公営住宅への入居を希望する自治体<1世帯目>について、回答者の年齢別にみると、「川俣町」は60代（40.9%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-2-2-4 入居を希望する自治体（1世帯目）（年齢別）>



復興公営住宅への入居を希望する自治体<1世帯目>について、主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体でも概ね避難先の自治体に入居を希望する割合が高くなっている。

<図表3-2-2-5 入居を希望する自治体（1世帯目）（主な避難先自治体別）>



3-2-3 復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービス

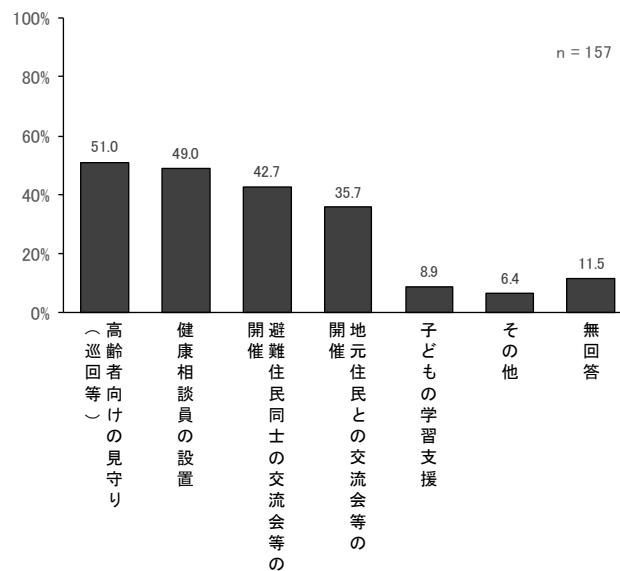
【問12で「1」、「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問12-2 復興公営住宅へ入居した場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。(〇は3つまで)

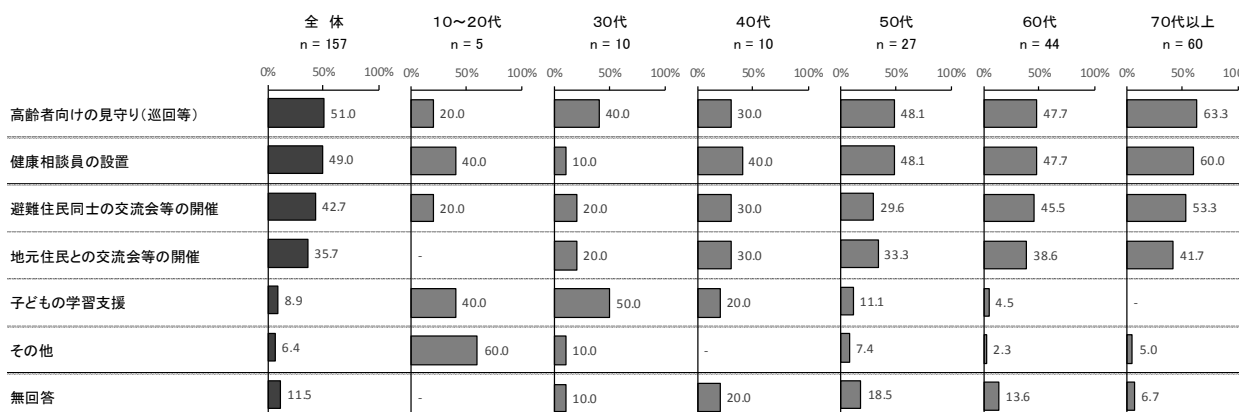
復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービスについては、「高齢者向けの見守り（巡回等）」が51.0%と最も高く、次いで「健康相談員の設置」が49.0%、「避難住民同士の交流会等の開催」が42.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、70代以上では「高齢者向けの見守り（巡回等）」（63.3%）、「避難住民同士の交流会等の開催」（53.3%）が、他の年齢と比べて高くなっている。

＜図表3-2-3-1 復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービス＞



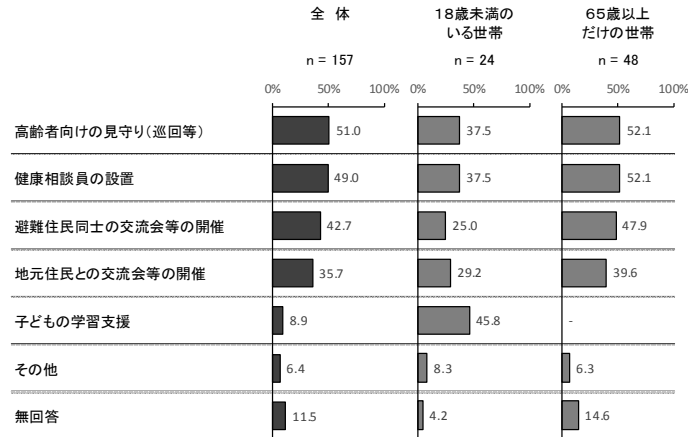
＜図表3-2-3-2 復興公営住宅へ入居する場合に必要なと考えるサービス（年齢別）＞



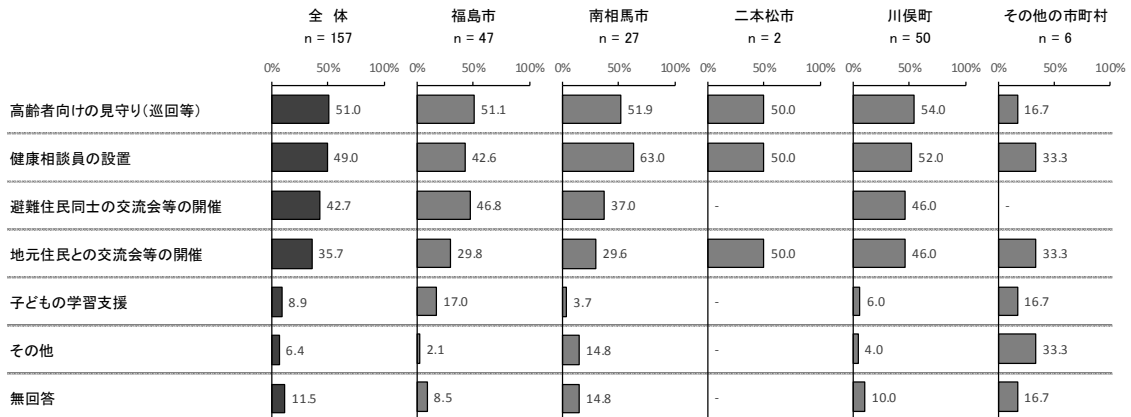
世帯構成別にみると、「避難住民同士の交流会等の開催」は65歳以上の世帯（47.9%）で高くなっている。

入居を希望する自治体別にみると、「地元住民との交流会等の開催」は川俣町（46.0%）、「子どもの学習支援」は福島市（17.0%）で高くなっている。

<図表3-2-3-3 復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービス（世帯構成別）>



<図表3-2-3-4 復興公営住宅へ入居する場合に必要と考えるサービス（入居を希望する自治体別）>



3-2-4 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態

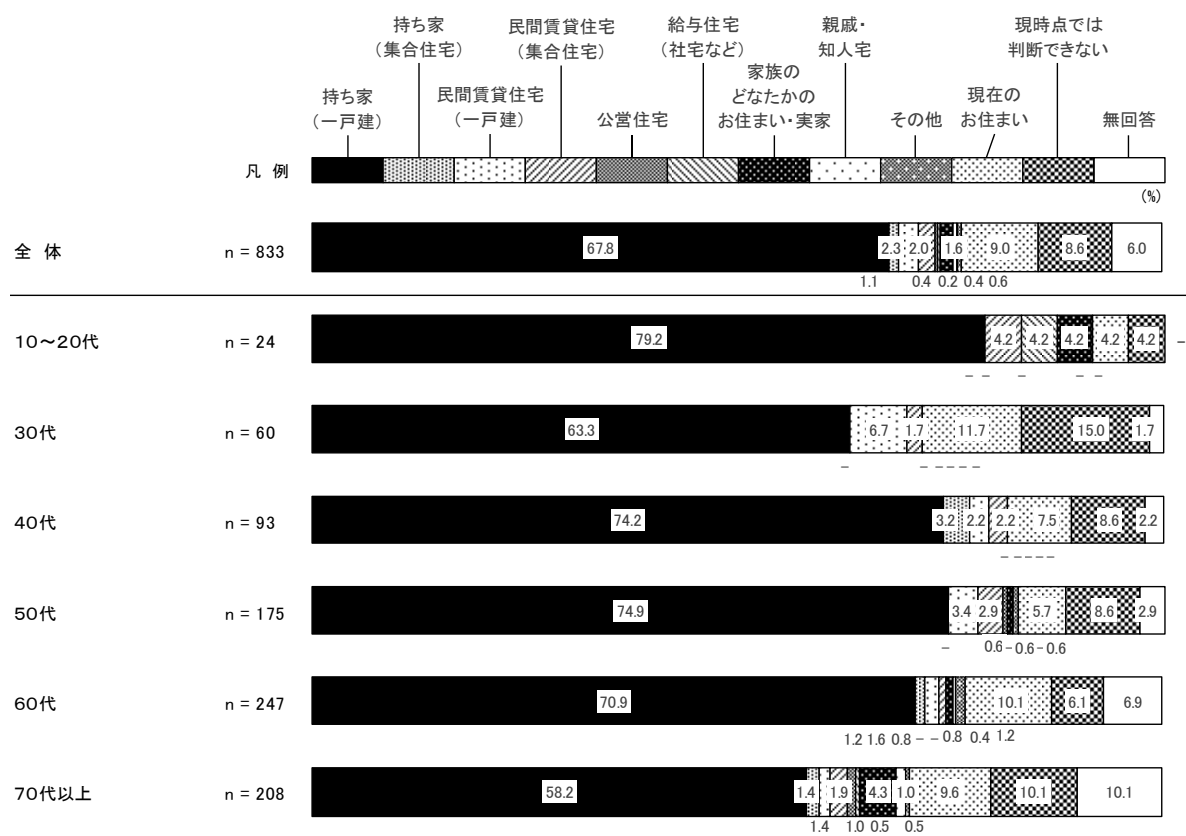
【問 12 で「5. 入居を希望しない」と回答した方にかがいます】

問 12-5 今後のお住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

復興公営住宅へ入居を希望しない場合の今後の住まいとして希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が67.8%と最も高く、次いで「現在のお住まい」が9.0%、「現時点では判断できない」が8.6%となっている。

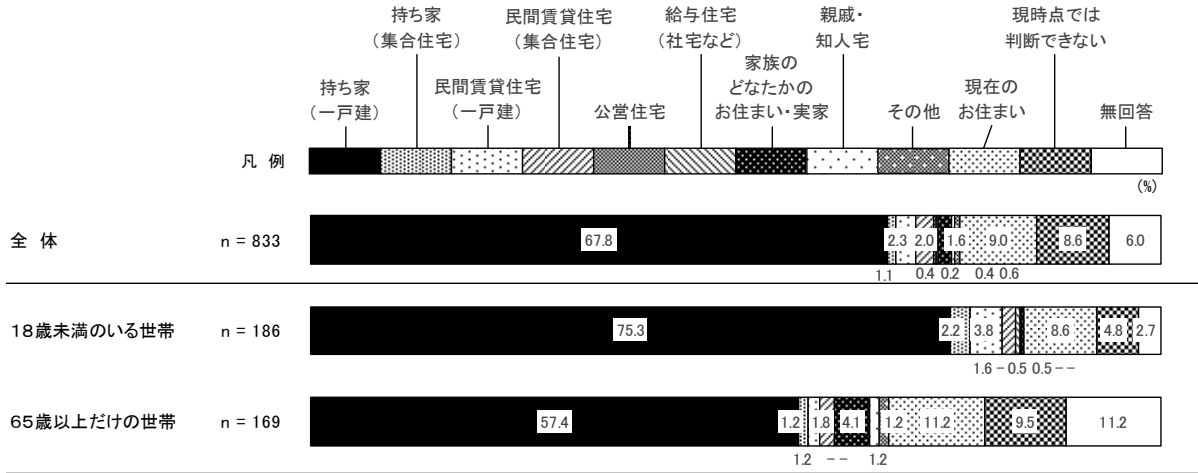
回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は40代（74.2%）、50代（74.9%）、60代（70.9%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

＜図表3-2-4-1 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態（年齢別）＞

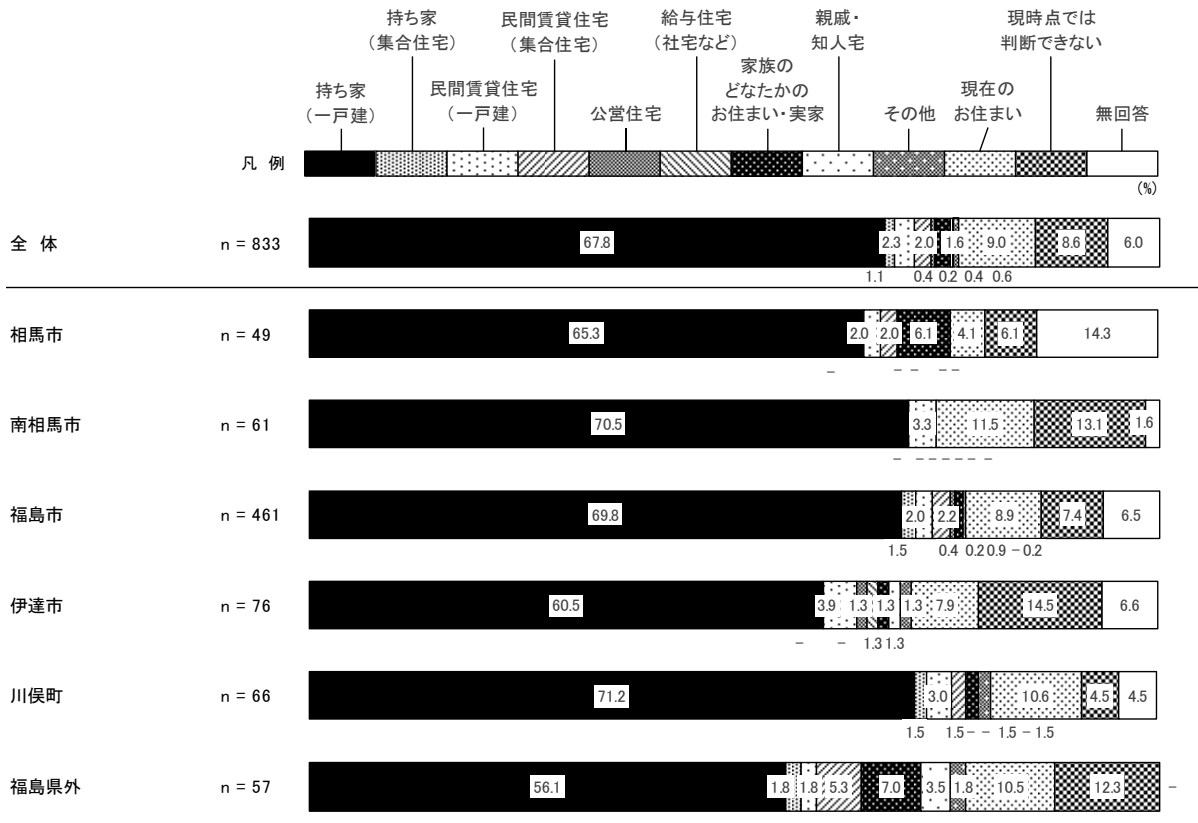


世帯構成別にみても、「持ち家（一戸建）」が最も高くなっている。
 主な避難先自治体別にみても、「持ち家（一戸建）」が最も高くなっている。

＜図表3-2-4-2 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態（世帯構成別）＞



＜図表3-2-4-3 復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態（主な避難先自治体別）＞



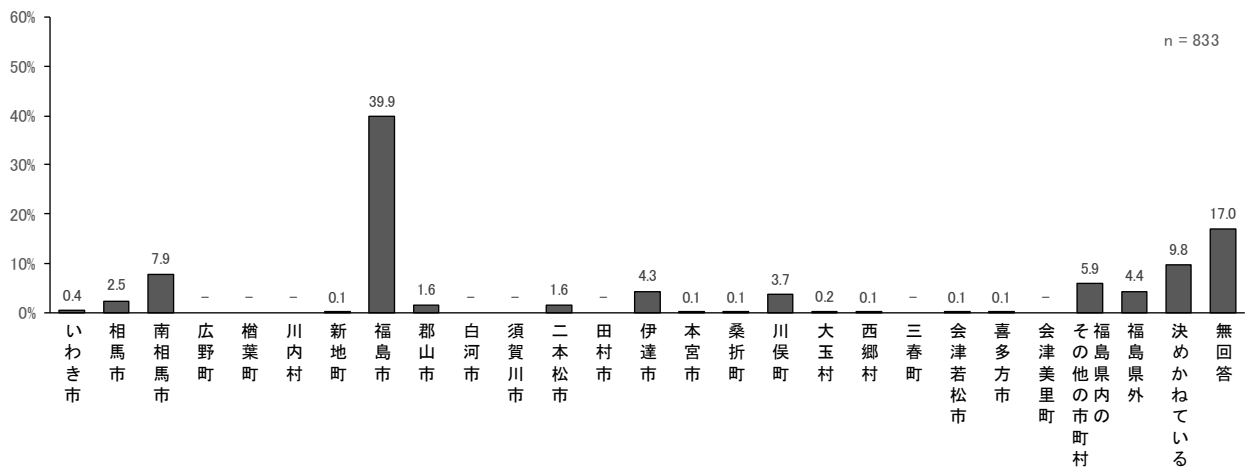
3-2-5 復興公営住宅への入居を希望しない場合に居住したい自治体

【問12で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問12-4 復興公営住宅への入居を希望しない場合に、居住を希望する市区町村名を教えてください。(○は1つ)

復興公営住宅に入居を希望しない場合に居住したい自治体については、「福島市」が39.9%と最も高く、次いで「決めかねている」が9.8%、「南相馬市」が7.9%となっている。

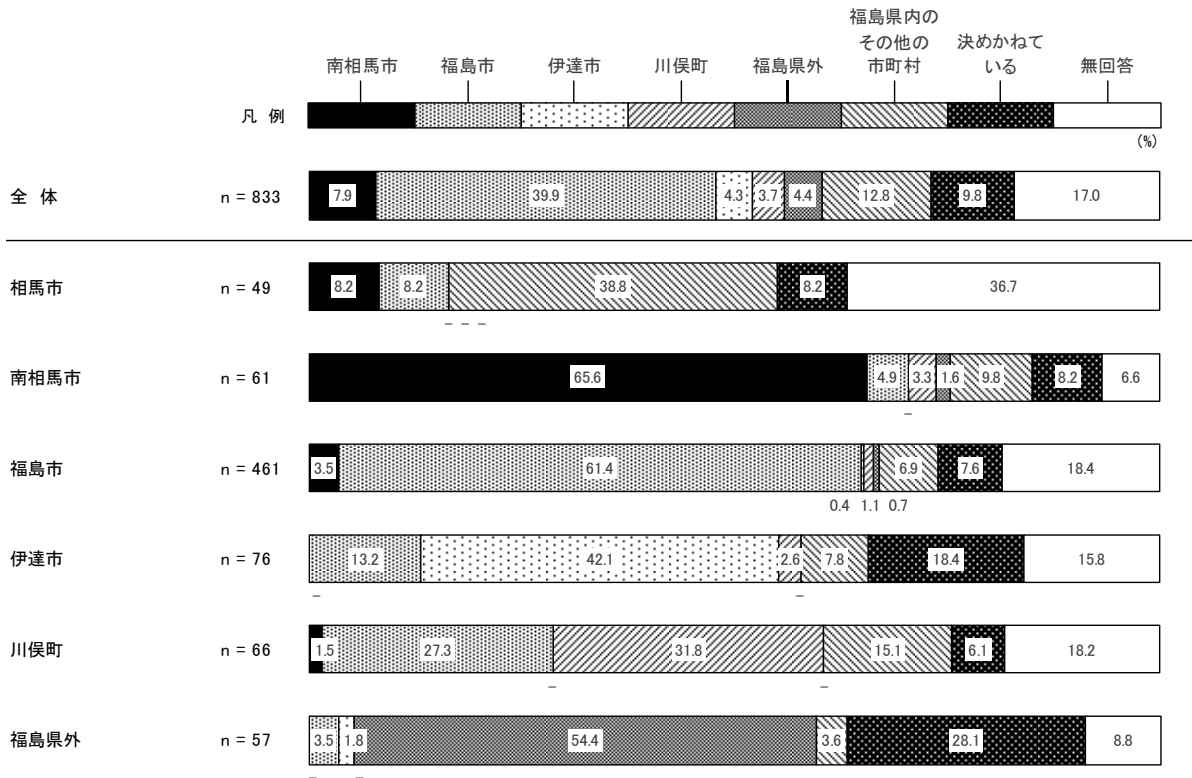
<図表3-2-5-1 入居を希望しない場合に居住したい自治体>



III 調査結果

主な避難先自治体別にみると、現在南相馬市に避難している世帯の65.6%が同じ「南相馬市」へ、現在福島市に避難している世帯の61.4%が同じ「福島市」への転居を希望しており、伊達市（42.1%）、川俣町（31.8%）と比べ、同じ自治体への転居を希望する割合が高くなっている。一方、福島県外に避難している世帯の54.4%が福島県外への転居を希望しているが、「決めかねている」と回答した世帯も28.1%となっており、他の避難先自治体と比べて高くなっている。

<図表3-2-5-2 入居を希望しない場合に居住したい主な自治体（主な避難先自治体別）>



3-3 将来の意向

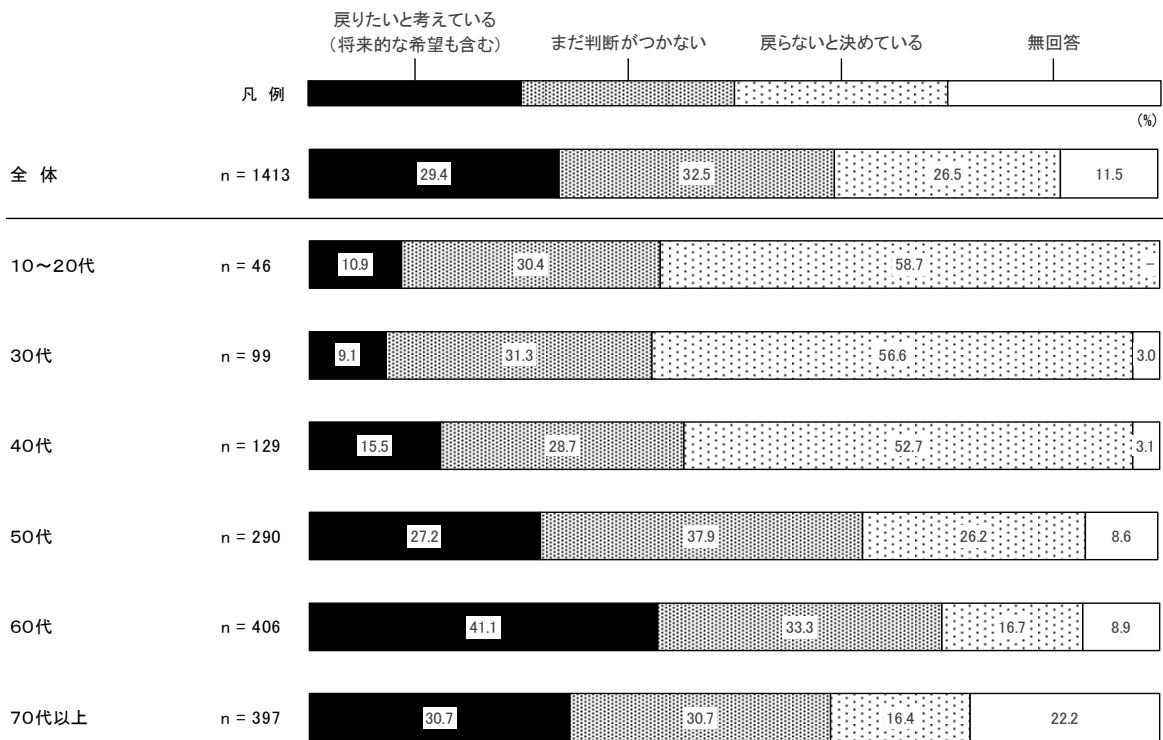
3-3-1 飯舘村への帰還意向

問 13 将来、飯舘村の避難指示が解除された後の飯舘村への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。
 下の「1」「2」「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。(〇は1つ)

将来、飯舘村の避難指示が解除された後の帰還意向については、「まだ判断がつかない」が32.5%と最も高く、次いで「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」が29.4%、「戻らないと決めている」が26.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなる傾向にあり、60代では41.1%となっている。

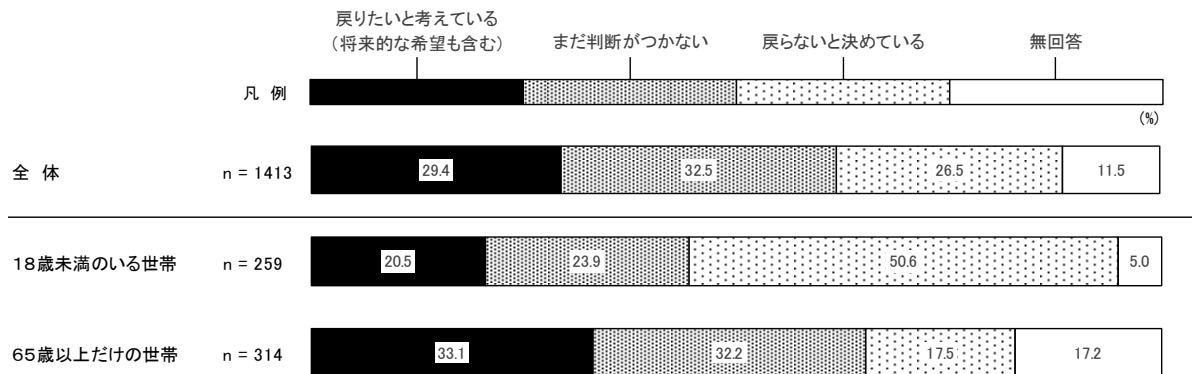
<図表3-3-1-1 飯舘村への帰還意向(年齢別)>



III 調査結果

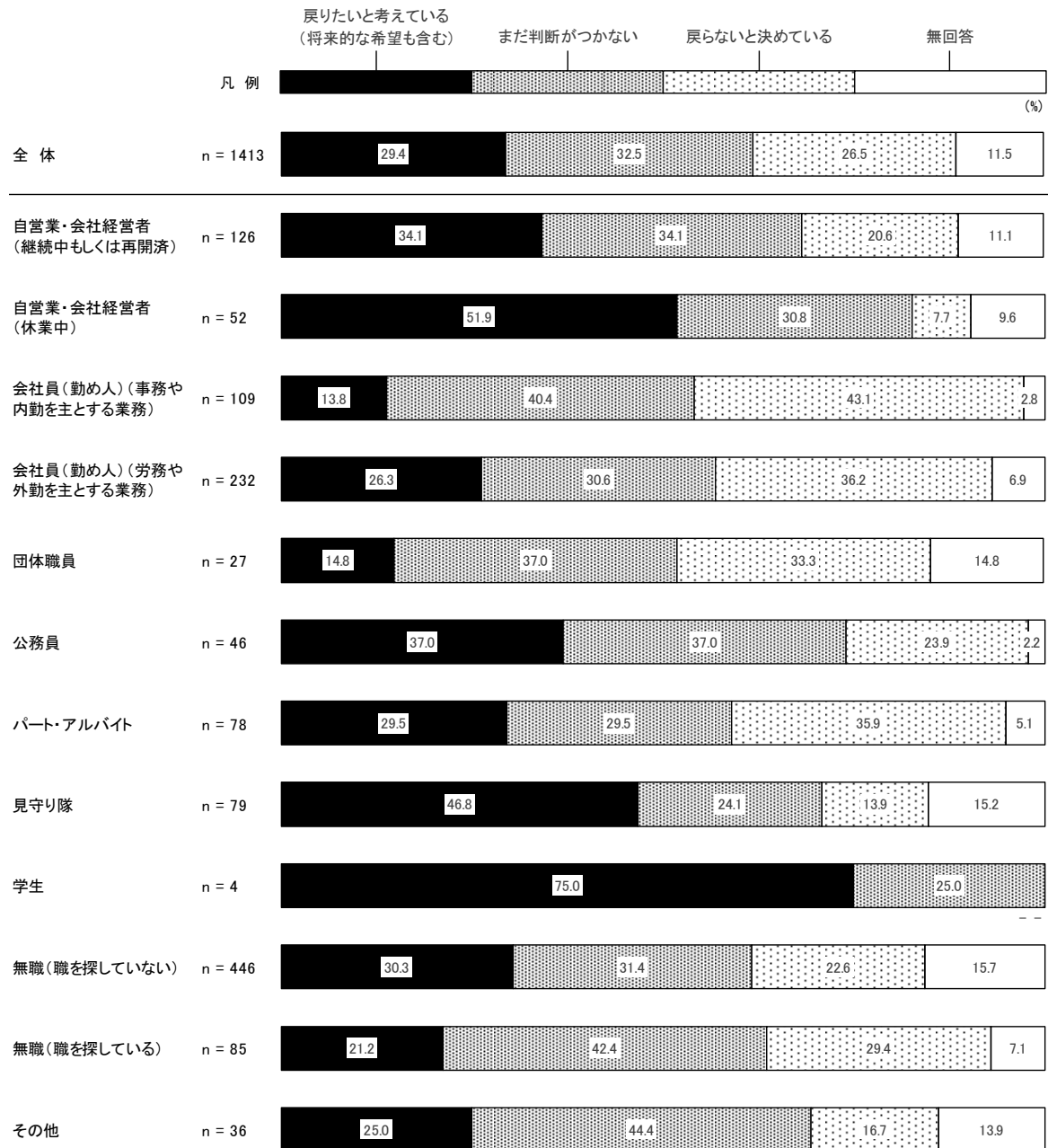
世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「戻らないと決めている」が50.6%と過半数を占める。一方、65歳以上だけの世帯では「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」が33.1%と最も高くなっている。

<図表3-3-1-2 飯館村への帰還意向（世帯構成別）>



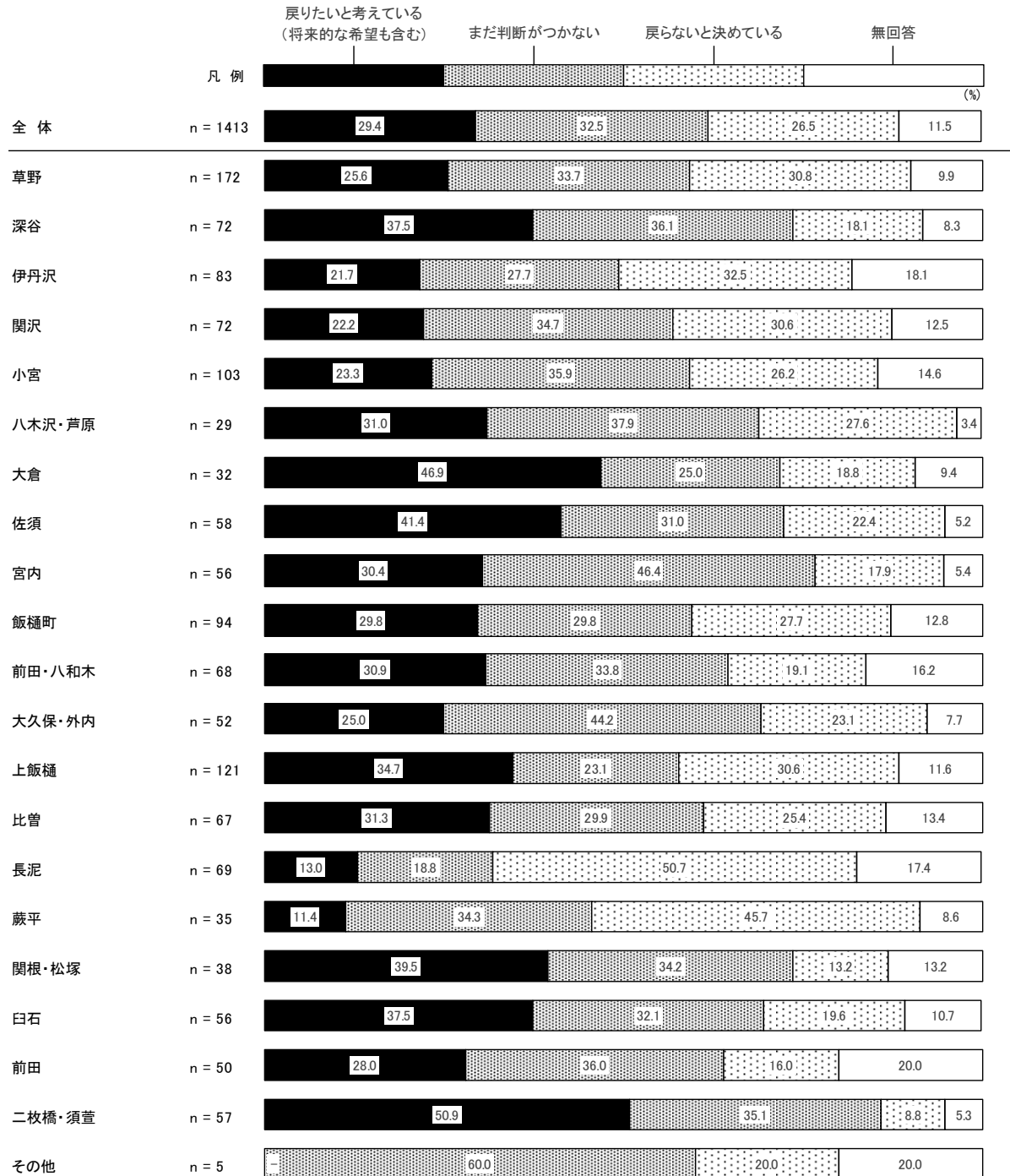
現在の職業別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は自営業・会社経営者（休業中）で51.9%、見守り隊で46.8%となっており、他の職業と比べて高くなっている。一方、「戻らないと決めている」は会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）で43.1%、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）で36.2%、パート・アルバイトで35.9%となっており、他の職業と比べて高くなっている。

<図表3-3-1-3 飯舘村への帰還意向（現在の職業別）>



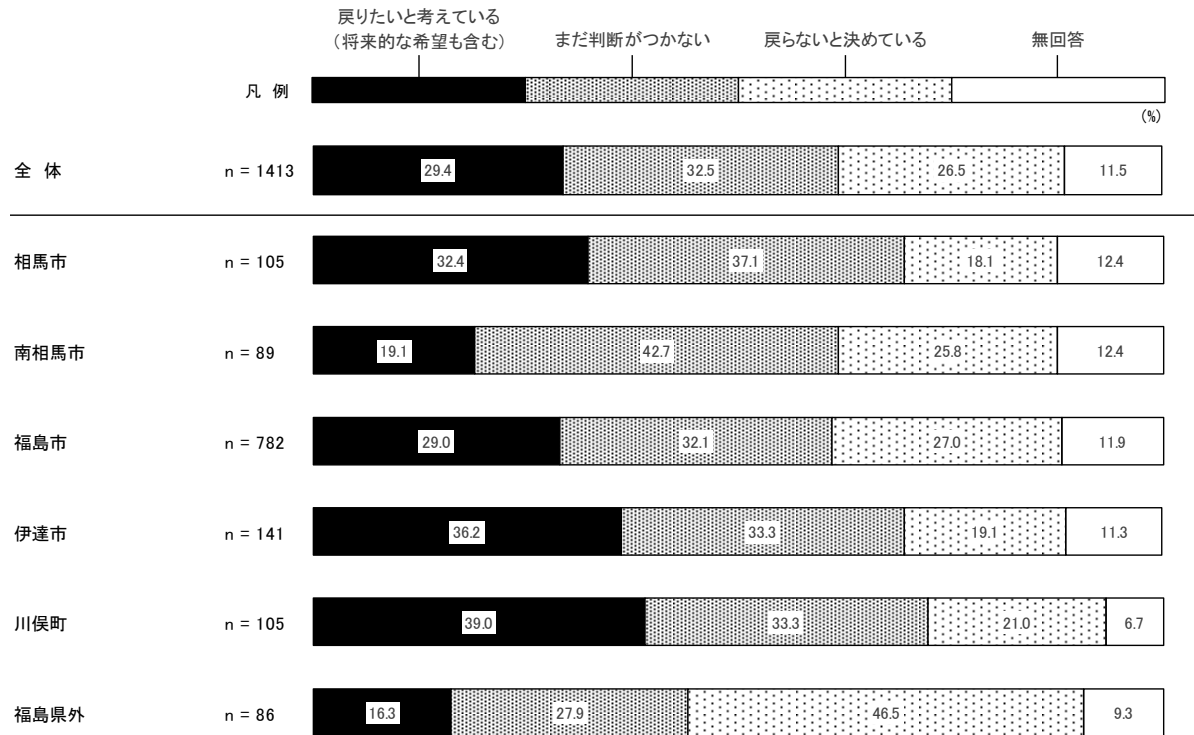
震災発生当時の行政区別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は深谷（37.5%）、大倉（46.9%）、佐須（41.4%）、上飯樋（34.7%）、関根・松塚（39.5%）、臼石（37.5%）、二枚橋・須萱（50.9%）で、他の居住行政区と比べて高くなっている。

<図表3-3-1-4 飯館村への帰還意向（震災発生当時の行政区別）>



主な避難先自治体別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は川俣町では39.0%、伊達市では36.2%となっており、他の避難先自治体と比べて高くなっている。

<図表3-3-1-5 飯舘村への帰還意向（主な避難先自治体別）>



3-3-2 飯舘村への帰還時期

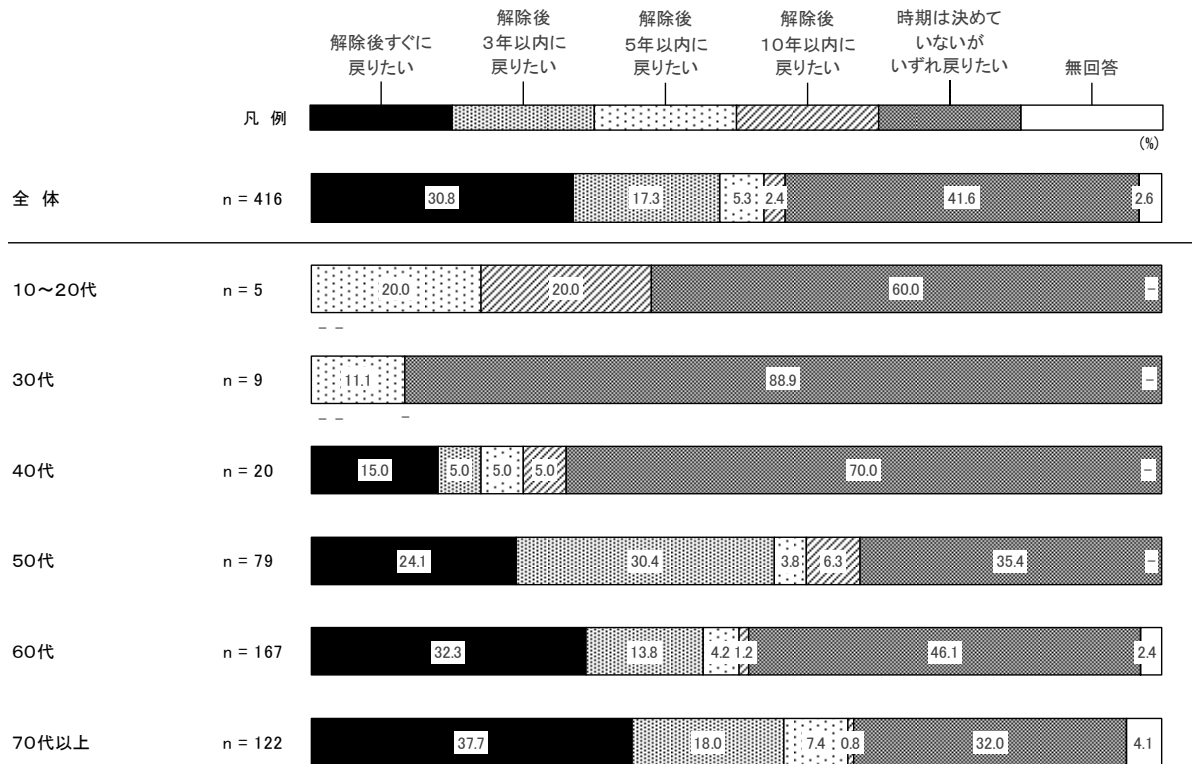
【問 13 で「1. 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-1-1 飯舘村へ戻る時期についてどうお考えですか。(〇はひとつ)

飯舘村への帰還時期については、「時期は決めていないがいずれ戻りたい」が 41.6%と最も高く、次いで「解除後すぐに戻りたい」が 30.8%、「解除後 3 年以内に戻りたい」が 17.3%となっている。

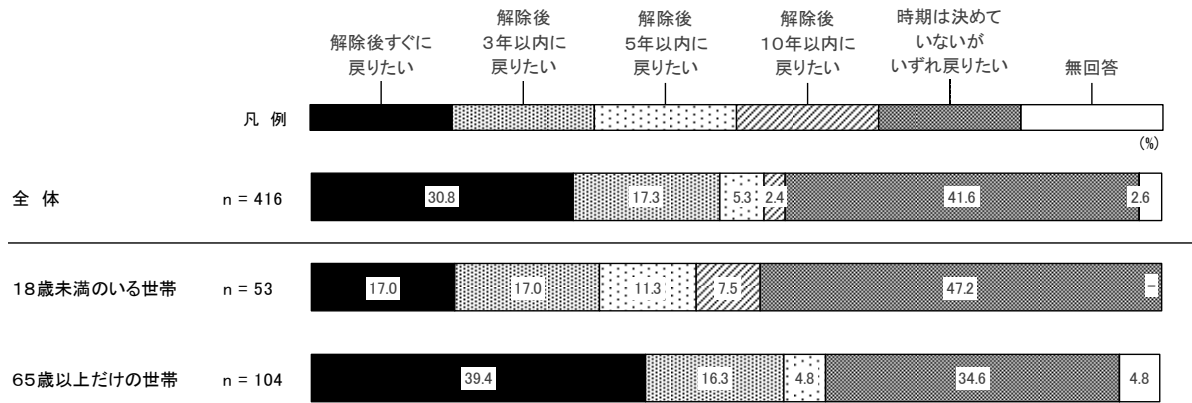
回答者の年齢別にみると、「解除後すぐに戻りたい」は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなっており、70 代以上では 37.7%となっている。「解除後 3 年以内に戻りたい」は 50 代 (30.4%) で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表 3-3-2-1 飯舘村への帰還時期 (年齢別) >



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「時期は決めていないがいずれ戻りたい」が47.2%と最も高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「解除後すぐに戻りたい」が39.4%と最も高くなっている。

<図表3-3-2-2 飯舘村への帰還時期（世帯構成別）>



3-3-3 飯舘村へ戻る場合の家族

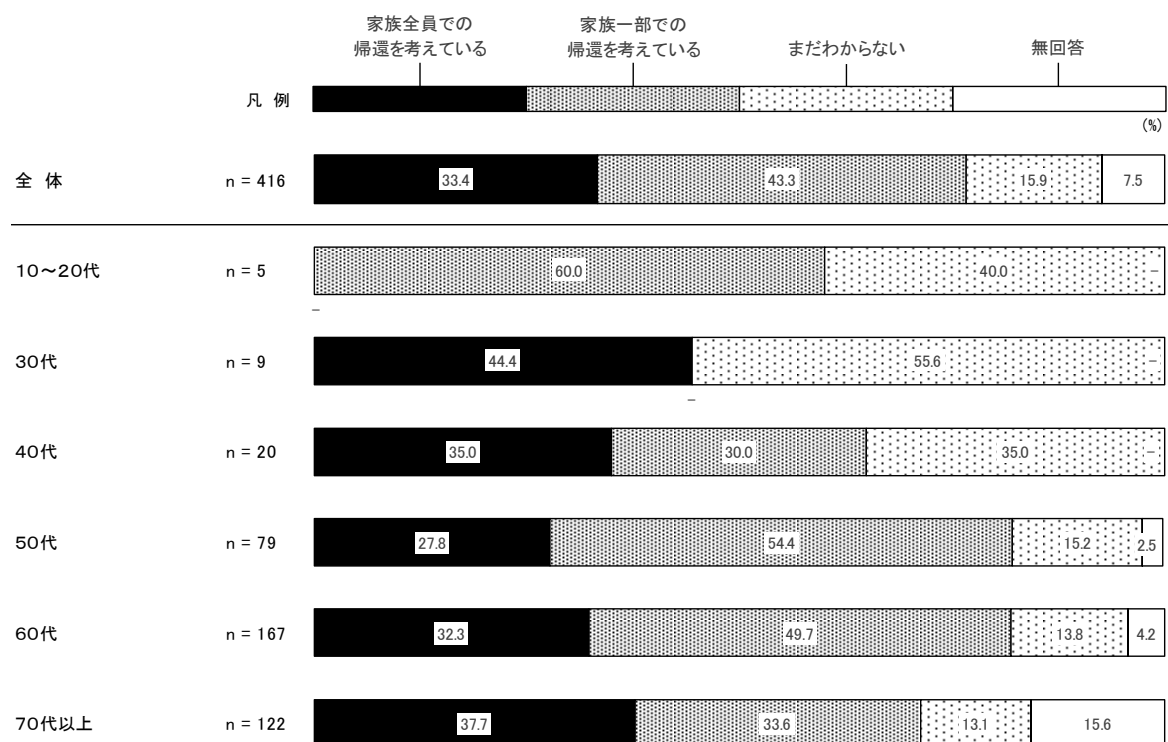
【問 13 で「1. 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-1-2 飯舘村へ戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。(〇はひとつ)

飯舘村へ戻る場合の家族については、「家族一部での帰還を考えている」が43.3%と最も高く、次いで「家族全員での帰還を考えている」が33.4%、「まだわからない」が15.9%となっている。

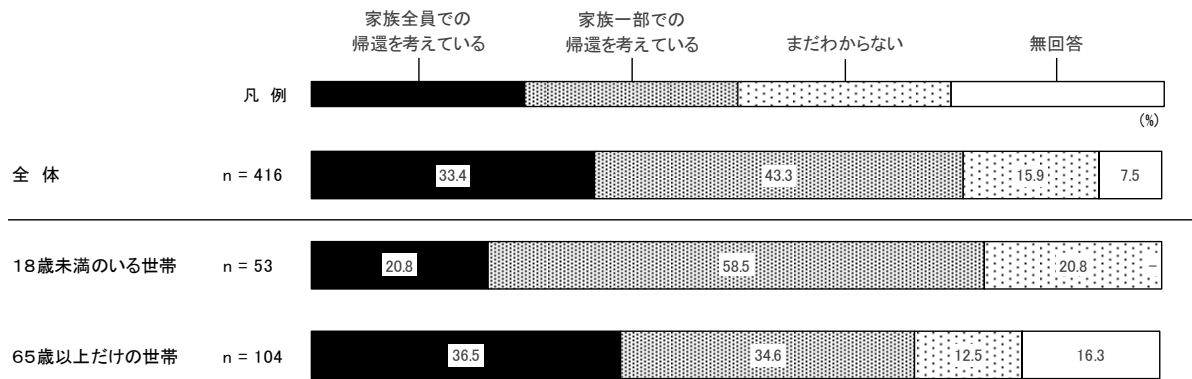
回答者の年齢別にみると、「家族一部での帰還を考えている」は50代(54.4%)、60代(49.7%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-3-3-1 飯舘村へ戻る場合の家族(年齢別)>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「家族一部での帰還を考えている」が58.5%と最も高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「家族全員での帰還を考えている」が36.5%と最も高くなっている。

＜図表3-3-3-2 飯舘村へ戻る場合の家族（世帯構成別）＞



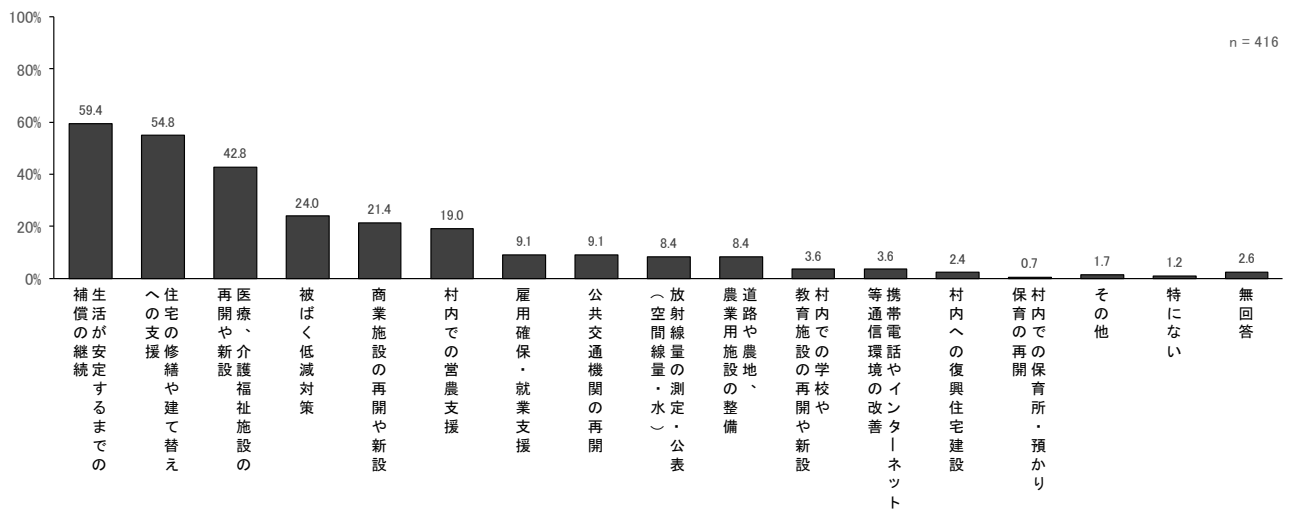
3-3-4 飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援

【問13で「1. 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問13-4 今後、どのような支援を望みますか。(〇は3つまで)

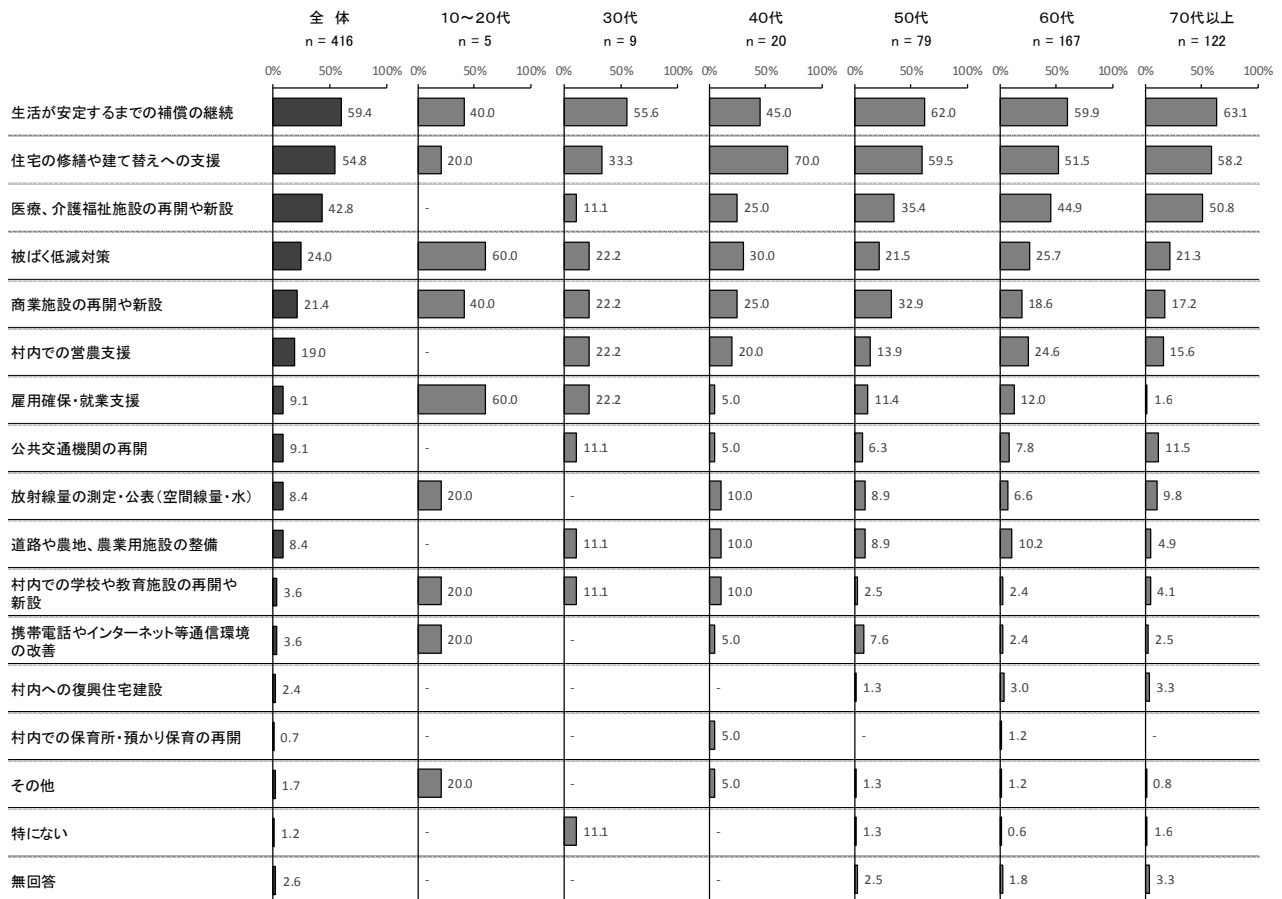
飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援については、「生活が安定するまでの補償の継続」が59.4%と最も高く、次いで「住宅の修繕や建て替えへの支援」が54.8%、「医療、介護福祉施設の再開や新設」が42.8%となっている。

<図表3-3-4-1 飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援>



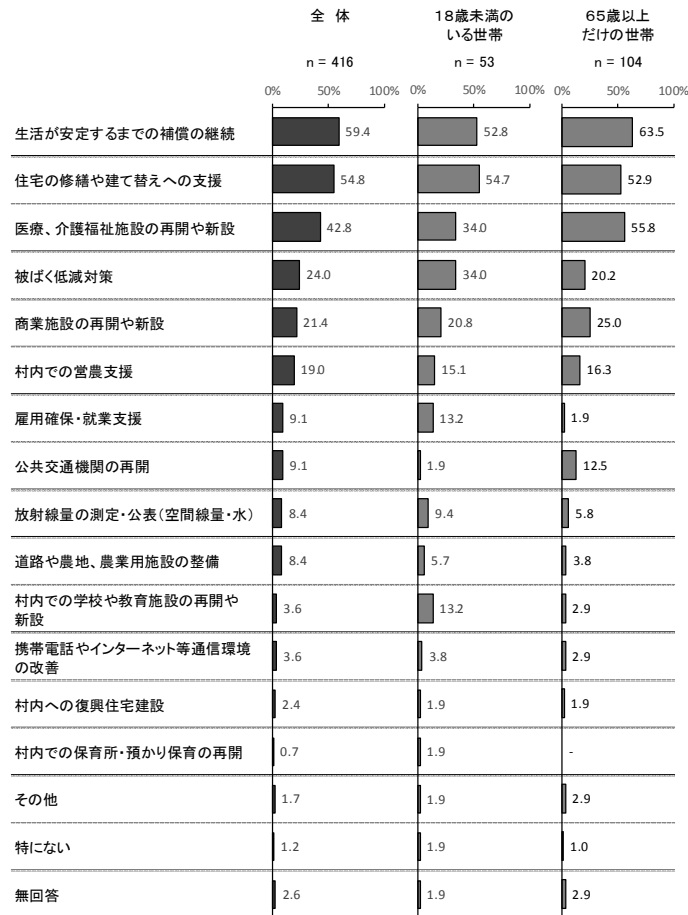
回答者の年齢別にみると、「商業施設の再開や新設」は50代（32.9%）、「村内での営農支援」は60代（24.6%）、「医療、介護福祉施設の再開や新設」は70代以上（50.8%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-3-4-2 飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「被ばく低減対策」(34.0%)、「雇用確保・就業支援」(13.2%)、「村内での学校や教育施設の再開や新設」(13.2%)が、65歳以上の世帯では「生活が安定するまでの補償の継続」(63.5%)、「医療、介護福祉施設の再開や新設」(55.8%)、「公共交通機関の再開」(12.5%)が、他の世帯構成と比べ高くなっている。

<図表3-3-4-3 飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（世帯構成別）>



3-3-5 飯舘村へ帰還する場合の住居形態

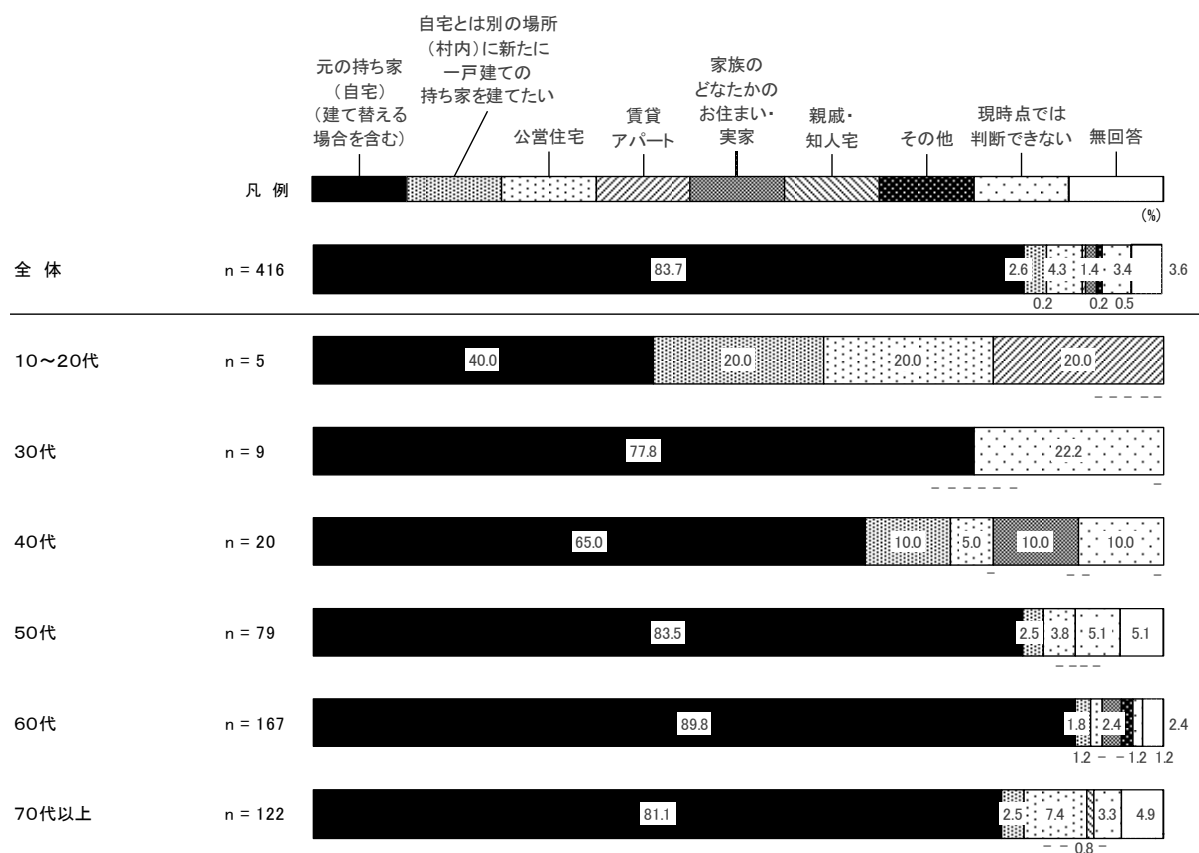
【問 13 で「1. 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-5 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

飯舘村への帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)」が83.7%と最も高く、次いで「公営住宅」が4.3%、「現時点では判断できない」が3.4%となっている。

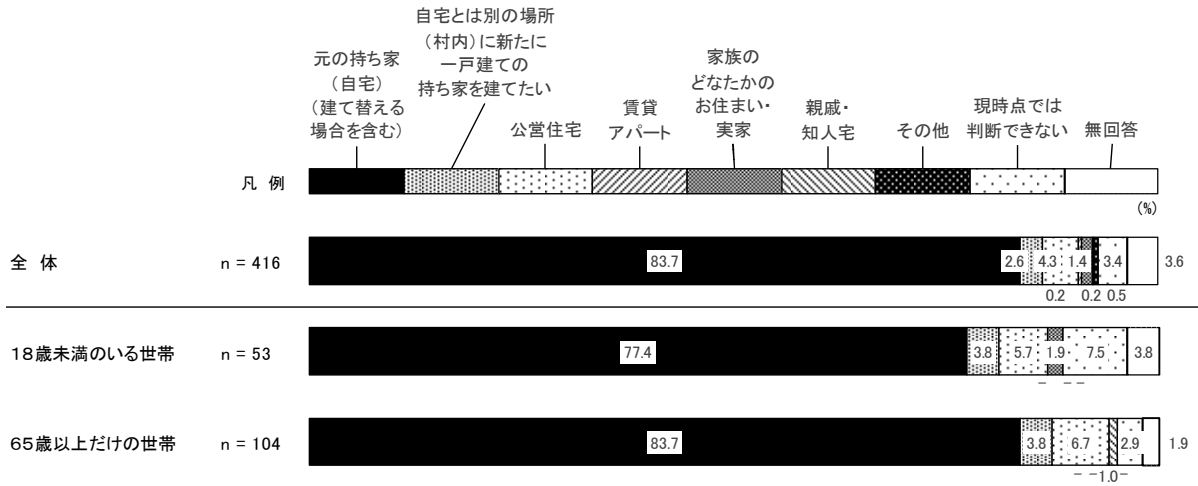
回答者の年齢別にみると、いずれの年齢でも「元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)」の割合が最も高くなっている。

<図表3-3-5-1 飯舘村へ帰還する場合の住居形態(年齢別)>



世帯構成別にみると、全体と同様の傾向にある。

<図表3-3-5-2 飯館村へ帰還する場合の住居形態（世帯構成別）>



震災発生当時の行政区別にみると、いずれの行政区でも「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」の割合が最も高くなっている。

<図表3-3-5-3 飯舘村へ帰還する場合の住居形態（震災発生当時の行政区別）>

		(%)								
	n	元の持ち家（自宅） （建て替える場合を含む）	建て替える （村内）に別の 持ち家	公営住宅	賃貸 アパート	家族の お住まい・実家 のどなたか	親戚・知人宅	その他	現時点では 判断 できない	無回答
全体	416	83.7	2.6	4.3	0.2	1.4	0.2	0.5	3.4	3.6
草野	44	63.6	4.5	20.5	-	2.3	2.3	-	2.3	4.5
深谷	27	88.9	-	7.4	-	-	-	-	-	3.7
伊丹沢	18	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
関沢	16	93.8	-	-	-	6.3	-	-	-	-
小宮	24	87.5	-	-	-	-	-	-	4.2	8.3
八木沢・芦原	9	88.9	-	-	-	-	-	-	-	11.1
大倉	15	80.0	6.7	-	-	-	-	-	-	13.3
佐須	24	79.2	4.2	4.2	-	-	-	4.2	8.3	-
宮内	17	88.2	5.9	-	-	-	-	-	-	5.9
飯樋町	28	71.4	3.6	10.7	-	3.6	-	-	10.7	-
前田・八和木	21	81.0	4.8	-	-	-	-	4.8	9.5	-
大久保・外内	13	92.3	-	7.7	-	-	-	-	-	-
上飯樋	42	85.7	2.4	-	2.4	-	-	-	4.8	4.8
比曾	21	76.2	4.8	4.8	-	-	-	-	4.8	9.5
長泥	9	66.7	11.1	-	-	-	-	-	22.2	-
藤平	4	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
関根・松塚	15	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
臼石	21	76.2	4.8	-	-	9.5	-	-	-	9.5
前田	14	92.9	-	-	-	7.1	-	-	-	-
二枚橋・須萱	29	96.6	-	3.4	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

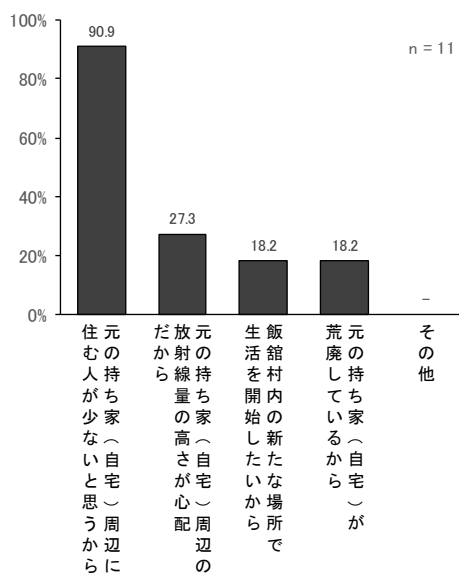
3-3-6 飯舘村へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問 13-5 で「2」と回答した方にうかがいます。】

問 13-6 自宅とは別の場所を希望される理由は、何ですか。(〇はいくつでも)

飯舘村へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから」が90.9%と最も高く、次いで「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」が27.3%、「飯舘村内の新たな場所で生活を開始したいから」、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」が18.2%となっている。

<図表3-3-6-1 飯舘村へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



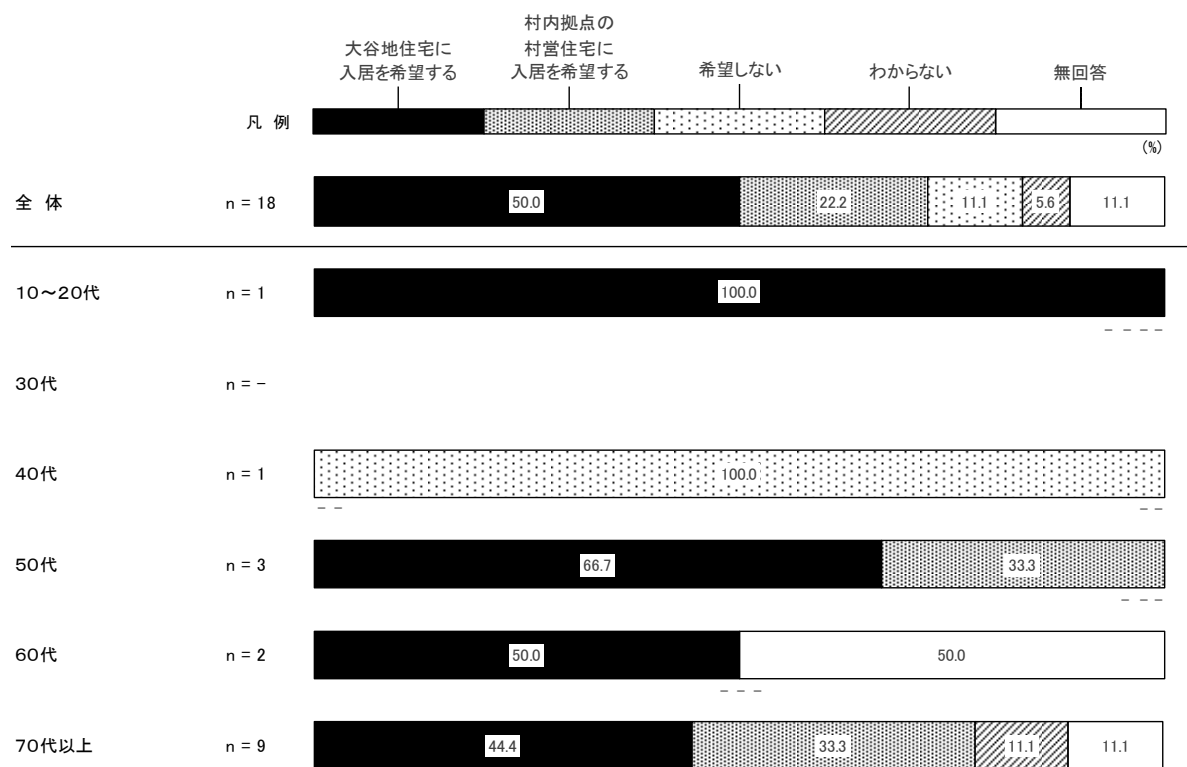
3-3-7 村営住宅への入居意向

【問 13-5 で「3」と回答した方にうかがいます。】

問 13-7 村では、復興計画（第4版）において、自宅に戻っても一人暮らしが難しい高齢者や、村内で働く方などのための村営住宅（復興住宅）を深谷地区の村内拠点エリアに建設する計画を立てています。また、この他にも、草野大谷地地区にも新しく村営住宅を建設します。村営住宅が建設された場合、入居を希望しますか。（〇は1つ）

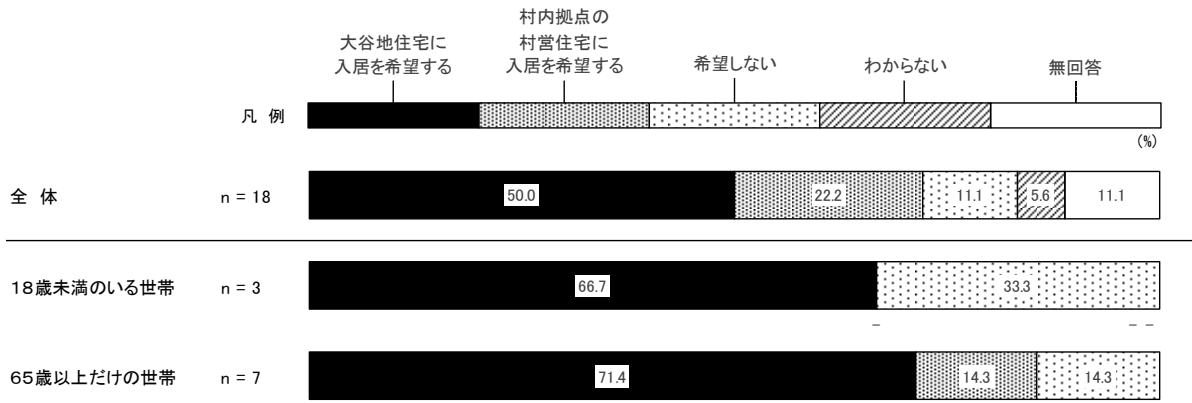
村営住宅への入居意向については、「大谷地住宅に入居を希望する」が50%と最も高く、次いで「村内拠点の村営住宅に入居を希望する」が22.2%、「希望しない」が11.1%となっている。

＜図表3-3-7-1 村営住宅への入居意向（年齢別）＞



世帯構成別にみても、いずれの世帯構成でも「大谷地住宅に入居を希望する」の割合が最も高くなっている。

<図表3-3-7-2 村営住宅への入居意向（世帯構成別）>



3-3-8 飯舘村との“つながり”を保ちたいか

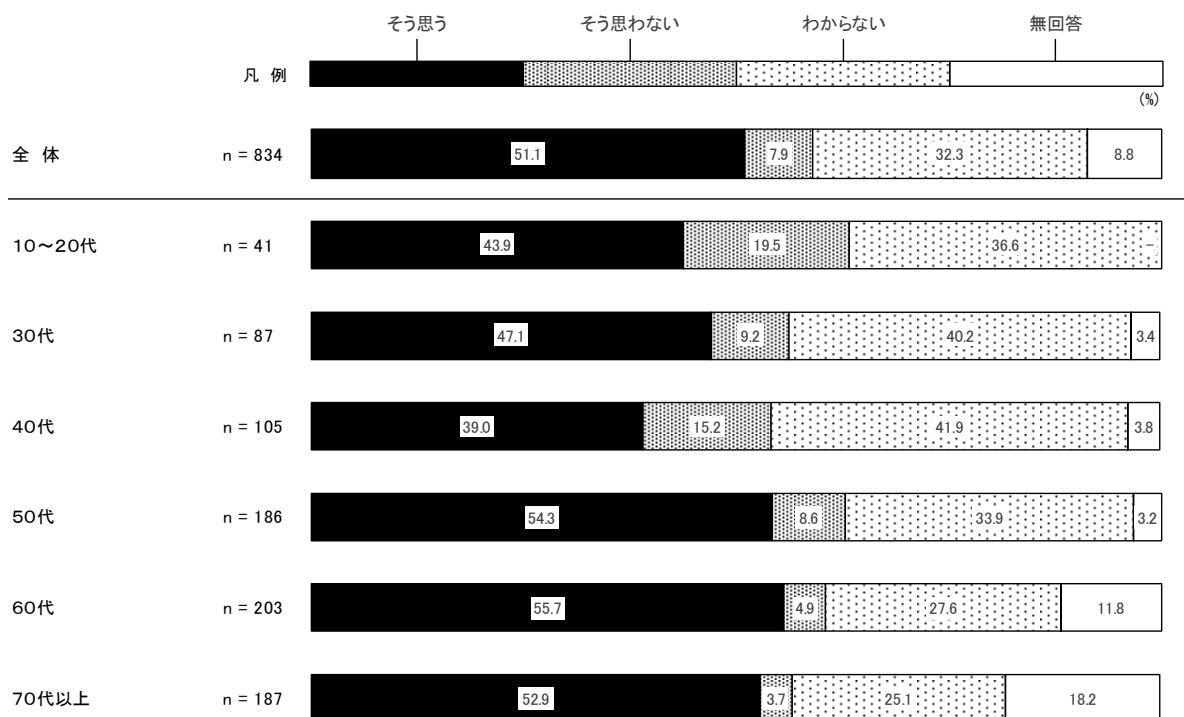
【問 13で「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問 13-3 今後も村との“つながり”を保ちたいと思いますか。(〇は1つ)

飯舘村との“つながり”を保ちたいかについては、「そう思う」が51.1%と最も高く、次いで「わからない」が32.3%、「そう思わない」が7.9%となっている。

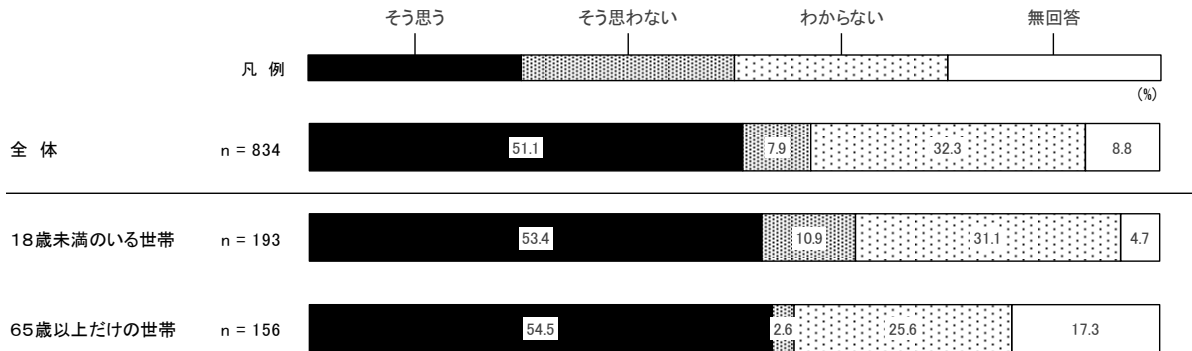
回答者の年齢別にみると、50代以上では「そう思う」が過半数を占めている。

<図表3-3-8-1 飯舘村との“つながり”を保ちたいか(年齢別)>

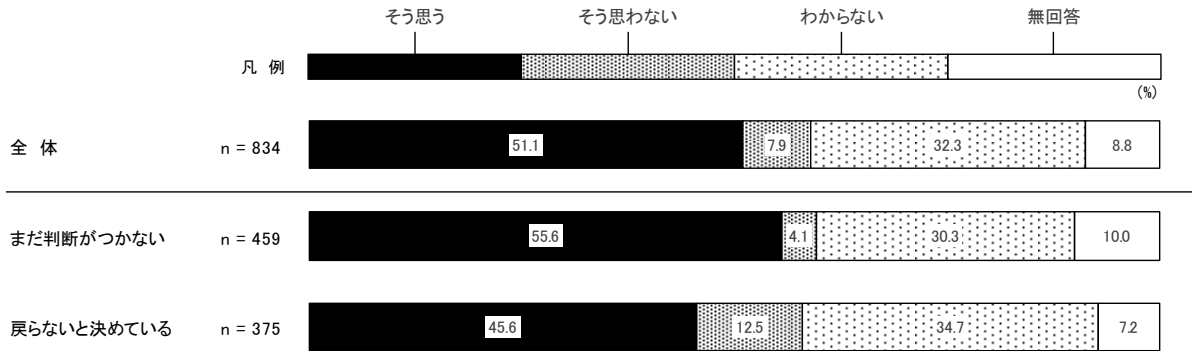


世帯構成別、帰還意向別にみても、「そう思う」の割合が最も高くなっている。

＜図表3-3-8-2 飯舘村との“つながり”を保ちたいか（世帯構成別）＞



＜図表3-3-8-3 飯舘村の“つながり”を保ちたいか（帰還意向別）＞



3-3-9 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報

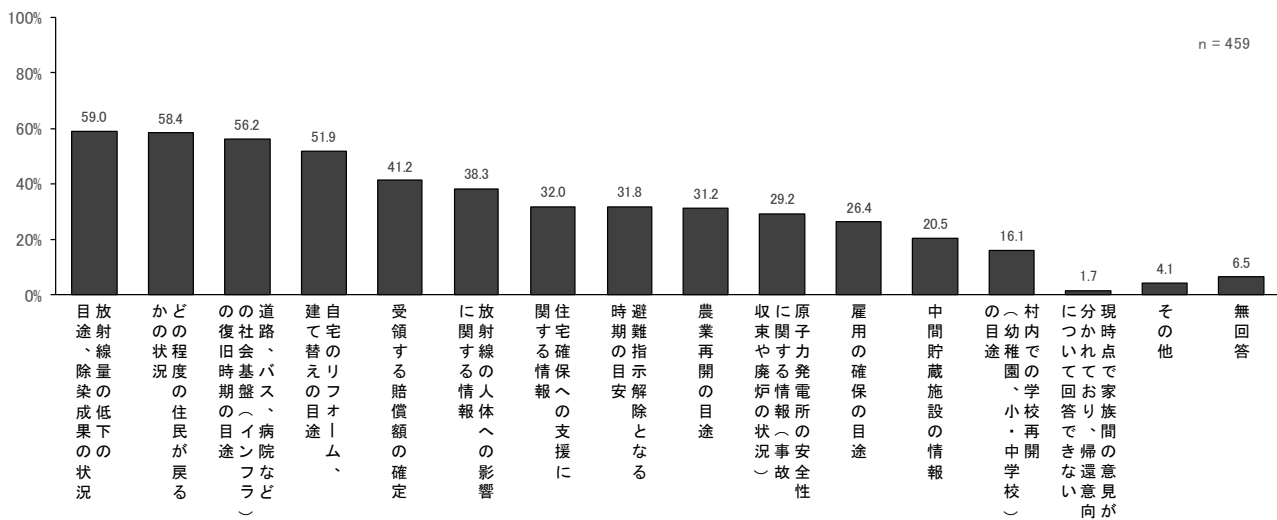
(1) 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報

【問13で「2」と回答した方にうかがいます。】

問13-2-1 飯舘村へ戻ることを判断するために必要なことについて、どうお考えか伺います。(〇はいくつでも)

飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が59.0%と最も高く、次いで「どの程度の住民が戻るかの状況」が58.4%、「道路、バス、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が56.2%となっている。

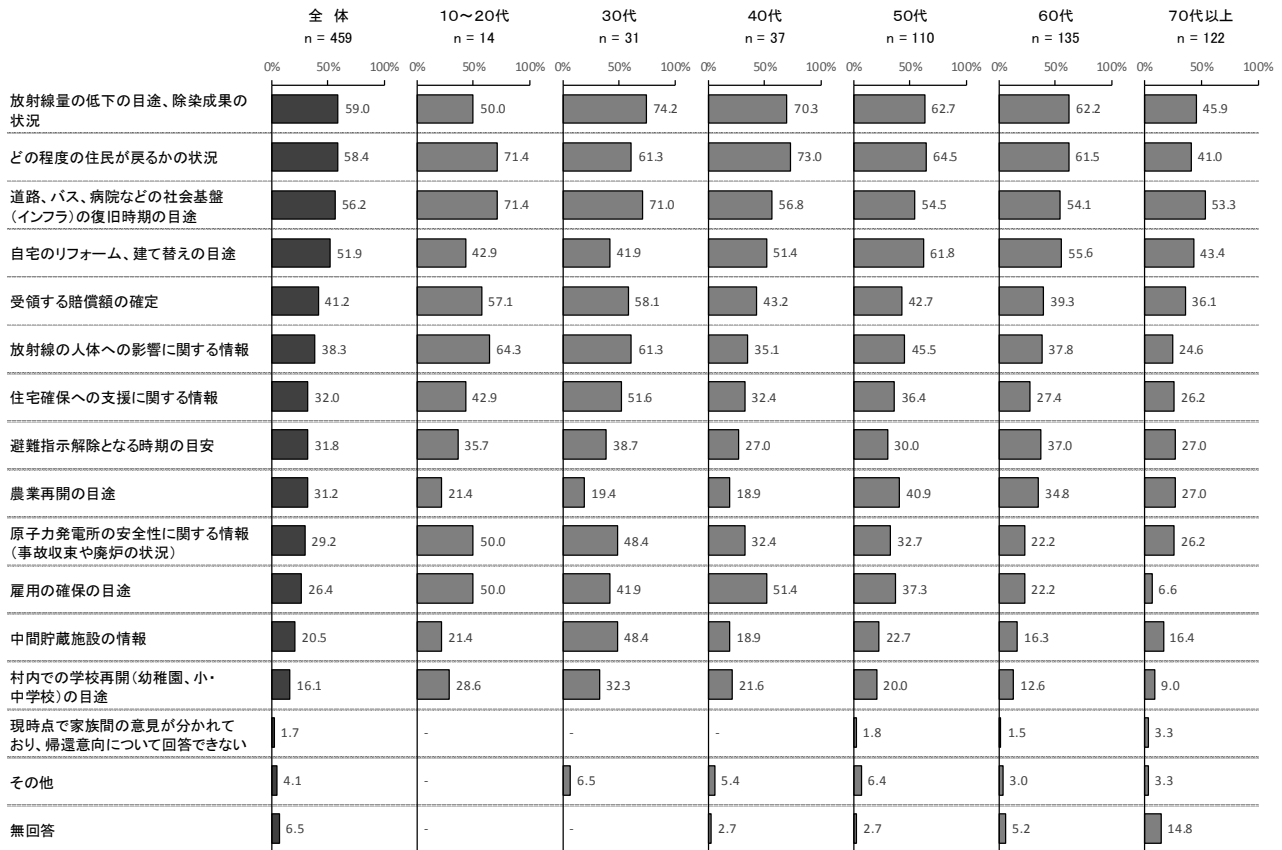
<図表3-3-9-1 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報>



III 調査結果

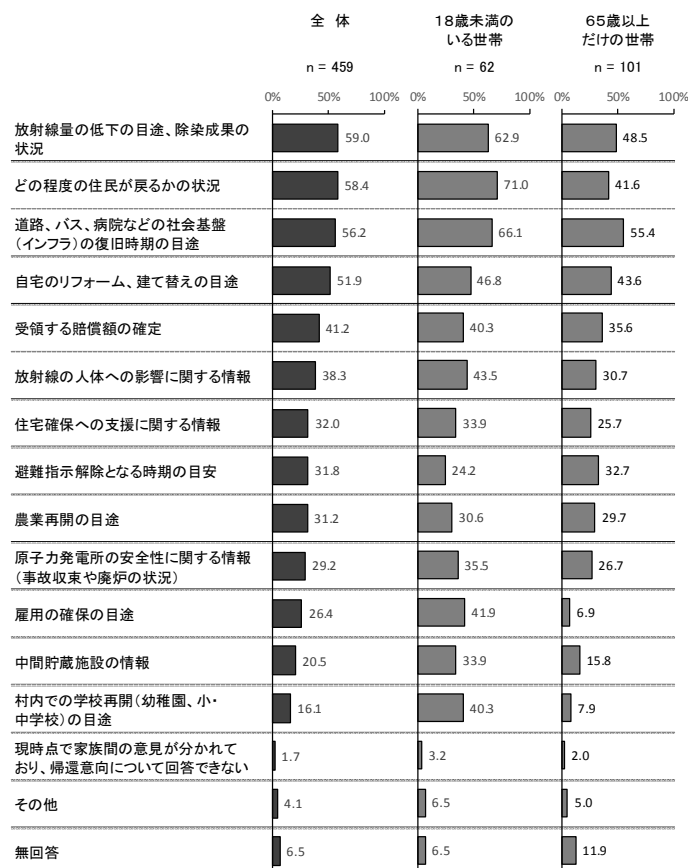
回答者の年齢別にみると、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」は30代(74.2%)、40代(70.3%)で7割以上と高くなっている。「どの程度の住民が戻るかの状況」は40代(73.0%)、50代(64.5%)で高くなっている。「道路、バス、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途」は30代(71.0%)で高くなっている。

＜図表3-3-9-2 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報(年齢別)＞



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「どの程度の住民が戻るかの状況」(71.0%)、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」(62.9%)、「雇用の確保の目途」(41.9%)、「村内での学校再開(幼稚園・小学校)の目途」(40.3%)、「中間貯蔵施設の情報」(33.9%)が、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。

<図表3-3-9-3 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報(世帯構成別)>



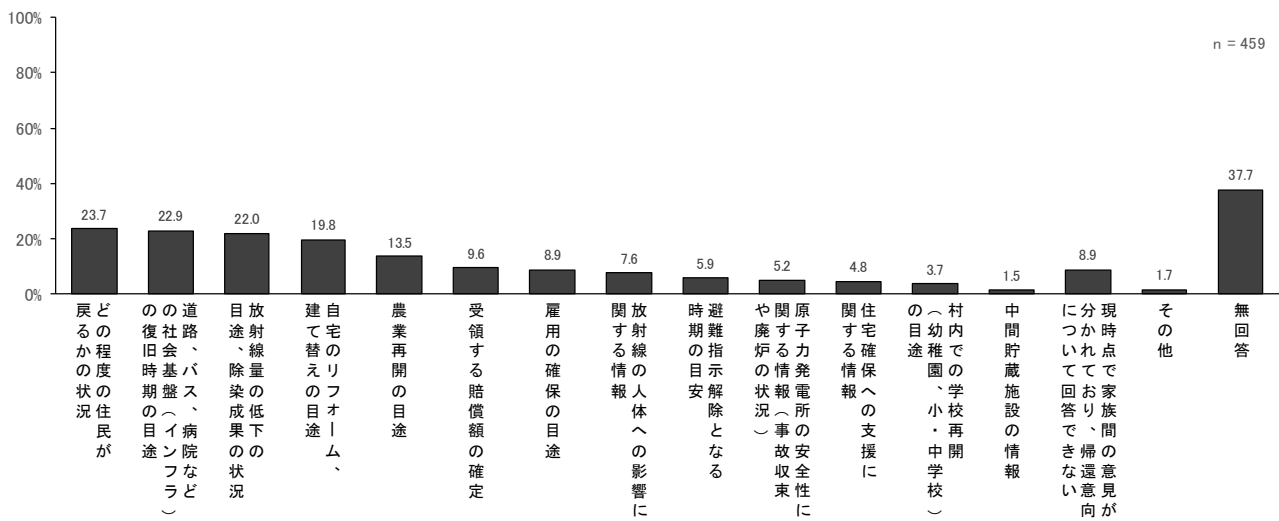
(2) 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの

【問13で「2」と回答した方にうかがいます。】

問13-2-2 上記で○をつけたもののうち、特に重要と思うものを3つまで選んでください。また、その理由を教えてください。

飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するものについては、「どの程度の住民が戻るかの状況」が23.7%と最も高く、次いで「道路、バス、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が22.9%、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が22.0%となっている。

＜図表3-3-9-4 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの（3つまで）＞



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

【どの程度の住民が戻るかの状況】

- 帰村しても、近所の住民がいないのはさみしい。行政区ごとにどのくらいの住民が帰るのかを示してほしい。（10～20代）
- 誰も戻らない所に戻ってもメリットはない。（30代）
- 戻って生活しても、地域のコミュニティなどが、保てるのか。（40代）
- 子供を持つ世帯からすると、戻った場合のメリットがない。（40代）
- 隣近所に住民が不在では、不安である。（50代）
- 若者が住めなければ維持する事は不可能。（50代）
- 自宅は山あいにあるので、隣近所が戻らないと住めない。（60代）
- 村民が戻らなければ商売は出来ない。売り上げが上がらないと生活出来ない。（60代）
- 周囲の戻る人と集落がどの様になるのか。（70代以上）

[道路、バス、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途]

- 村に帰っても、スーパーや病院がなくては、遠方まで行くようになるので、インフラの復旧をしてほしい。(10～20代)
- インフラが復旧しないと生活できない。(10～20代)
- 公共施設、買い物をする所が無いと困る。(30代)
- 老人、子供を持っているので、何かあった時、病院にもかかれないのでは仕方がないのでは。(40代)
- きちんとした社会基盤が出来ないと安心して生活できない。(40代)
- インフラ復旧時期目安。(50代)
- 病院などインフラの復旧の目途。(60代)
- 商店なども含めた復旧の時期が知りたい。(60代)
- 病院までバスが来てくれるのか。(70代以上)

[放射線量の低下の目途、除染成果の状況]

- 村内のすべての場所が事故前の線量に戻るなら帰還も考えている。(10～20代)
- 全国的に見た数値の比較。(10～20代)
- いくら宅地を除染しても、山が多いので、山を全部除染しなければ意味がない。(30代)
- 一番気になるのは線量。(30代)
- 除染する範囲が自宅周辺と狭いので、それで線量が低下するのか。(40代)
- 除染の済んでいる所は少し低くなってはいるようだが、生活するとなると子供への影響が不安。(40代)
- 村内完全除染が出来ないうちは、帰村の判断がつかない。(50代)
- 除染が終っても自宅は線量が高いままなので、今後どの様に下げられるか判断出来ない。(50代)
- 汚染土が自宅前に山積みされている現状では、帰りたくとも帰れない。(60代)
- 放射線量が確実に安全な数値まで下がるのか。(60代)
- 放射線量の低下の目途、除染成果の状況。(70代以上)
- 除染時一時低下したが、しだいに上がってきた。(70代以上)

3-3-10 帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援

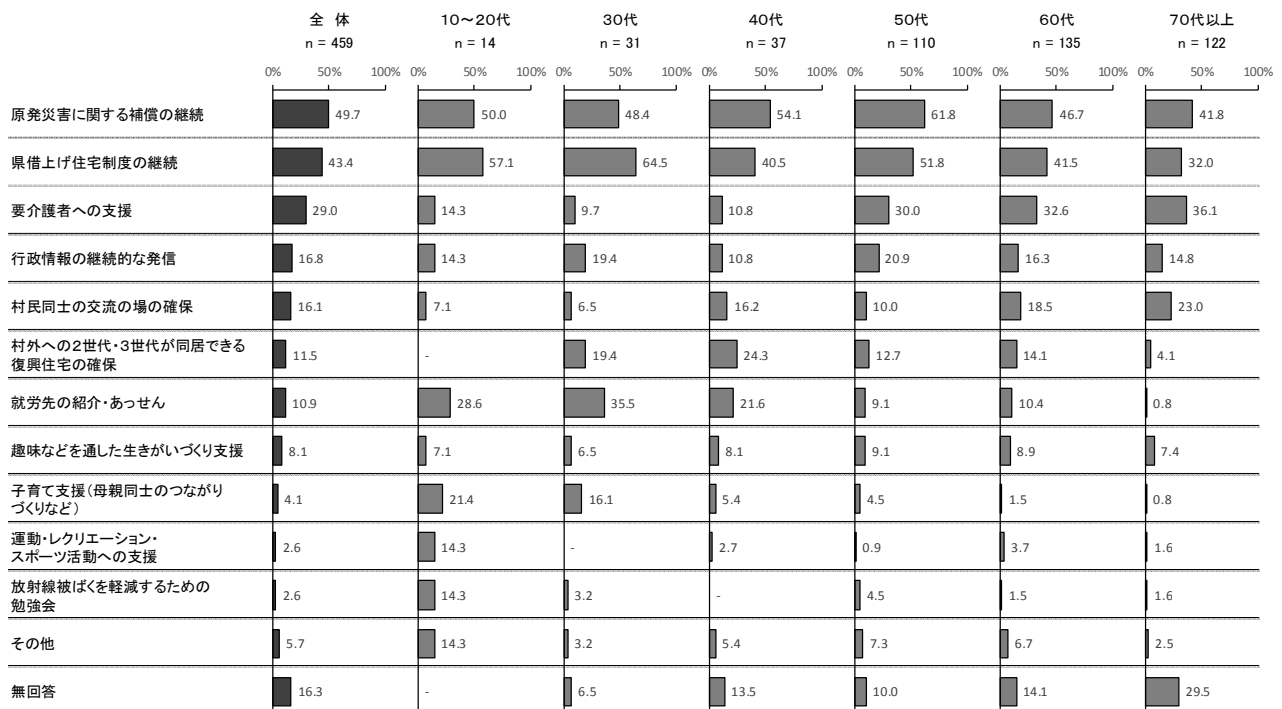
【問 13 で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 13-8 今後、どのような支援を望みますか。(〇は3つまで)

飯舘村への帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援については、「原発災害に関する補償の継続」が49.7%と最も高く、次いで「県借上げ住宅制度の継続」が43.4%、「要介護者への支援」が29.0%となっている。

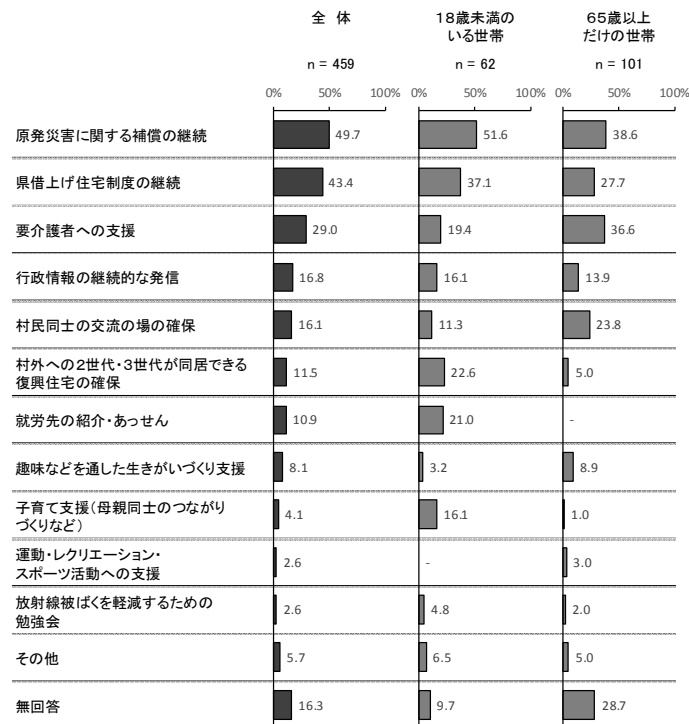
回答者の年齢別にみると、「原発災害に関する補償の継続」は50代(61.8%)、「県借上げ住宅制度の継続」は30代(64.5%)、「就労先の紹介・あっせん」は30代(35.5%)、40代(21.6%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

＜図表3-3-10-1 帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援（年齢別）＞



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「原発被害に関する補償の継続」(51.6%)、「県借上げ住宅制度の継続」(37.1%)、「村外への2世代・3世代が同居できる復興住宅の確保」(22.6%)、「就労先の紹介・あっせん」(21.0%)、「子育て支援(母親同士のつながりづくりなど)」(16.1%)が、65歳以上だけの世帯では「要介護者への支援」(36.6%)、「村民同士の交流の場の確保」(23.8%)が、他の世帯構成と比べて高くなっている。

<図表3-3-10-2 帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援(世帯構成別)>



3-3-11 現時点で戻らないと決めている理由

【問13で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

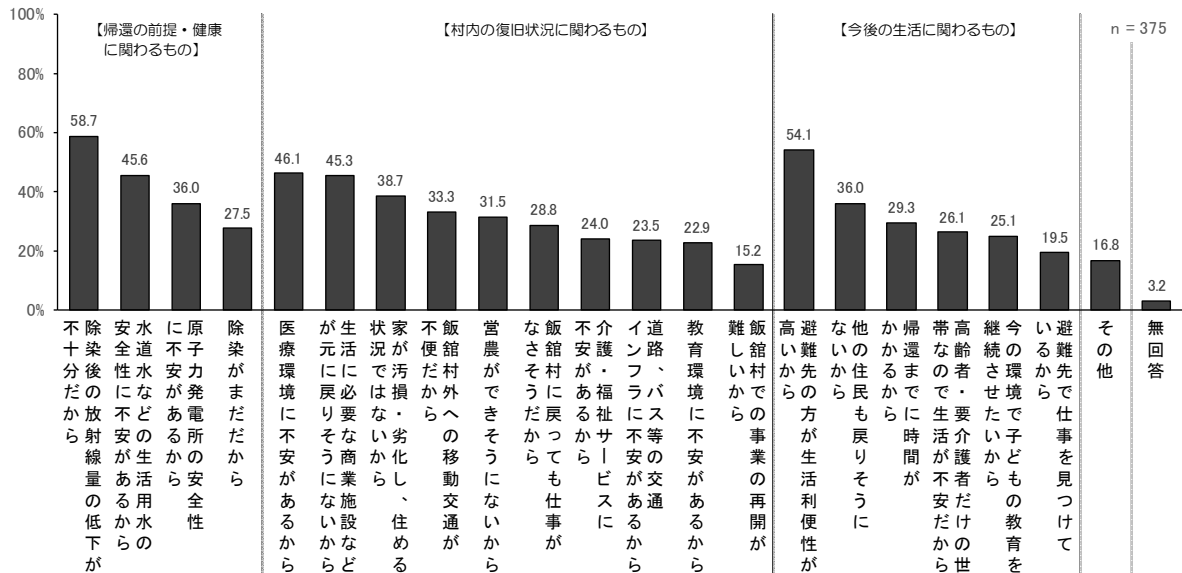
問13-9 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由について、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「除染後の放射線量の低下が不十分だから」が58.7%と最も高く、次いで「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が45.6%、「原子力発電所の安全性に不安があるから」が36.0%となっている。

【村内の復旧に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」が46.1%と最も高く、次いで「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が45.3%、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が38.7%となっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「避難先の方が生活利便性が高いから」が54.1%と最も高く、次いで「他の住民も戻りそうにないから」が36.0%、「帰還までに時間がかかるから」が29.3%となっている。

<図表3-3-11-1 現時点で戻らないと決めている理由>

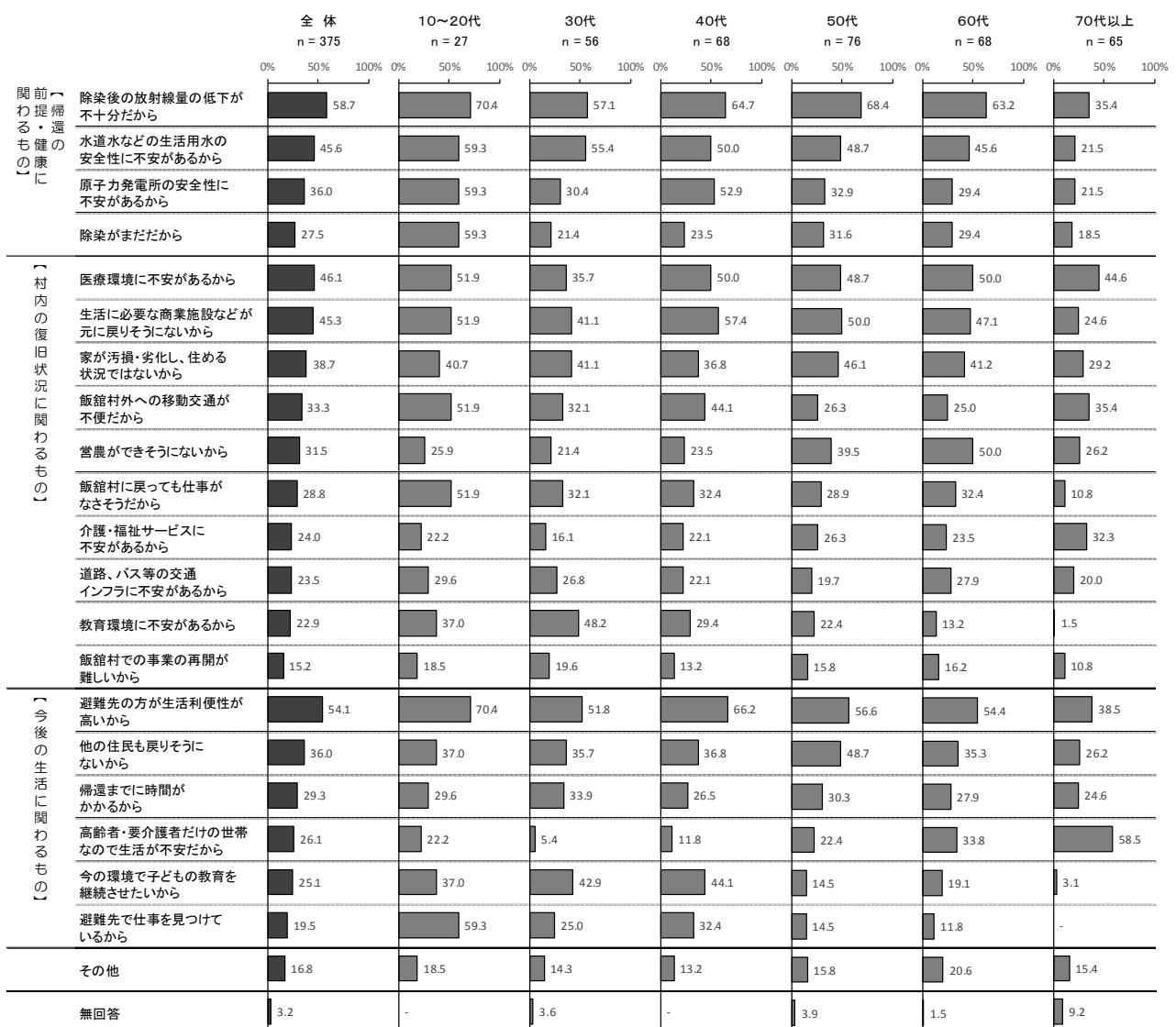


回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「除染後の放射線量の低下が不十分だから」は40代(64.7%)、50代(68.4%)、「原子力発電所の安全性に不安があるから」は40代(52.9%)、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は30代(55.4%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

【村内の復旧に関わるもの】では、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」は40代(57.4%)、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」は50代(46.1%)、「飯館村外への移動交通が不便だから」は40代(44.1%)で、他の年齢と比べて高くなっている。また、「教育環境に不安があるから」は30代(48.2%)、40代(29.4%)で高い。

【今後の生活に関わるもの】では、「避難先の方が生活利便性が高いから」は40代(66.2%)で6割台後半を占めている。「他の住民も戻りそうにないから」は50代(48.7%)、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は30代(42.9%)、40代(44.1%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-3-11-2 現時点で戻らないと決めている理由(年齢別)>

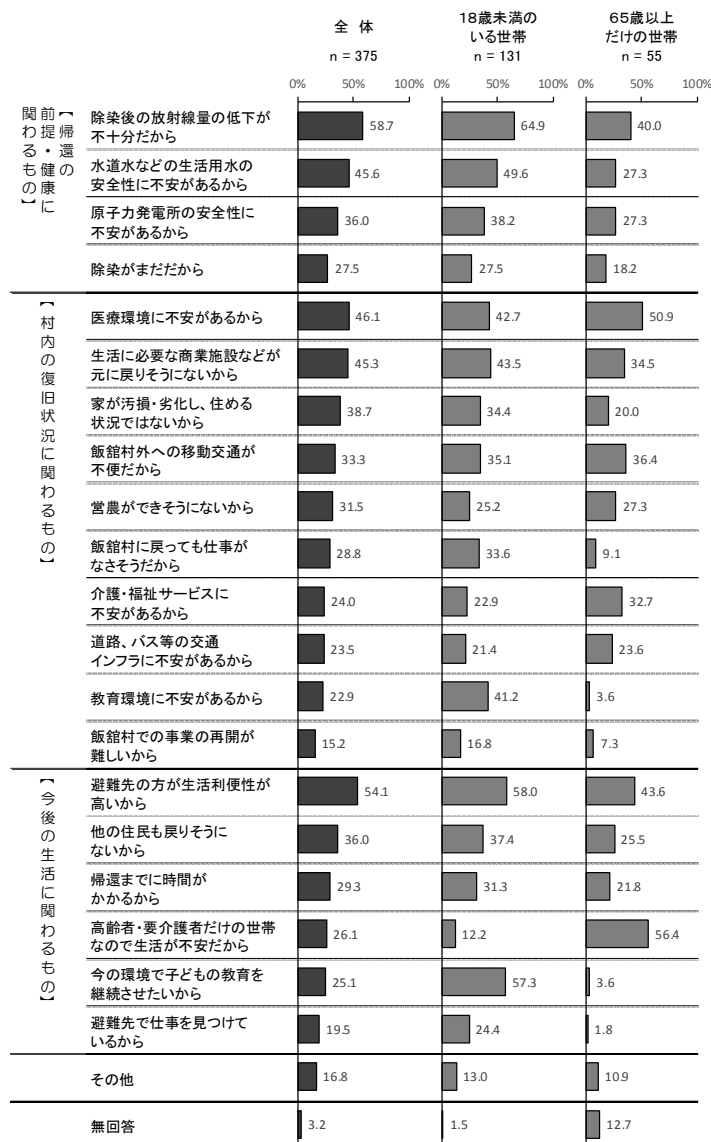


世帯構成別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、18歳未満のいる世帯では「除染後の放射線量の低下が不十分だから」(64.9%)、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」(49.6%)が、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。

【村内の復旧に関わるもの】では、18歳未満のいる世帯では「教育環境に不安があるから」(41.2%)、「飯館村に戻っても仕事がなさそうだから」(33.6%)が、65歳以上だけの世帯では「医療関係に不安があるから」(50.9%)、「介護・福祉サービスに不安があるから」(32.7%)が、他の世帯構成と比べて高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、18歳未満のいる世帯では「避難先の方が生活利便性が高いから」(58.0%)、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」(57.3%)、「避難先で仕事を見つけているから」(24.4%)が、65歳以上だけの世帯では「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」(56.4%)が、他の世帯構成と比べて高くなっている。

<図表3-3-11-3 現時点で戻らないと決めている理由(世帯構成別)>



3-3-12 帰還しない場合に居住したい自治体

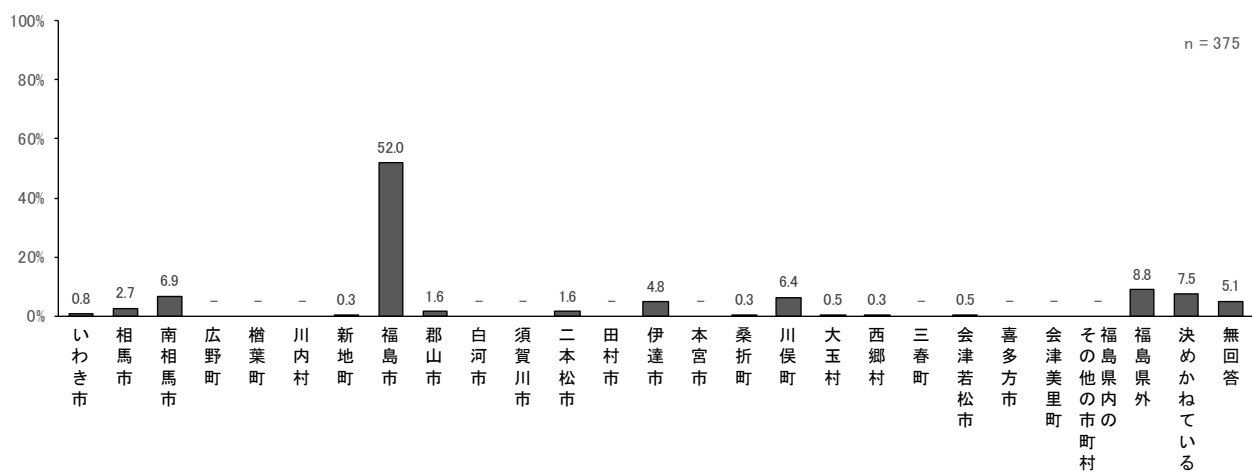
【問13で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問13-10 帰還しない場合に、居住を希望する市区町村名を教えてください。(○は1つ)

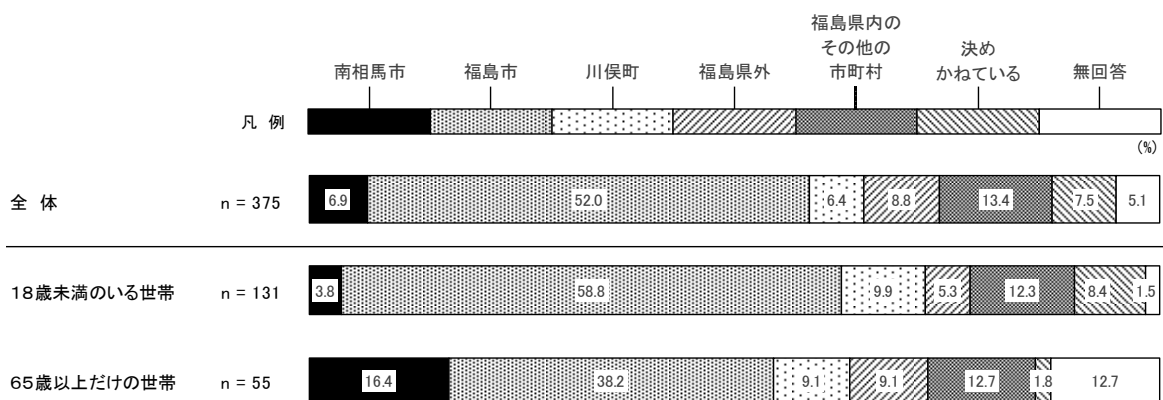
帰還しない場合に居住したい自治体については、「福島市」が52.0%と最も高く、次いで「福島県外」が8.8%、「決めかねている」が7.5%となっている。

世帯構成別にみると、いずれの世帯でも「福島市」の割合が最も高くなっている。一方、「南相馬市」は65歳以上だけの世帯では16.4%となっており、18歳未満のいる世帯の3.8%と比べて高くなっている。

<図表3-3-12-1 帰還しない場合に居住したい自治体>



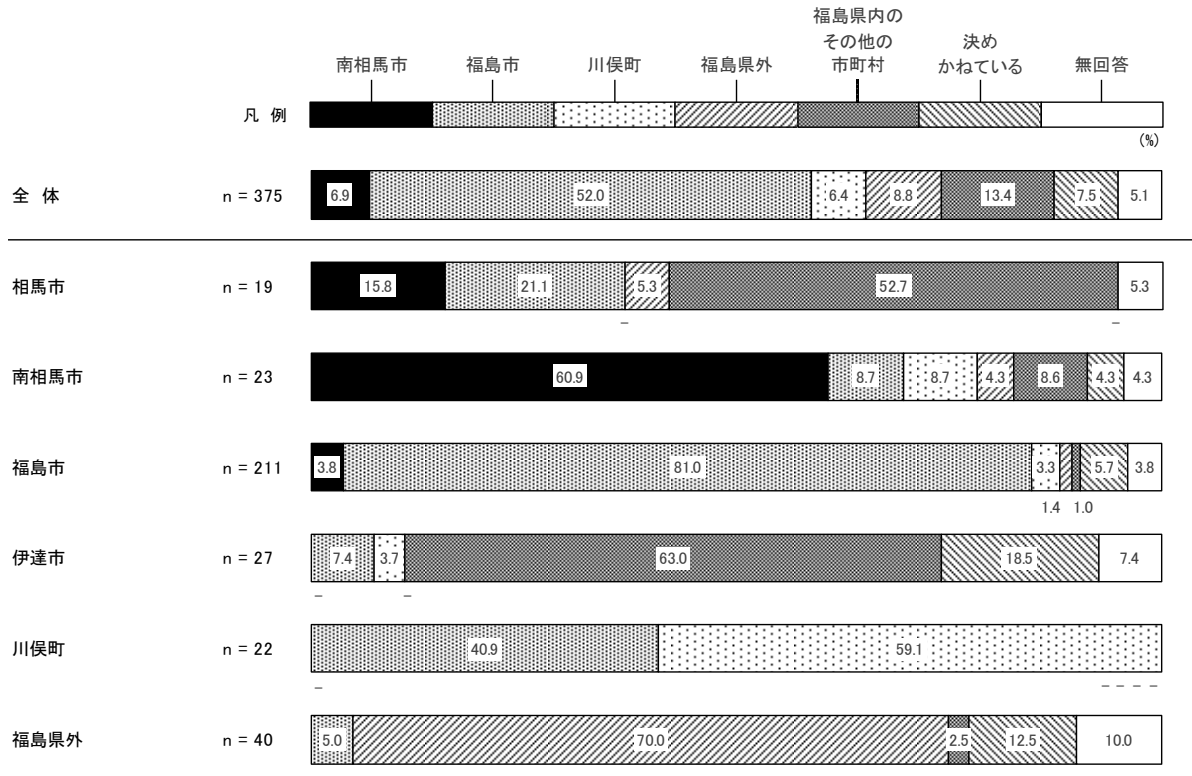
<図表3-3-12-2 帰還しない場合に居住したい主な自治体（世帯構成別）>



III 調査結果

主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体でも避難先の自治体での居住を希望する割合が高くなっている。

<図表3-3-12-3 帰還しない場合に居住したい主な自治体（主な避難先自治体別）>



3-3-13 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

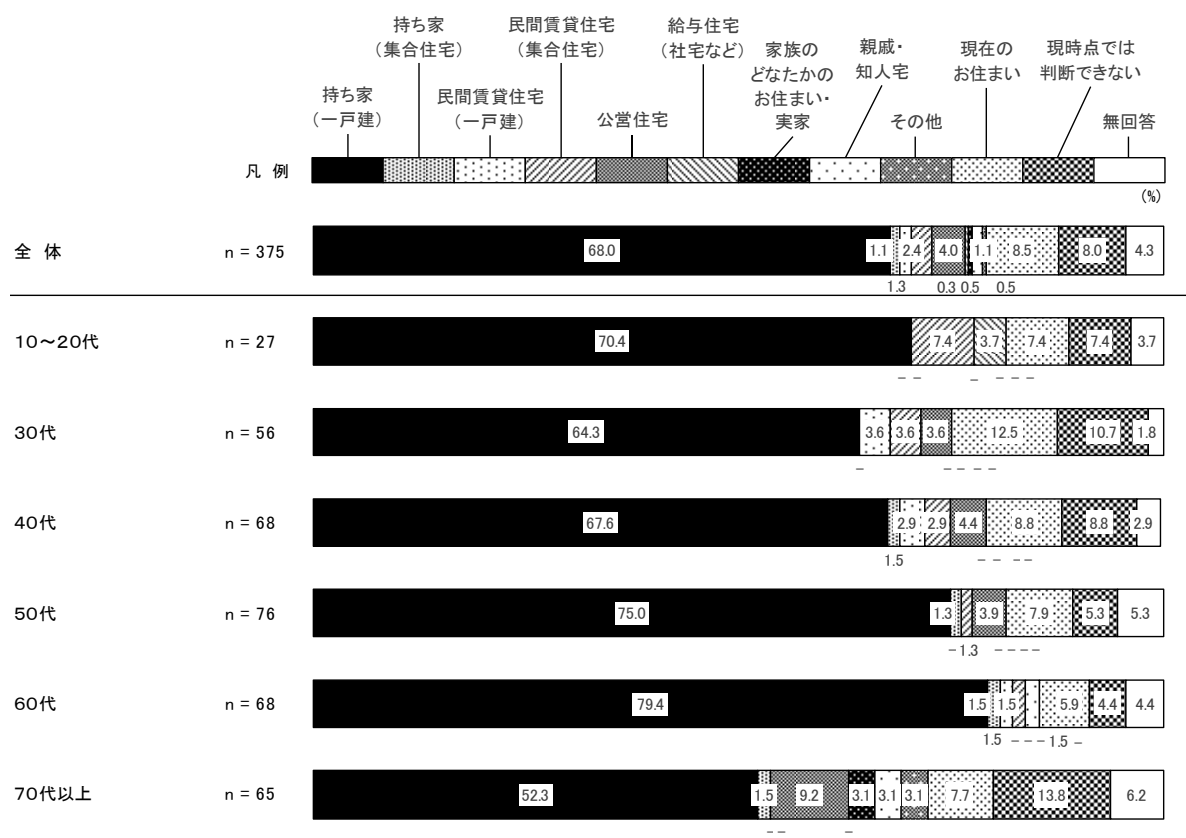
【問13で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問13-11 帰還しない場合に、今後のお住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

帰還せず別の自治体に転居する場合に希望する住居形態については、「持ち家(一戸建)」が68.0%と最も高く、次いで「現在のお住まい」が8.5%、「現時点では判断できない」が8.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、いずれの年齢でも「持ち家(一戸建)」の割合が最も高くなっている。「民間賃貸住宅(集合住宅)」は10~20代(7.4%)、「公営住宅」は70代以上(9.2%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-3-13-1 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態(年齢別)>



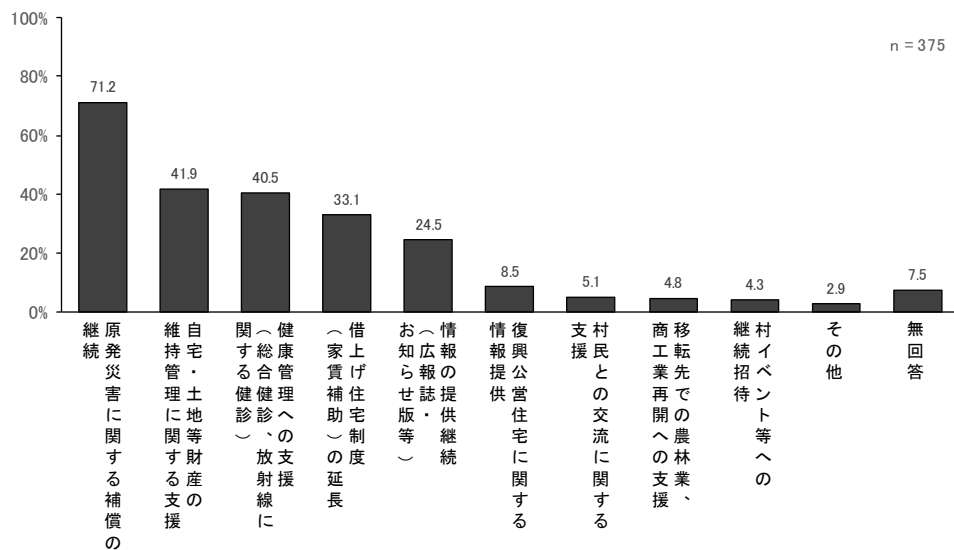
3-3-14 飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援

【問13で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問13-12 今後、どのような支援を望みますか。(〇は3つまで)

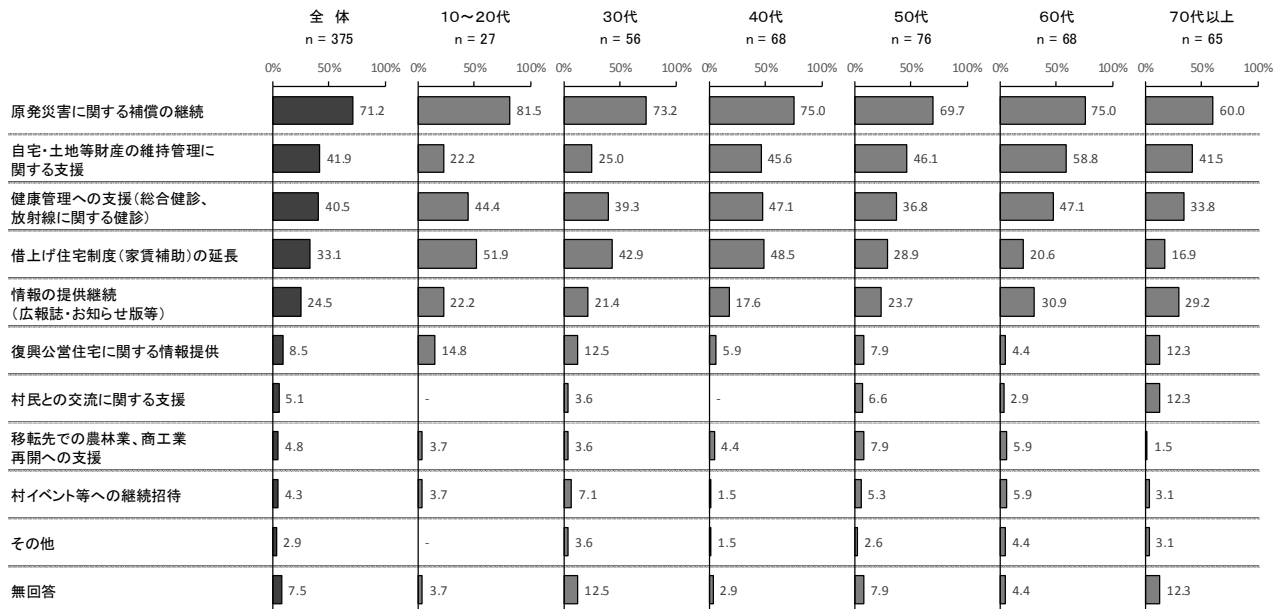
飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援については、「原発災害に関する補償の継続」が71.2%と最も高く、次いで「自宅・土地等財産の維持管理に関する支援」が41.9%、「健康管理への支援（総合健診、放射線に関する健診）」が40.5%となっている。

<図表3-3-14-1 飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援>



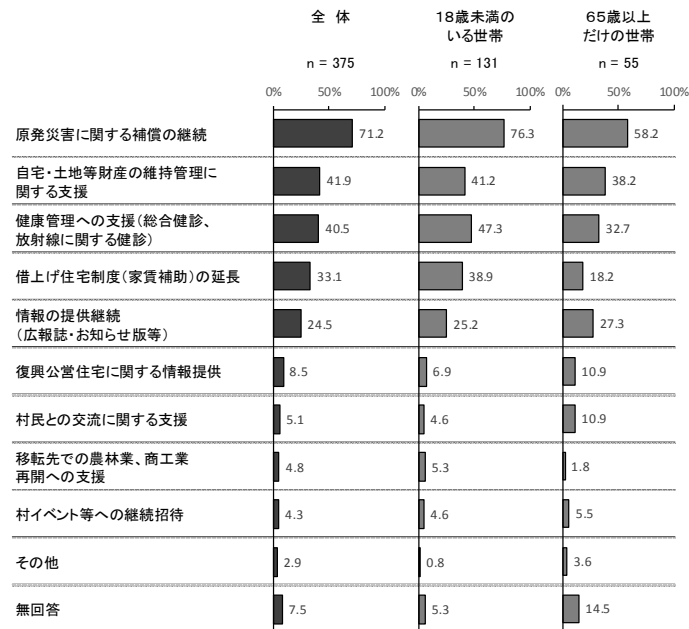
回答者の年齢別にみると、いずれの年齢でも「原発災害に関する補償の継続」の割合が最も高くなっている。「自宅・土地等財産の維持管理に関する支援」は60代（58.8%）、「健康管理への支援（総合健診、放射線に関する健診）」は40代（47.1%）、60代（47.1%）、「借上げ住宅制度（家賃補助）の延長」は30代（42.9%）、40代（48.5%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-3-14-2 飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「原発災害に関する補償の継続」(76.3%)、「健康管理への支援(総合健診、放射線に関する健診)」(47.3%)、「借上げ住宅制度(家賃補助)の延長」(38.9%)が、65歳以上だけの世帯と比べ高くなっている。

<図表3-3-14-3 飯館村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援(世帯構成別)>



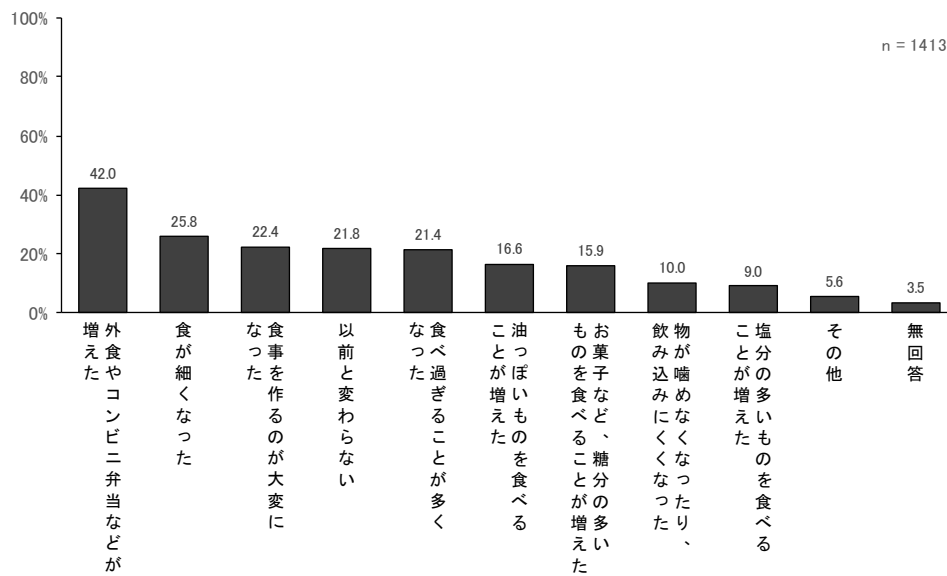
3-4 現在の生活について

3-4-1 避難後の家族の食生活・栄養状態

問 14 避難後のご家族（ご自身を含む）の食生活・栄養状態などについてどのように変化しましたか。（〇はいくつでも）

避難後の家族の食生活・栄養状態については、「外食やコンビニ弁当などが増えた」が42.0%と最も高く、次いで「食が細くなった」が25.8%、「食事を作るのが大変になった」が22.4%となっている。

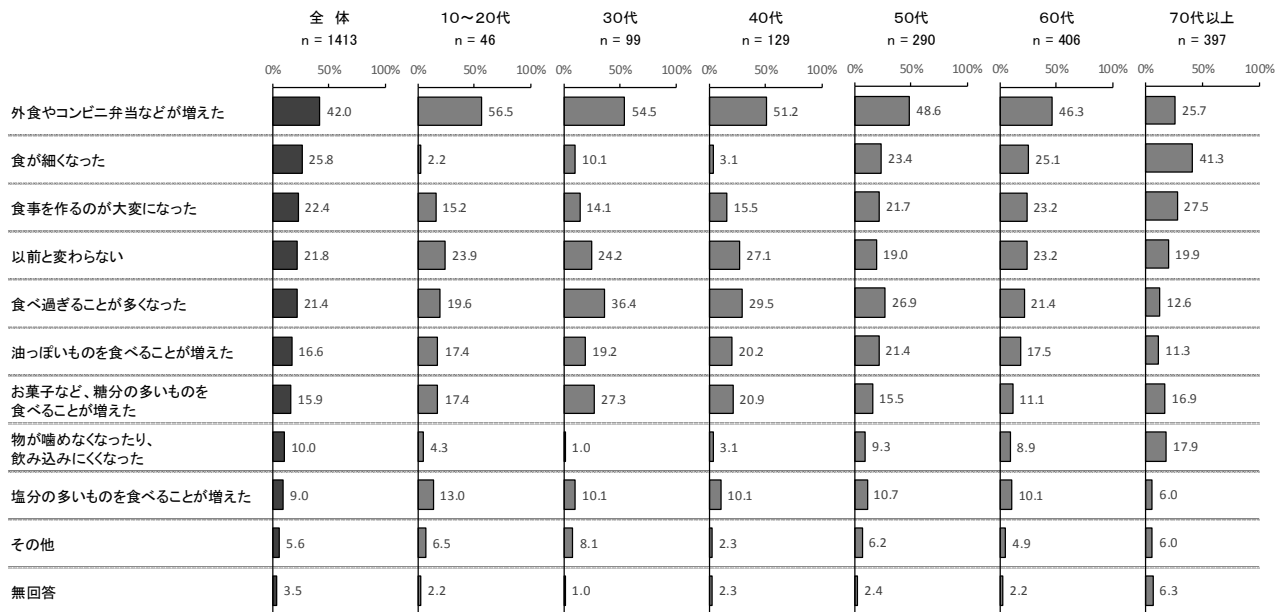
<図表3-4-1-1 飯舘村への避難後の家族の食生活・栄養状態>



III 調査結果

回答者の年齢別にみると、「外食やコンビニ弁当が増えた」は70代以上を除き、いずれの年齢でも割合が最も高くなっている。一方、70代以上では「食が細くなった」(41.3%)、「食事を作るのが大変になった」(27.5%)が、他の年齢と比べて高くなっている。また、30代では「食べ過ぎることが多くなった」(36.4%)、「お菓子など、糖分の多いものを食べるが増えた」(27.3%)が、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-4-1-2 飯舘村への避難後の家族の食生活・栄養状態(年齢別)>

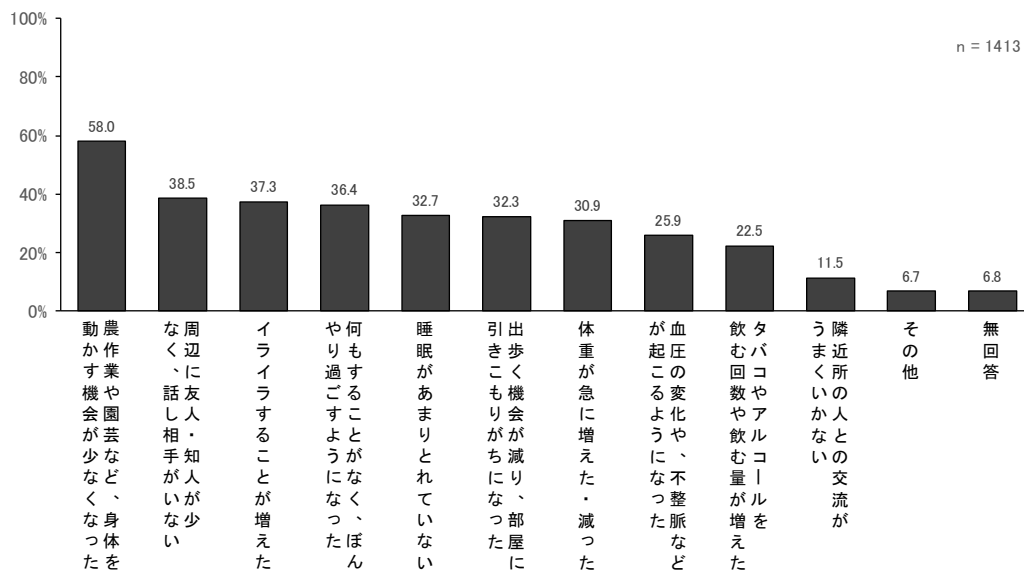


3-4-2 家族の生活や体調などの変化

問 15 避難生活が続く中で、ご家族（ご自身を含む）の生活や体調などに変化はありますか。（〇はいくつでも）

家族の生活や体調などの変化については、「農作業や園芸など、身体を動かす機会が少なくなった」が58.0%と最も高く、次いで「周辺に友人・知人が少なく、話し相手がいない」が38.5%、「イライラすることが増えた」が37.3%となっている。

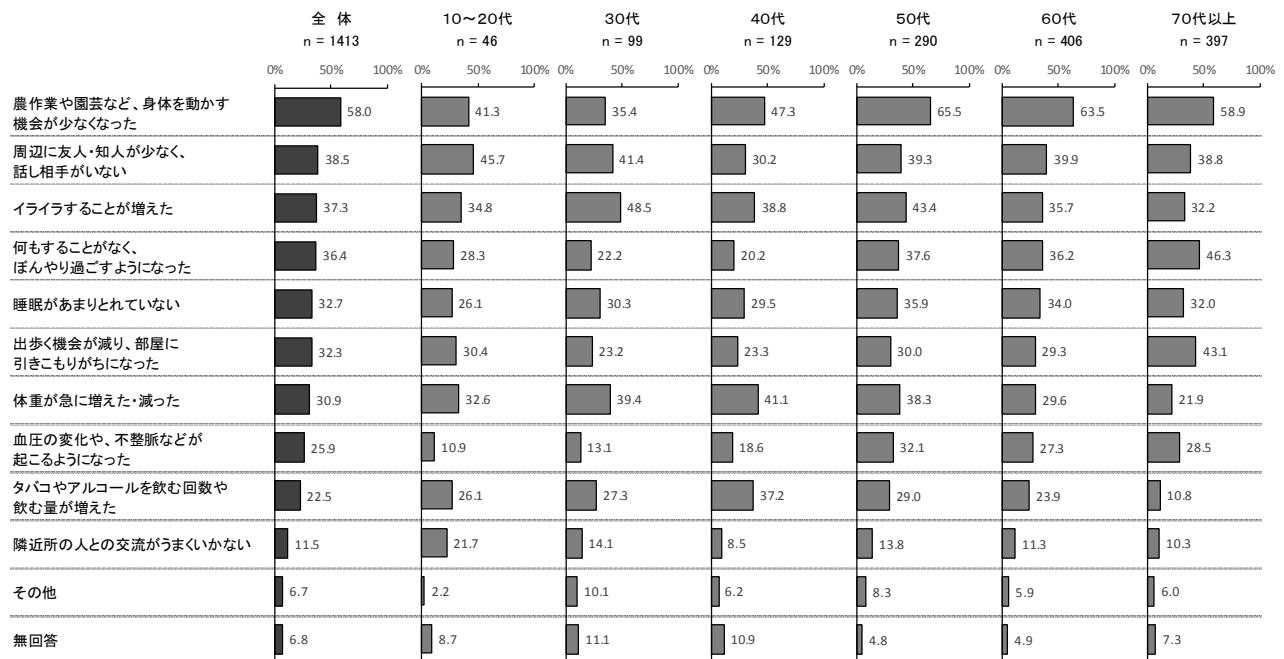
<図表3-4-2-1 家族の生活や体調の変化>



III 調査結果

回答者の年齢別にみると、50代以上では「農作業や園芸など、身体を動かす機会が少なくなった」が6割前後となっている。また、70代以上では「何もすることがなく、ぼんやり過ごすようになった」が46.3%で、他の年齢と比べて高くなっている。一方、10～20代では「周辺に友人・知人が少なく、話し相手がいない」が45.7%、30代では「イライラすることが増えた」が48.5%で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-4-2-2 家族の生活や体調の変化（年齢別）>



3-4-3 家族の健康状態

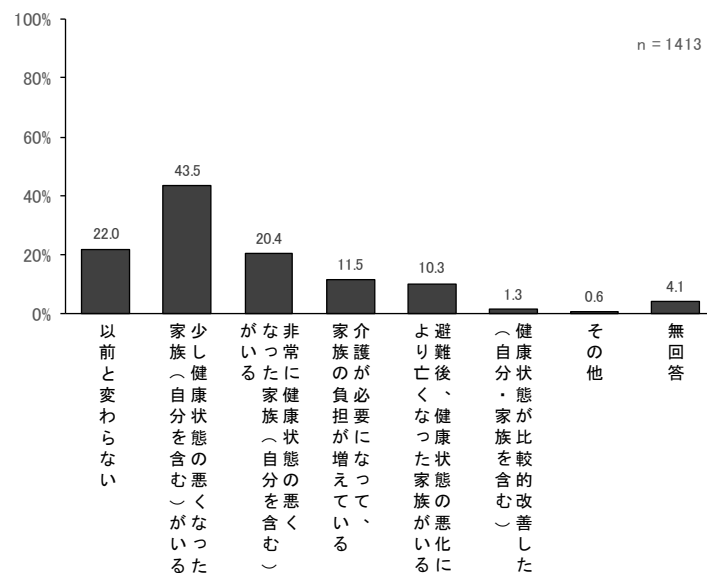
問 16 ご家族（ご自身を含む）の健康状態（病気など）はいかがですか。（〇は1つ）

※本設問は単一回答での調査であったが、複数回答が多く見受けられたため、複数回答として処理した

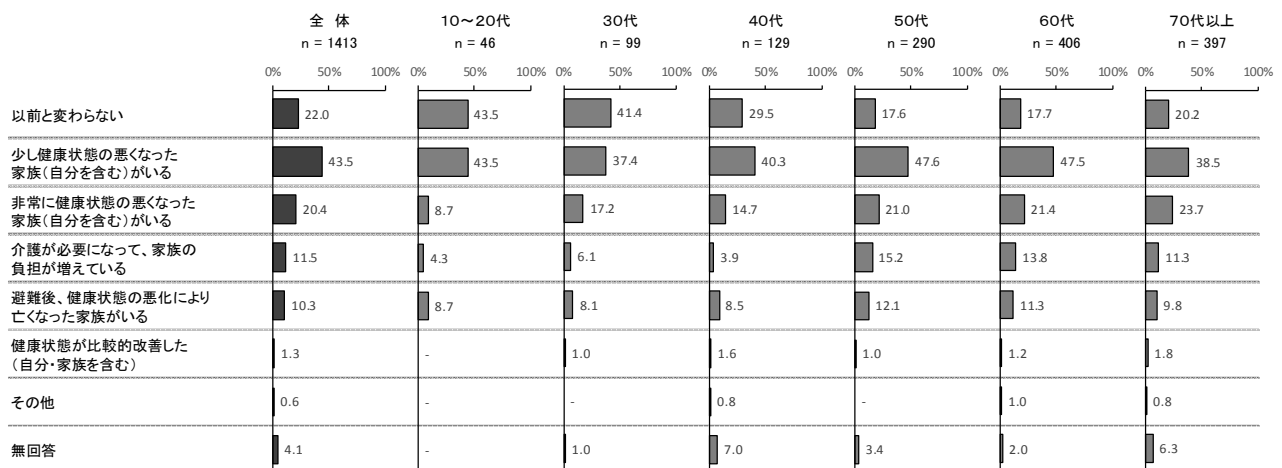
家族の健康状態については、「少し健康状態が悪くなった家族（自分を含む）がいる」が 43.5%と最も高く、次いで「以前と変わらない」が 22.0%、「非常に健康状態が悪くなった家族（自分を含む）がいる」が 20.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、いずれの年齢でも「少し健康状態が悪くなった家族（自分を含む）がいる」の割合が最も高くなっている。一方、「以前と変わらない」は、10～20代（43.5%）、30代（41.4%）では4割を超えるが、40代では3割弱、50代以上では2割前後となっている。

<図表3-4-3-1 家族の健康状態>



<図表3-4-3-2 家族の健康状態（年齢別）>



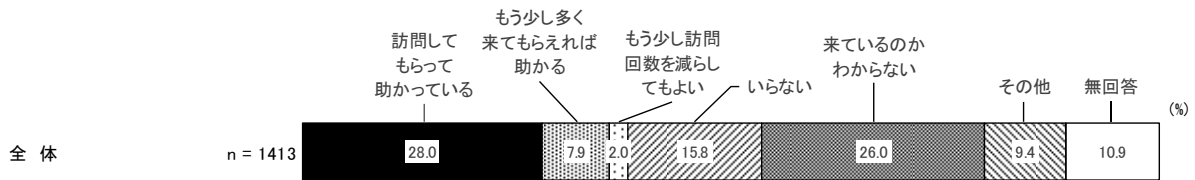
3-4-4 飯舘村で実施している家庭訪問による健康・生活支援相談

問 17 現在村では各家庭を訪問し健康相談や生活支援相談などを行っていますが、どのような感想をお持ちですか。(〇は1つ)

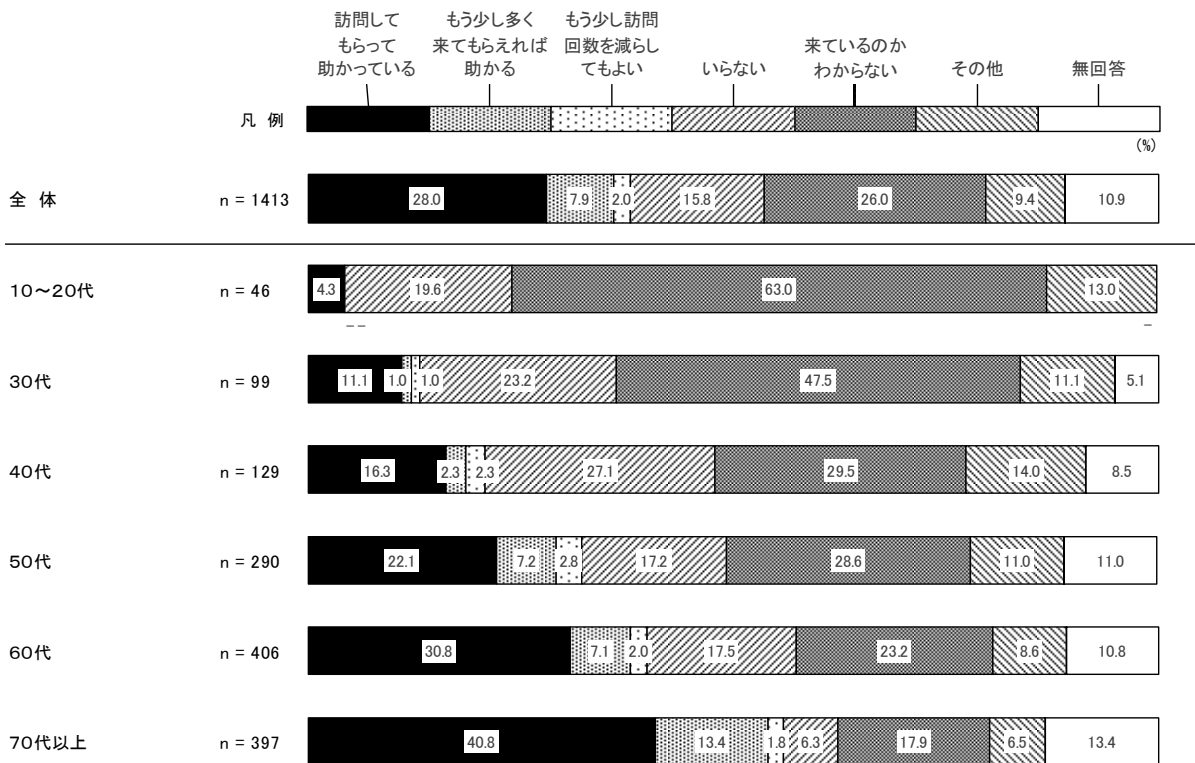
飯舘村で実施している家庭訪問による健康・生活支援相談については、「訪問してもらって助かっている」が28.0%と最も高く、次いで「来ているのかわからない」が26.0%、「いらぬい」が15.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「訪問してもらって助かっている」は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなっており、70代以上では40.8%となっている。一方、「来ているのかわからない」は、10~20代(63.0%)、30代(47.5%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-4-4-1 飯舘村で実施している家庭訪問による健康・生活支援相談>

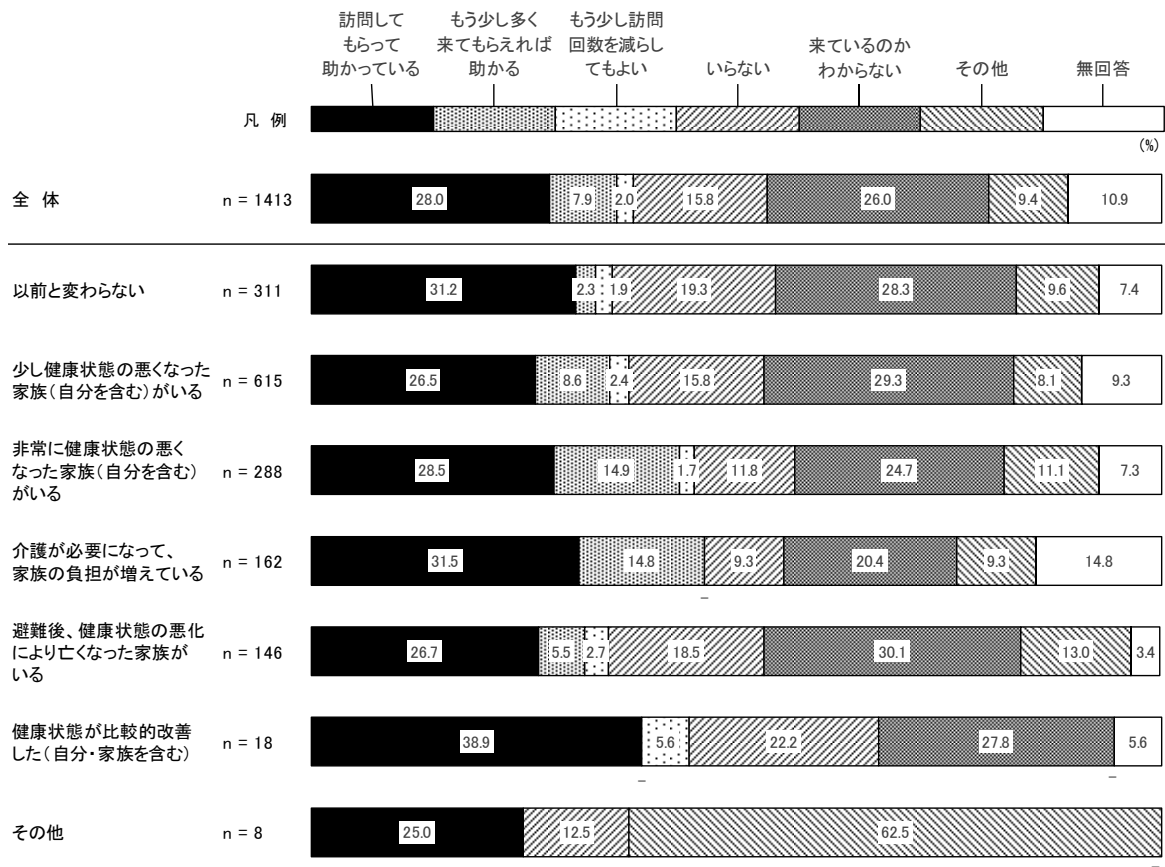


<図表3-4-4-2 飯舘村で実施している家庭訪問による健康・生活支援相談(年齢別)>



家族の健康状態別にみると、「訪問してもらって助かっている」は健康状態が比較的改善した（自分・家族を含む）家族（38.9%）、「もう少し多く来てもらえれば助かる」は非常に健康状態が悪くなった家族（自分を含む）がいる家族（14.9%）、介護が必要になって、家族の負担が増えている家族（14.8%）で高くなっている。

＜図表3-4-4-3 飯館村で実施している家庭訪問による健康・生活支援相談（家族の健康状態別）＞

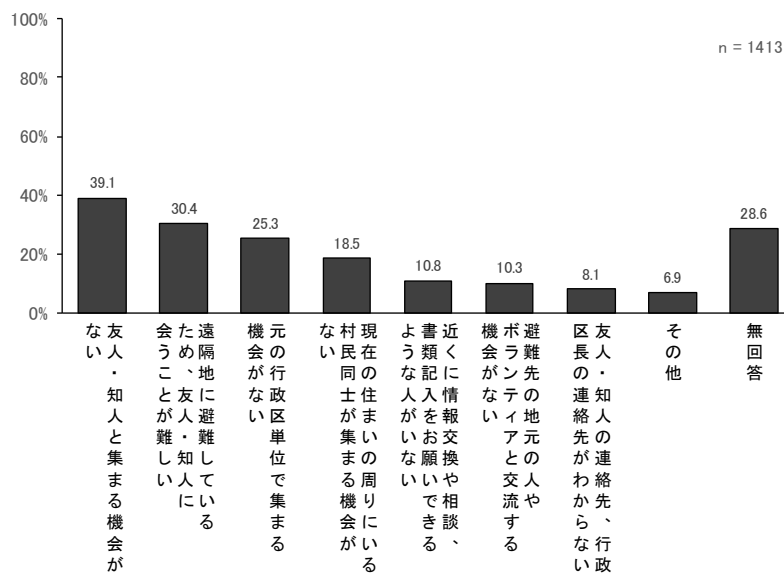


3-4-5 友人・知人・地域コミュニティ面での困りごと

問 18 これまでのご近所づきあいなど、友人・知人とのお付き合いや地域コミュニティの面で、お困りのことはありますか。(〇はいくつでも)

友人・知人・地域コミュニティの面での困りごとについては、「友人・知人と集まる機会がない」が39.1%と最も高く、次いで「遠隔地に避難しているため、友人・知人に会うことが難しい」が30.4%、「元の行政区単位で集まる機会がない」が25.3%となっている。

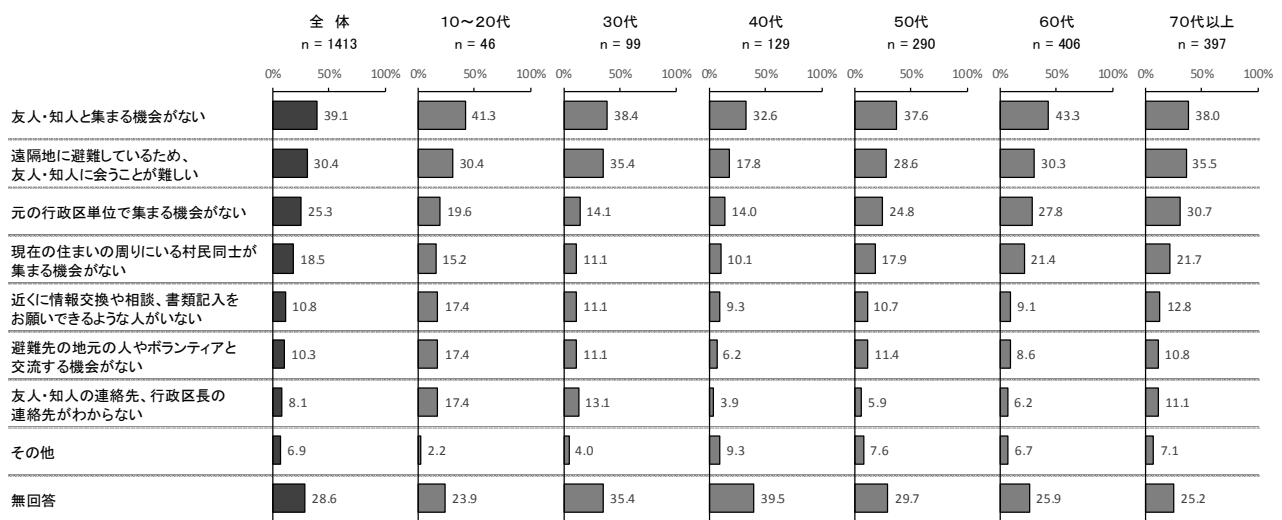
<図表3-4-5-1 友人・知人・地域コミュニティの面での困りごと>



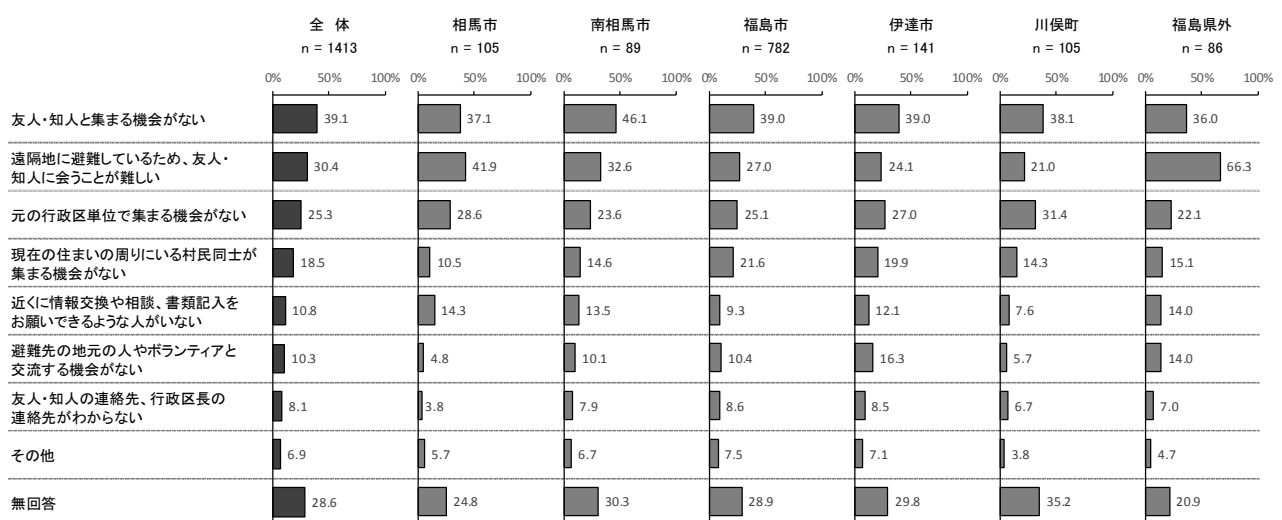
回答者の年齢別にみると、「遠隔地に避難しているため、友人・知人に会うことが難しい」は30代（35.4%）、70代以上（35.5%）、「元の行政区単位で集まる機会がない」は70代以上（30.7%）、「避難先の地元の人やボランティアと交流する機会がない」は10～20代（17.4%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

主な避難先自治体別にみると、「友人・知人と集まる機会がない」は南相馬市（46.1%）、「遠隔地に避難しているため、友人・知人に会うことが難しい」は相馬市（41.9%）、福島県外（66.3%）で、他の自治体と比べて高くなっている。

<図表3-4-5-2 友人・知人・地域コミュニティの面での困りごと（年齢別）>



<図表3-4-5-3 友人・知人・地域コミュニティの面での困りごと（主な避難先自治体別）>



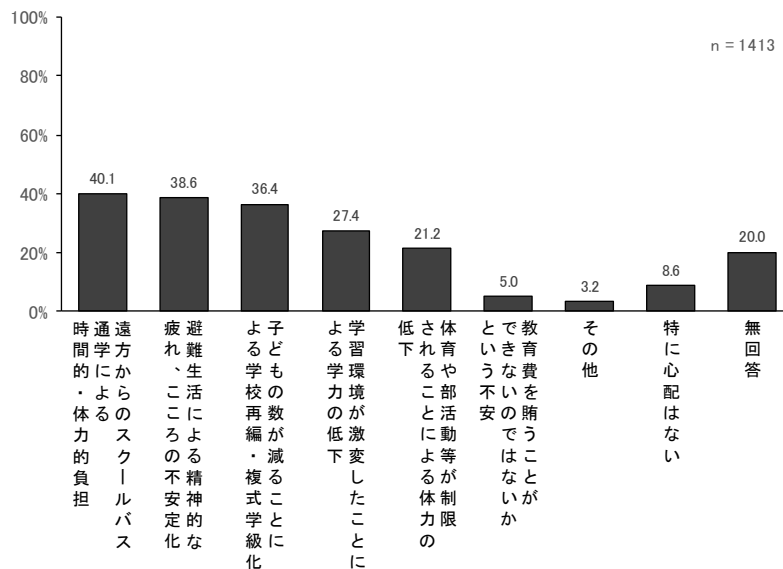
3-4-6 子どもたちの教育についての心配ごと

問 19 村の将来を担う子どもたちの教育について、今後心配な事がありますか。(〇は3つまで)

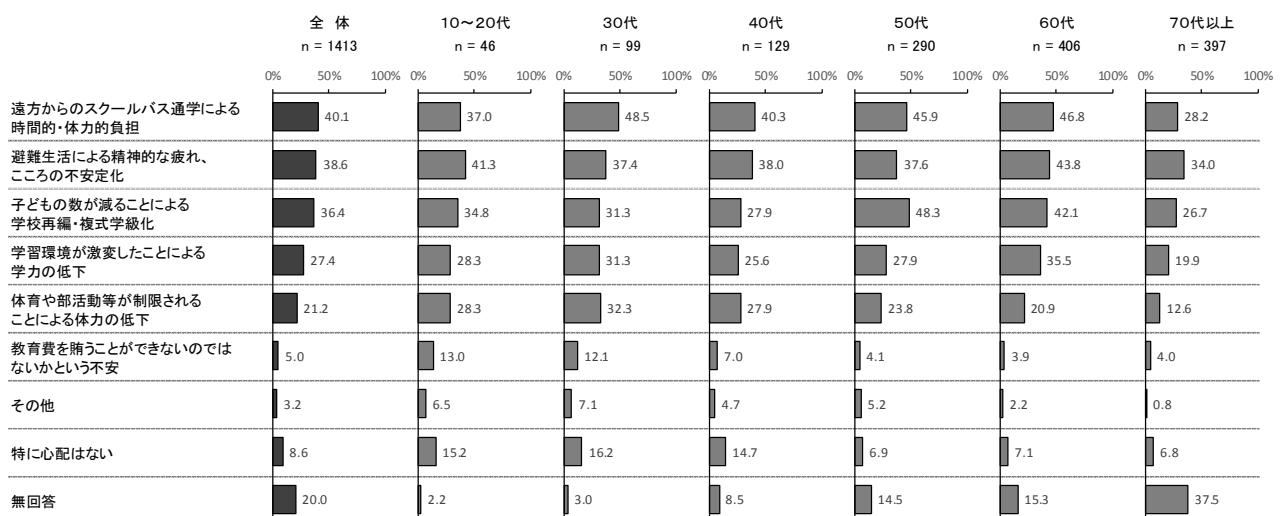
子どもたちの教育についての心配ごとについては、「遠方からのスクールバス通学による時間的・体力的負担」が40.1%と最も高く、次いで「避難生活による精神的な疲れ、こころの不安定化」が38.6%、「子どもの数が減ることによる学校再編・複式学級化」が36.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「子どもの数が減ることによる学校再編・複式学級化」は50代(48.3%)、60代(42.1%)、「体育や部活動等が制限されることによる体力の低下」は10~20代(28.3%)、30代(32.3%)、40代(27.9%)で、他の年齢と比べて高くなっている。また、「教育費を賄うことができないのではないかという不安」は10代~30代で1割を超えている。

<図表3-4-6-1 子どもたちの教育についての心配ごと>



<図表3-4-6-2 子どもたちの教育についての心配ごと(年齢別)>



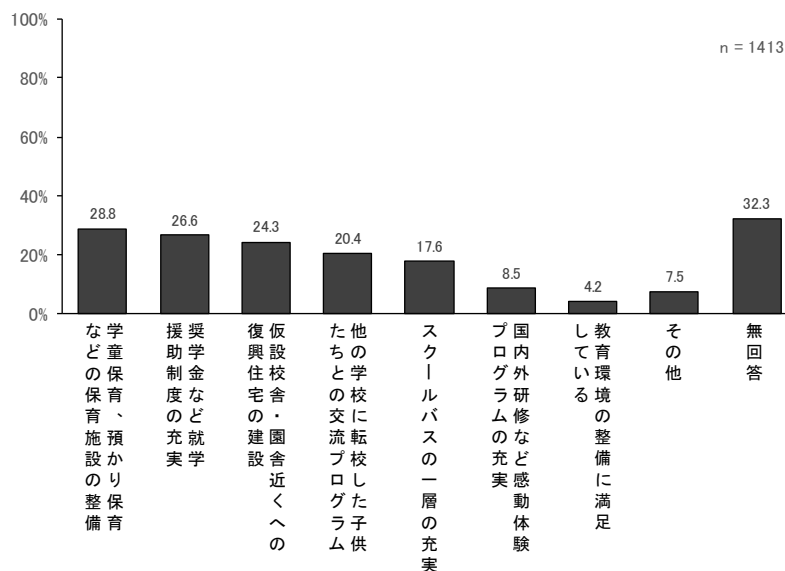
3-4-7 教育の充実を図るために必要なこと

問 20 村では、村外に仮設校舎や園舎を建て、教育環境を整備しています。今後一層教育の充実を図るため、どのようなことが必要だとお考えですか。(〇は3つまで)

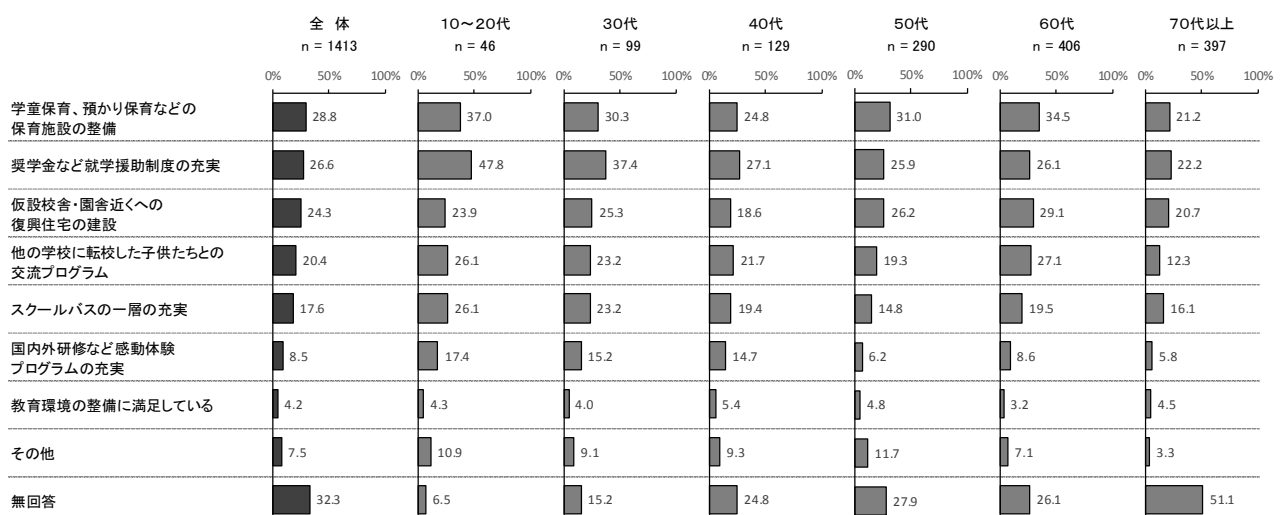
教育の充実を図るために必要なことについては、「学童保育、預かり保育などの保育施設の整備」が28.8%と最も高く、次いで「奨学金など就学援助制度の充実」が26.6%、「仮設校舎・園舎近くへの復興住宅の建設」が24.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「学童保育、預かり保育などの保育施設の整備」は10～20代(37.0%)、「奨学金など就学援助制度の充実」は10～20代(47.8%)、30代(37.4%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-4-7-1 教育の充実を図るために必要なこと>



<図表3-4-7-2 教育の充実を図るために必要なこと(年齢別)>



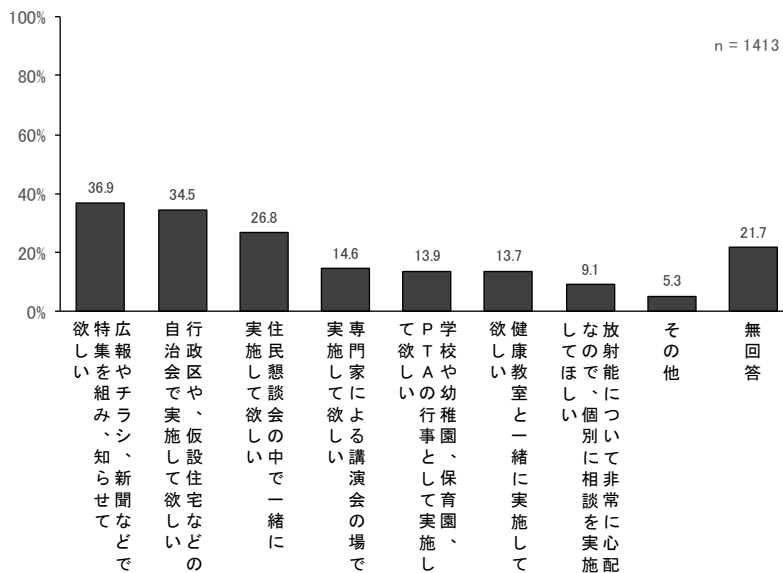
3-4-8 放射線についての勉強会等の開催する際の参加のしやすさ

問21 放射線については、村では情報誌「かわら版みちしるべ」を中心に情報提供を行っておりますが、この他、放射線に対しての勉強会等を開催する場合、どのように実施すると参加しやすいですか。(〇はいくつでも)

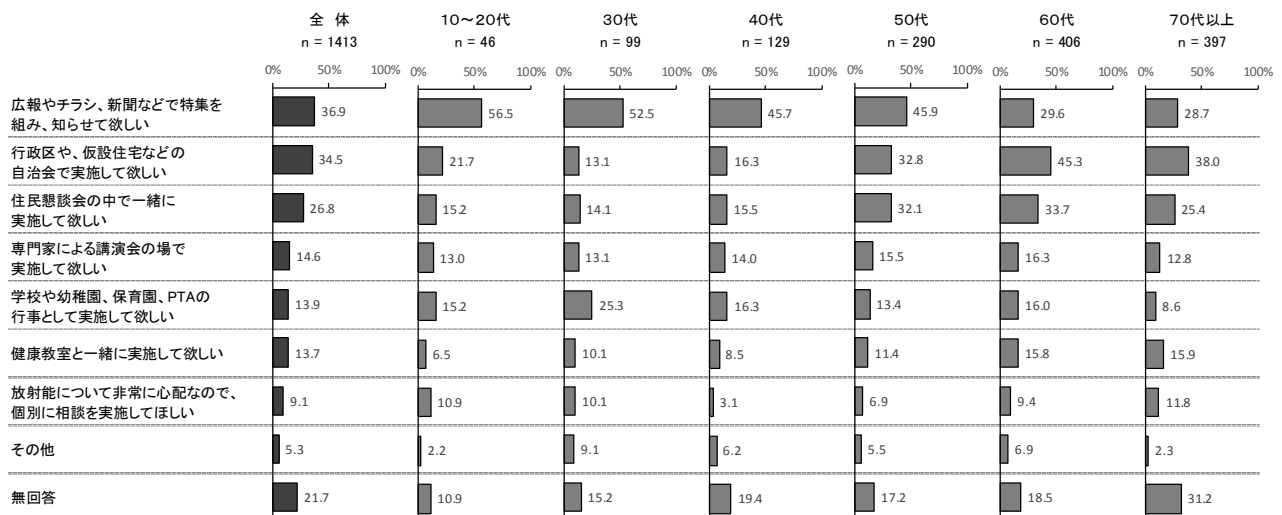
放射線についての勉強会等の開催する際の参加のしやすさについては、「広報やチラシ、新聞などで特集を組み、知らせて欲しい」が36.9%と最も高く、次いで「行政区や、仮設住宅などの自治会で実施して欲しい」が34.5%、「住民懇談会の中で一緒に実施して欲しい」が26.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「広報やチラシ、新聞などで特集を組み、知らせて欲しい」は10～50代で5割前後となっている。一方、「行政区や、仮設住宅などの自治会で実施して欲しい」は60代以上で4割前後となっている。また、「住民懇談会の中で一緒に実施して欲しい」は50代(32.1%)、60代(33.7%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-4-8-1 放射線についての勉強会等の開催する際の参加のしやすさ>



<図表3-4-8-2 放射線についての勉強会等の開催する際の参加のしやすさ(年齢別)>

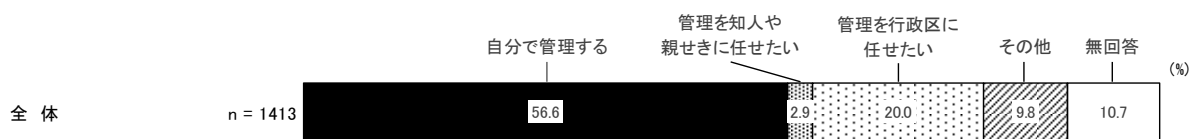


3-4-9 除染終了後の家屋及び家屋周辺の維持管理

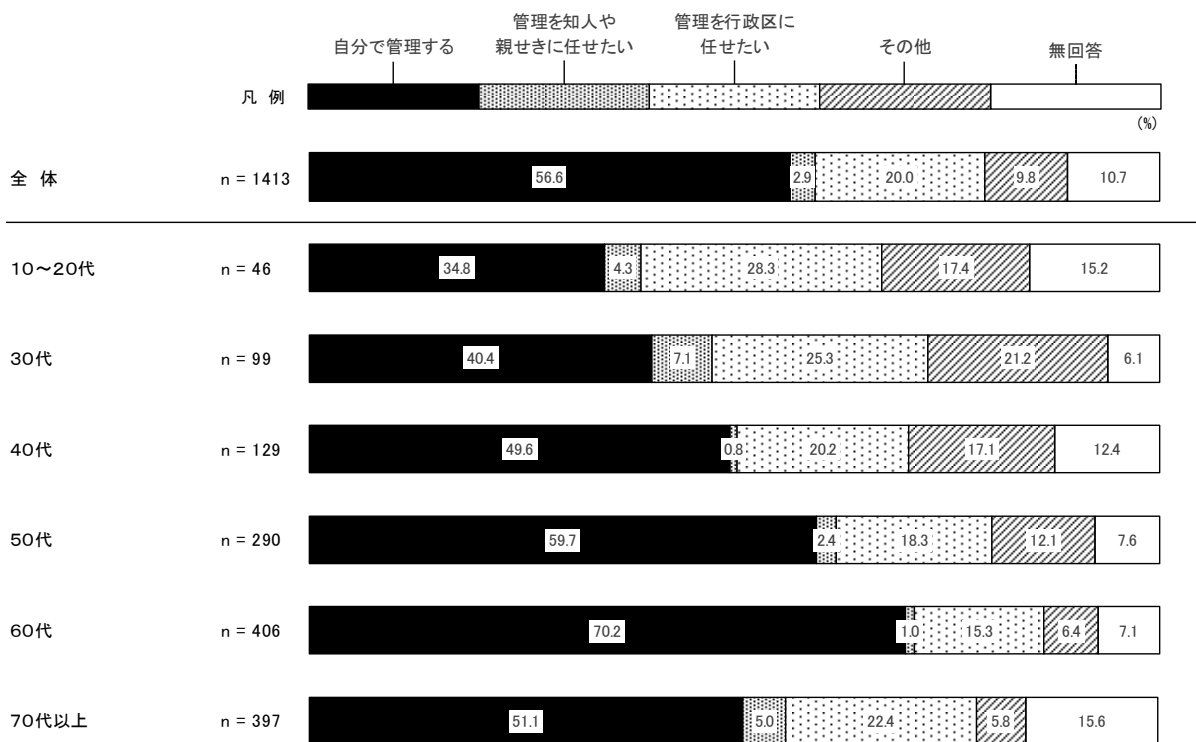
問 22 除染が終了した後の家屋及び家屋周辺の維持管理についてはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

除染終了後の家屋及び家屋周辺の維持管理については、「自分で管理する」が56.6%と最も高く、次いで「管理を行政区に任せたい」が20.0%、「管理を知人や親せきに任せたい」が2.9%となっている。
 回答者の年齢別にみると、「自分で管理する」は、50代(59.7%)、60代(70.2%)で、他の年齢と比べて高くなっている。一方、「管理を行政区に任せたい」は10~20代(28.3%)、30代(25.3%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-4-9-1 除染終了後の家屋及び家屋周辺の維持管理>



<図表3-4-9-2 除染終了後の家屋及び家屋周辺の維持管理(年齢別)>



3-4-10 除染終了後の農地の維持管理

【農地を所有するすべての方にうかがいます。】

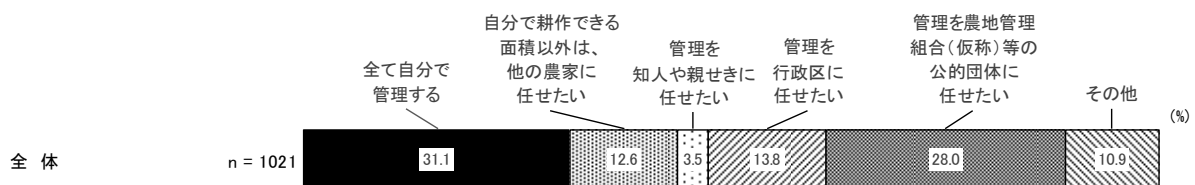
問 23 除染が終了した後の農地の維持管理についてはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

※本設問は農地を所有するすべての方にうかがう調査であったが、農地を所有していないため回答しなかったと思われる回答が多く見受けられた。そのため、本設問を回答した方が農地を所有しているものとして処理した

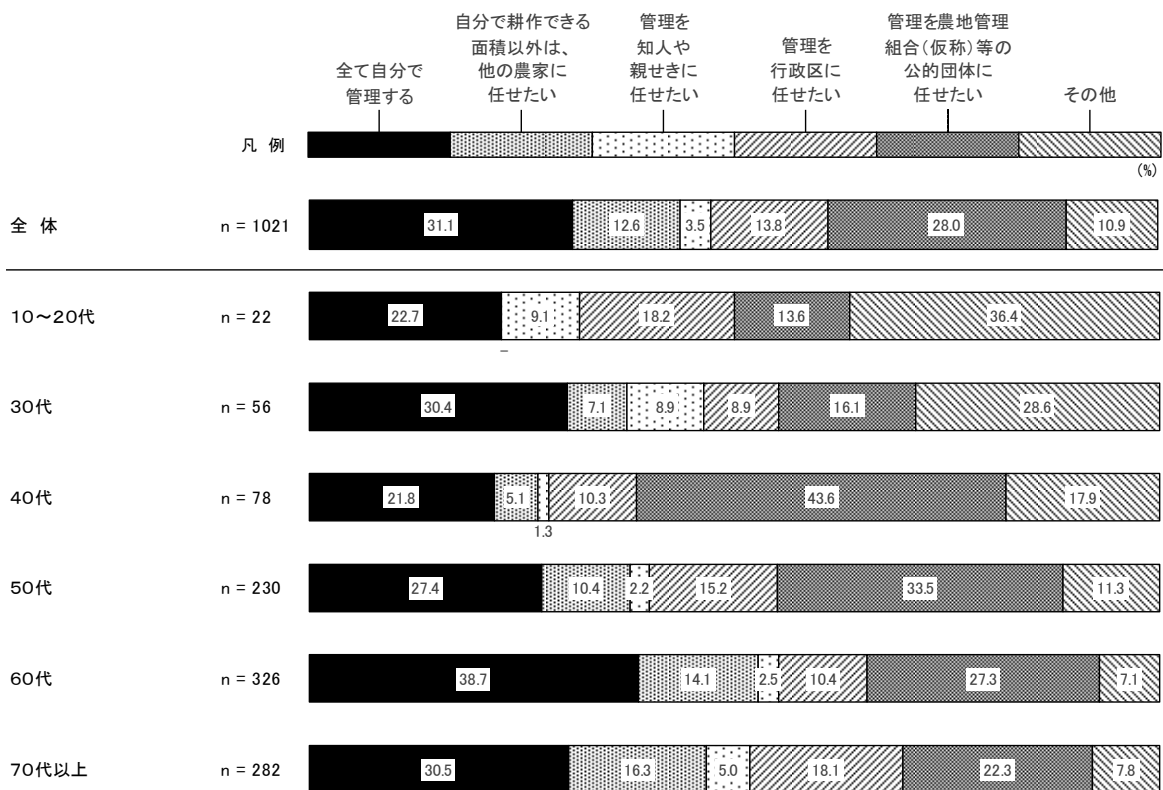
除染終了後の農地の維持管理については、「全て自分で管理する」が31.1%と最も高く、次いで「管理を農地管理組合（仮称）等の公的団体に任せたい」が28.0%、「管理を行政区に任せたい」が13.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「全て自分で管理する」は60代で38.7%、「管理を農地管理組合（仮称）等の公的団体に任せたい」は40代で43.6%となっており、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-4-10-1 除染終了後の農地の維持管理>



<図表3-4-10-2 除染終了後の農地の維持管理（年齢別）>



3-5 意見・要望

問24 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、505 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにあきらめ ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・中間貯蔵施設について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地などの管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

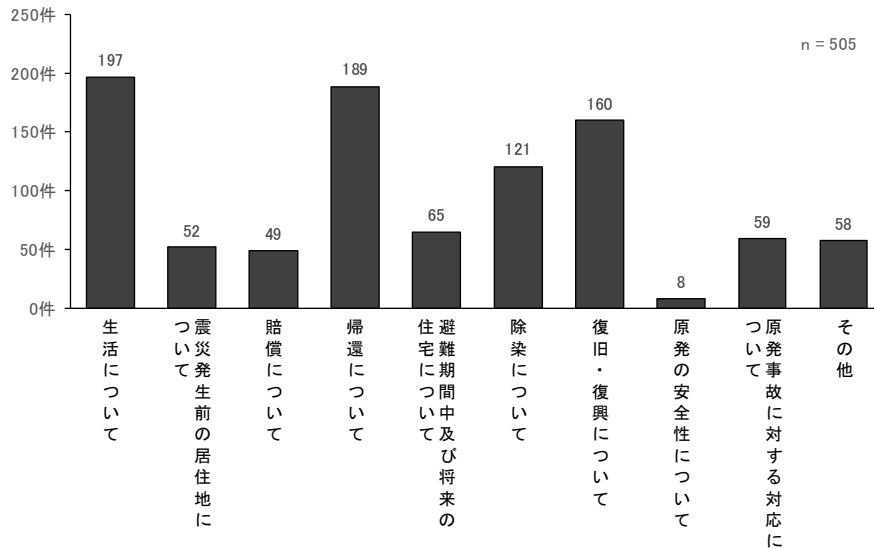
※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

Ⅲ 調査結果

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「生活について」が197件と最も多く、次いで「帰還について」が189件、「復旧・復興について」が160件などとなっている。

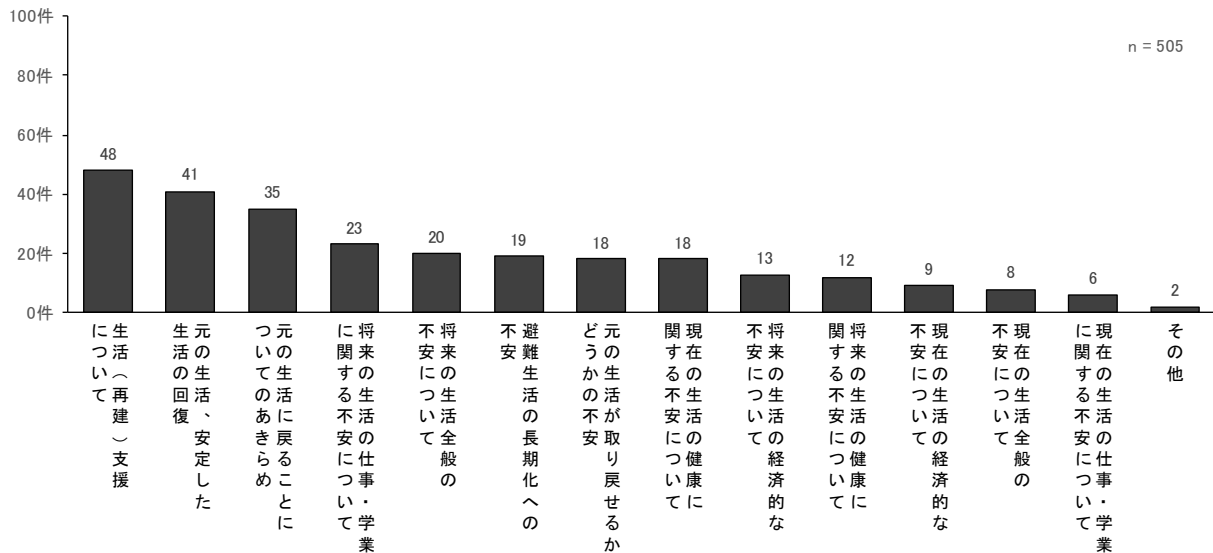
<図表3-5-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「生活（再建）支援について」が48件と最も多く、次いで「元の生活、安定した生活の回復」が41件、「元の生活に戻ることにあきらめ」が35件などとなっている。

<図表3-5-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【生活（再建）支援について】

- 南相馬市では、保育料を免除しているようだが、飯舘村ではそのようなことを行っていない。子育てをしながら、働きやすい環境を整えてほしい。(10～20代)
- 就業支援、心身のサポートなど、自立に向けた支援の継続を望みます。(30代)
- 避難生活を強いられ、4年近くも福島市内で生活をしていれば、利便性が高く、なれ親しんでしまい、戻るにも戻れない状況にあるのかと思われる。親は村に戻ったとしても自分達は福島での生活を希望しているので、当面の二重生活者の支援を願いたいと思います。(40代)

【元の生活、安定した生活の回復】

- 安心して生活できる環境にして頂きたいです。(10～20代)
- 事故前の生活を返してほしい。(30代)
- 原発事故で避難してから、もう少しで4年になります。いつになったら元に戻してくれるのでしょうか？なぜそれが出来ないのでしょうか？早く安心、安定して生活したいです。(40代)

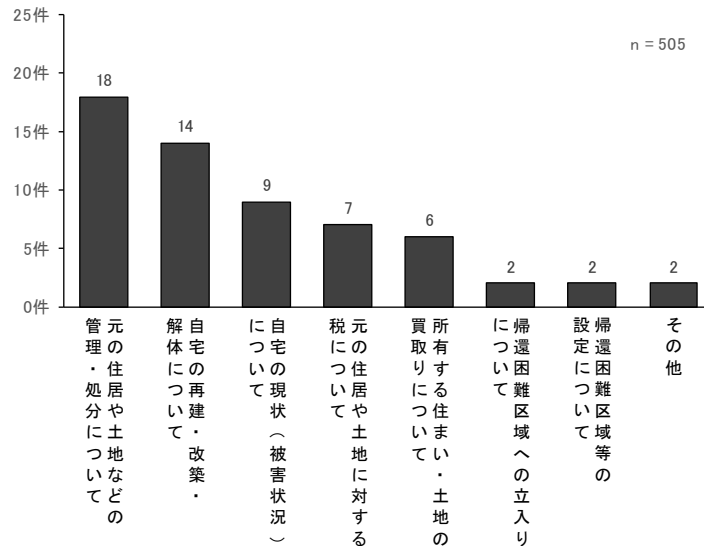
【元の生活に戻ることにあきらめ】

- 時の流れに身をまかせる感じです。国、県、飯舘村には、あまり期待を持っていません。(30代)
- 国、県、村も、希望的な話をするのもいいと思うが、現実的に考えてもらいたい。除染も限界があると思う。その中で、以前と同じ線量にするのは、無理なら無理とはっきりとってもらいたい。(40代)
- 避難先での生活が本来の生活になってしまった。感覚的には村へ戻るというより、再移住。慣れた現在の地域で生活する方が良いと思うようになった。(50代)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「元の住居や土地などの管理・処分について」が18件と最も多く、次いで「自宅の再建・改築・解体について」が14件、「自宅の現状（被害状況）について」が9件などとなっている。

<図表3-5-3 震災発生前の居住地についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【元の住居や土地などの管理・処分について】

- 子供も学校へ通うようになれば移住も考えなければなりません。次々と家を建てている人達の話を知ると焦ります。でも前の家をどうすれば良いのかも分かりません。長期の避難生活は疲れます。そろそろ移住する人への対応も考えてもらいたいです。(30代)
- 今後の家屋や農地について、どの様にしたら良いのか、どの様なサポートをして頂けるのかの情報がありません。国、県、村の方針はどの様になっているのかお知らせ下さい。(40代)
- 移住先を決めても飯館には通いきれないので、管理が年々難しいと思う。何かに利用してもらって貸すことができる様な形にしてほしい。(60代)

【自宅の再建・改築・解体について】

- 避難解除後のアパートの修繕がどうなるのか。また引っ越しの時は人手がほしい。(30代)
- 遠く県外に避難しました。今となっては良かったと思っております。ただ、残してきた土地、墓地の整備にお金を払ってでも業者等に委託できないか常々思っております。頼める方など、いらっしゃるのでしょうか。子どもも幼く、定期的にも行けず、とても情けない思いでおります。(40代)
- 今後村に戻る事になっても、住居の建て替え、地域のつながり、農業の再開、施設の充実、健康の不安等々のさまざまな問題がある事が予想される為、多方面でのサポートが必要と思えます。又戻らないとしても、村外での雇用の支援は不可欠である。(50代)

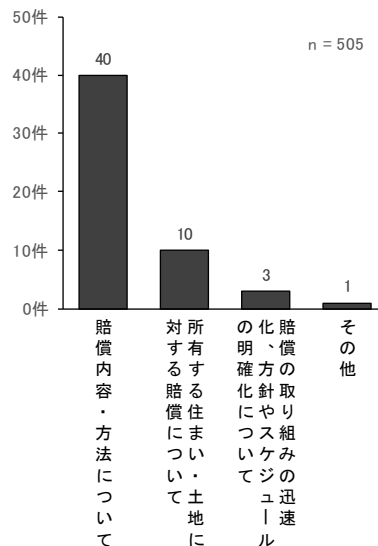
【自宅の現状（被害状況）について】

- 自宅はボロボロ、水も出なくなっている状態で、再び住むには家を新築、井戸も新しくほる必要があるが、それはいつになるのかも見えてこない。70～80才になってそこまでやる考えはないが、当面は離れた別荘みたいに行きたいと思っている。帰るたびに荒れていく田畑と家屋を見続けるのはつらい。
(50代)
- 家は、リフォームか建替えが必要なので、他所での百姓を考えている。他所で百姓をする場合、飯舘村の古家と農地等を管理できなくなるので、このことも心配です。(60代)
- 飯舘に帰るにあたり、小動物に荒らされ、台所、風呂をリフォームしなければならず、金銭的の事や、放射線量がどのくらい低下して、農作物や山菜等が食する事が出来るのか、正確な事を知りたい(70代以上)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が40件と最も多く、次いで「その他所有する住まい・土地に対する賠償について」が10件、「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が3件などとなっている。

<図表3-5-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[賠償内容・方法について]

- 賠償をしっかりと欲しい (30代)
- 国及び東電は最後まで責任をもって賠償してほしい! (40代)
- 安心して事故以前のような生活、露地で野菜などを作ったり、山へ入山してキノコ、山菜などを採ったり出来るまで生活の補償をしてほしい。(50代)

[所有する住まい・土地に対する賠償全般について]

- 現在東京電力の宅地賠償では、他市町村への移転住居を建てる場合、住宅(土地)登記人の名義でなければならないと言われています。同居人名義で建設出来る様にしてもらいたい。各家庭の状況が家庭により様々なのでもっと柔軟に対応出来る様に東京電力に要望していただきたい。(40代)
- 住宅取得に関する補償額が不公平にならない様にしてほしい。(50代)
- 持ち家の補償をもう少し上げてほしい。福島での土地価格では家は建たない。(70代以上)

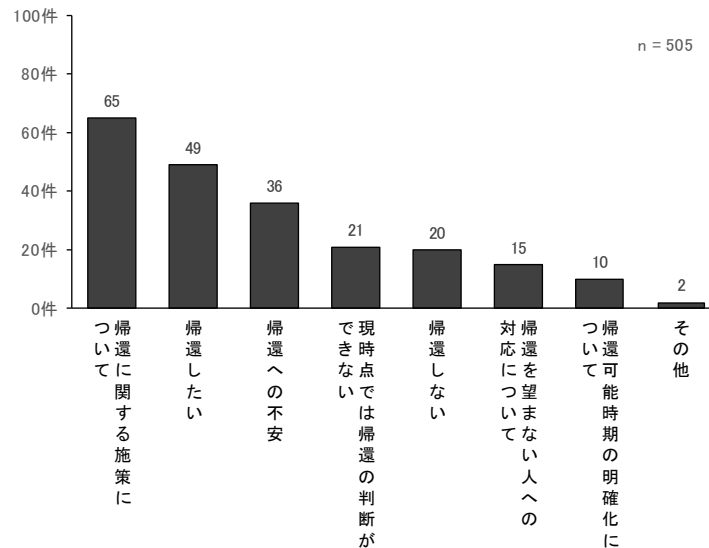
[賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について]

- このままだと母親が死に、私が死に、娘が一人になり、村にも帰れず、なんの保障もなくなり、復興どころじゃない。希望もない。(40代)
- 国は東京電力の賠償について厳しく指導すべき。手続きが難しい村民も多くいると思うので、賠償の支援をするべき。(50代)
- 「帰還宣言」を来年春にするなら、賠償期間を伸ばす。1年→3年位として欲しい。帰還し、村で生活していても線量に対しての不安は残る。それ故、精神的賠償の延長が必要だと考える。0.9μSv/時になってから生活できるという問題ではないことを理解して欲しい。「以前の状態には戻れない。」ということが心の問題として残るからである。それ故、賠償は必要である。(60代)

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が65件と最も多く、次いで「帰還したい」が49件、「帰還への不安」が36件などとなっている。

<図表3-5-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還に関する施策について】

- 戻れないなら戻れないではっきりしてほしい。(10~20代)
- 村が「帰還」一本に絞るのではなく、村民が『帰還』『避難継続』『新居住地を定める』のどれかを選べるようにしてほしい。国や村はそれぞれに対応すべきである。村民をバラバラにさせた責任はとるべきである。(30代)
- 安易に帰村をしても、除染した後でも線量が増えたりして、また避難するようになってもしかたがないと思うので、除染後何年か様子をうかがって帰村するべきだと思う。計画的避難にして被曝させたことを国、県、村、村長として責任をとるべきではないですか？(40代)

【帰還したい】

- 遠い将来になると思うが、いつか必ず戻るものと思います。(30代)
- 帰還を考えてはいるが、将来の人口減少と廃炉作業も不安。帰還が一時にならない様努めてほしい。(40代)
- 私は帰村して静かに余生をおくりたいと思います。一日も早く安全だという事を前面に出して納得させるように、数字で示して下さい。一日も早い帰村を願っています。(50代)

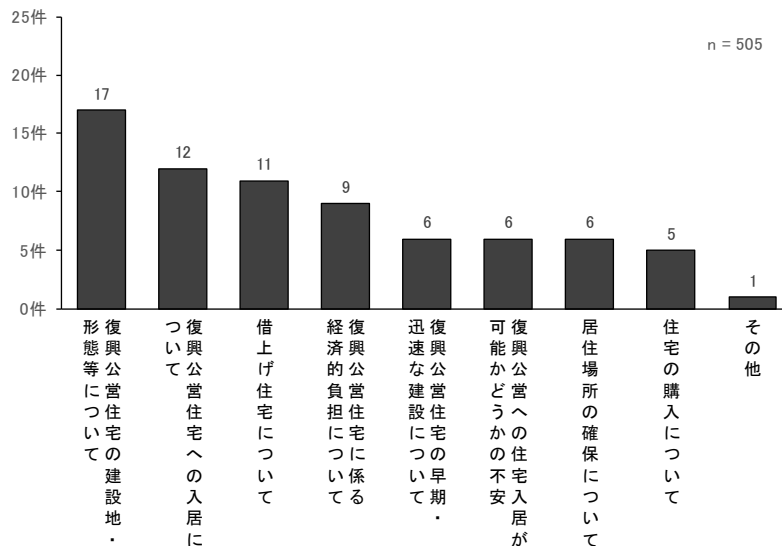
【帰還への不安】

- 村長は村に帰ることを優先しているが、家族(小さい子供)のことを考えるともう少し、しっかりと除染や環境を整えてからにしてほしい。また、補償の方もきちんと考えてほしい(10~20代)
- 避難指示解除については、飯舘村全てで除染が終わって、どこを線量計で計っても安心できる数字になったら解除してほしい。補償も継続してほしい。(30代)
- 除染が終了しても安心して住むことが出来るのか？除染が終了しても隣近所の人との交流が出来るのか心配です。農作物を作っても安心して食べることが出来るのか？(50代)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「復興公営住宅の建設地・形態等について」が17件と最も多く、次いで「復興公営住宅への入居について」が12件、「借上げ住宅について」が11件などとなっている。

<図表3-5-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復興公営住宅の建設地・形態等について】

- ・ 飯館のランドデザインについて、今は戻れないと思っている若手の意見の収集をお願いしたい。より細い住宅ニーズのくみとりにつながると思う。(30代)
- ・ 復興公営住宅ですが、例えば、場所、建物の大きさなどを希望する人に意見を聞いてから作ればよいのでは、と思います。(60代)
- ・ 家族全員2世代、3世代と一緒に住める住居を希望。孫の顔の見える、一緒に生活出来る家(70代以上)

【復興公営住宅への入居について】

- ・ 復興住宅は、子供がいる世帯が優先となっています。子供がいない若い世帯など、これから子供を作る世帯などはどうすればよいのでしょうか。(10~20代)
- ・ 村営住宅への入居を、子育て世代と限定されてしまうと、我々世代の入居は無理なのかと思い、いつまでこんな生活が続くのか心配であります。復興住宅も、もう少し地域を広げて、郡山市等も入れてもらう事も希望します。(50代)
- ・ 早急に仮設住宅から復興住宅に住める様にしてほしいです。冬は寒いから電気代、ガス代が増えて大変です。部屋が狭いので自分のプライベートの部屋もなく、いくら家族でも言葉、言葉にいららす事もある。(60代)

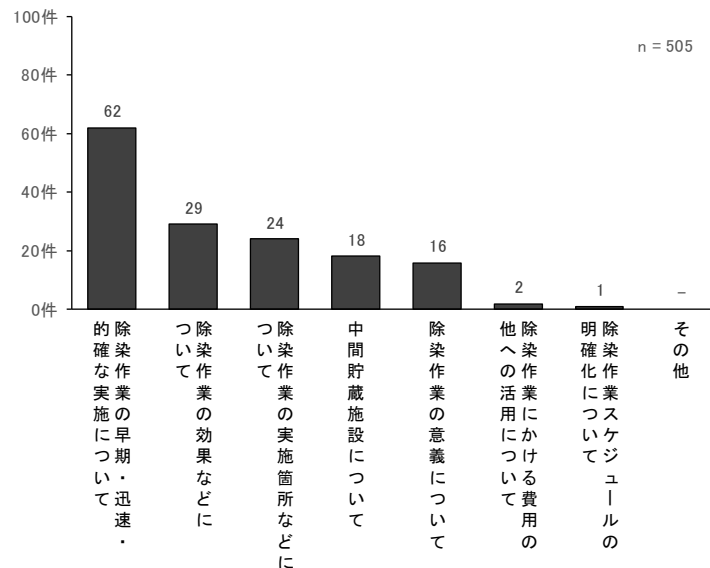
【借上げ住宅について】

- ・ 借り上げ住宅をやめて、家を新しく買った人たちにも、何か支援してほしいです。(40代)
- ・ 仮設と借上アパートに対する対応が非常に違いすぎる。(50代)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が62件と最も多く、次いで「除染作業の効果などについて」が29件、「除染作業の実施箇所などについて」が24件などとなっている。

＜図表3-5-7 除染についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 宅地の除染を行った際に、委託した業社が適切に作業しておらず、村へ相談し違う業社に委託することになり、除染に対しとても不安を覚えました。今後、このようなことがないように、国及び県からの適切な指導を委託業社にしていくことが望ましい。(10～20代)
- 完全な除染を行わなければ、安全な村での生活はありえない。中途半端な除染で終わらせ、地元に戻させようとする国のやり方はおかしい。(30代)
- 住宅除染をしてもらったが、家の土台の近くは表土を削り、それ以外の所は削らなかつたり、薄かつたりと、丁寧な除染が出来てないと思う。写真管理だけだと思うので、手抜き工事になっているのではないのか。こんな除染では、帰る気が起きないのではないだろうか。(40代)

【除染作業の効果などについて】

- 飯舘は森林に囲まれているので除染をしても意味がないと思う。ちゃんと除染をしているのかもわからないし、聞く話では除染の人たちの態度は悪い、除染の仕方が雑と聞いたことがある、すごく心配だ。(10～20代)
- 各行政区の水田等に大量のフレコンパックがある限り、飯舘村は避難指示を解除するべきではない。村民の避難指示解除については、村民が決める事であって、国、県、村等が一方的に決める事ではないと思う。(50代)
- 除染について 現在の除染のやり方について、業者によって作業のやり方や、考え方が全然違うので、線量計をもって計りながら、やって頂きたい、土を取る所はしっかりと取って、林の中や杉木立の中は、線量が下がるまで取って頂きたい。(60代)

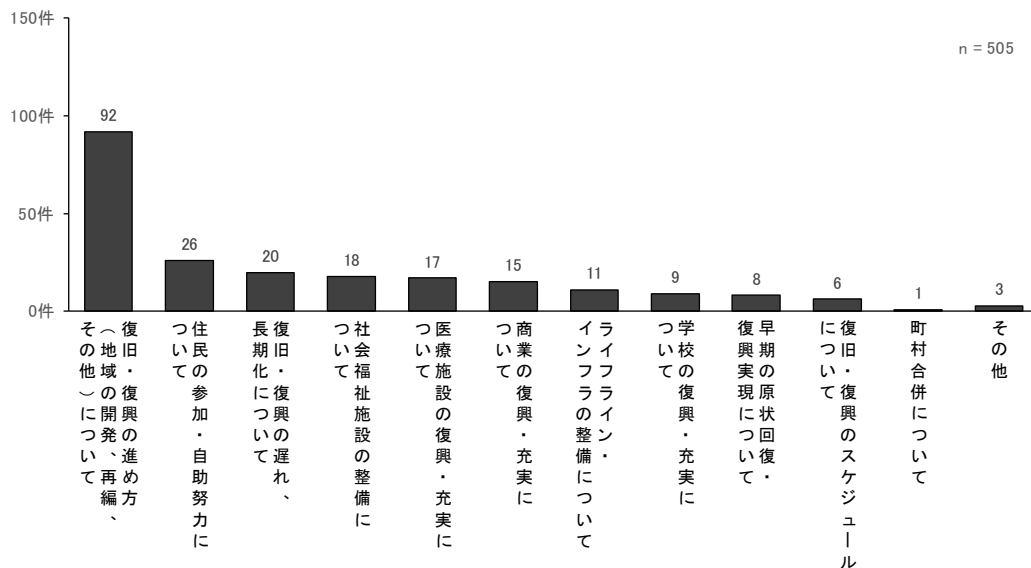
[除染作業の実施箇所などについて]

- きちんと山、畑など家以外の所も除染してから避難解除して欲しい。先日村へ戻った所、除染後の袋がやぶれているのをあちこちで見た。家ばかり除染しても、雨風がふけば、山から放射能がふってくる。その場しのぎの除染をしているようにしか見えず、村民の気持ちを考えたやり方を村長はしていると思えない。(30代)
- 現在、除染の予定の有無も聞いていない。何年で帰れるか、帰れる時期がわかる範囲でいいと思うが、聞かせてもらえたらそれに対して何か考え事も出来ると思います。宅地だけ除染では山の下(木、木の廻り)にある住宅では、除染の結果はどのように出るのでしょうか。説明を聞いてはいますが、良くわからないのは私だけでしょうか。この先わからないままだと家族が倒れてしまいます(40代)
- 除染による線量の低減は第一であるが、山や牧草地の完全除染が実施されないで、一時的な家の周辺の線量の低減では安全とは言えないと思う。必ず元に戻り線量が高くなると思われる。その点について専門家の意見はどうか?すべて原点に戻り基本的な問題をしっかりと見つめ安全・安心を再確認の上、事を進めてほしいと思う。山や牧草地の除染については、国と根本的に話し合いにより永遠に続く村民の命を守るのである。(50代)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について」が92件と最も多く、次いで「住民の参加・自助努力について」が26件、「復興・復旧の遅れ、長期間について」が20件となっている。

<図表3-5-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 子供、お年寄りにばかりに力を入れないで、子無し、独り身の若い人にももっと目をむけてほしい。若者離れを作っているのは、こういう状況だからだと思う。子供もいなくて独り身の女の人は何も頼る所が無い気がする。除染したから戻れといわれても、これから子供を産むとか考えても無理なことだと思う。(10~20代)
- 復興を進めているというが、あくまでも役所が主となっており、復興住宅も本当に望んでいることを理解した造りとしているのか疑問がある。介護が必要な老人がいる家庭に聞きとりをして、設計に協力してもらおう。子どものいる家庭で、子どもを安全に育てるために気をつけていることを聞いたりしてなど、入居するであろう住民の声を聞かずに計画を立てても満足はえられないと考えます。(30代)
- 私たちのように子どものいる世帯は、今すぐ村に戻るという選択は無理です。多くの若い方もそうでしょう。私は村が好きで住んでいたもので、とても残念ですが、急いで戻るのではなく、再生可能エネルギーのプラントや、放射線の低減研究モデル地として考えてはいかがでしょうか。そして、新たな住居を確保するための支援もお願いしたいと思います。(40代)

【住民の参加・自助努力について】

- 毎回、意向調査を書いていますけど何も変わっていない。復興、帰還と言っていますが村の目指している方向性を具体的に示してもらいたい。もっと住民の声を大切にしてほしい。(10~20代)
- 村民の1人1人の意見を十分に聞き入れ、村民の立場となり不平等のない対応をして欲しい。現在は弱者が不利となっている対応もあるので注意して欲しい。(30代)
- もう4年です。上下関係とか縦社会とか建前とか色々考える前に素直に自分の気持ちで決断してみたらどうでしょう。(50代)

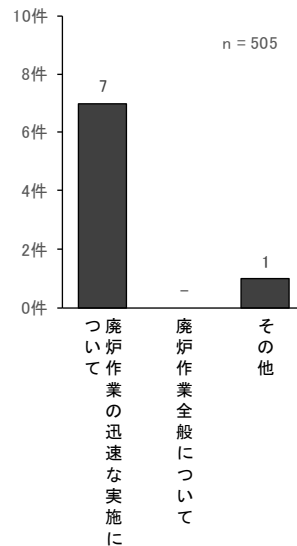
[復興・復旧の遅れ、長期間について]

- 復興とは、元の生活、環境に戻った時に復興ではないかと思う。飯舘村の現状を見て判断してほしい。国と県の対応の遅さには、じれったさを感じる。机上のマニュアル通りには行かないのでは。現状を見て迅速な対応が望まれると思います。国も県ももっと足を運んで、建前ばかりではなくて、目に見える復興をめざしてほしいと思う。(50代)
- 震災から早4年が経過し、復興の気運も感じられず、避難生活にも倦んでいる今日です。賠償問題、除染問題など、個人の問題として対処すべしという事象では、その解決のための目途、責任部署などの不明瞭さが将来への焦燥感、不安感、不信感を増幅している次第です。(60代)
- 23年に避難をする時、村では2年間ぐらいですぐ戻れる様な事を云ってこんなに長くなり、解除になって戻る様になっても果して、どの程度戻るかだれも分らない。解除になって戻っても、何も作る事も出来なくてこの先どうして生きて行けるのですか。物を作っても何も売れない。買物をする所がない。病院はどうなるのか、若い人と子供は戻らない村は、どう考えているのか不安で今はどうしたら良いかわからない。不安を抱えて、後何年かして此の世を終わるのかなどと考えたりして居ります(70代以上)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業の迅速な実施について」が7件などとなっている。

<図表3-5-9 原発の安全性についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

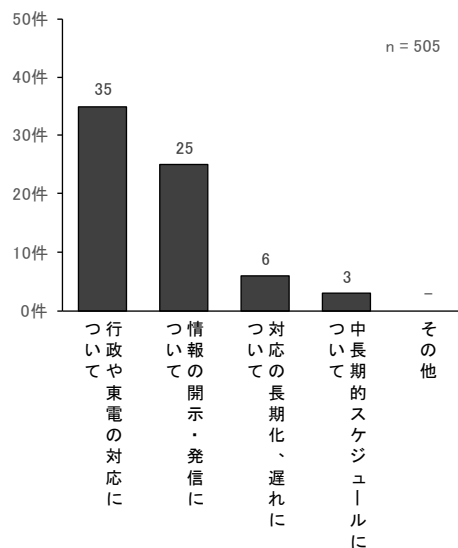
[廃炉作業の迅速な実施について]

- 原発を安全に無くして欲しい。(40代)
- 全国の原発は廃炉にすべき。安心安全など絶対ではない。どうして再開出来るのでしょうか？疑問しかありません。我慢、我慢で頑張ってきたが、心が折れそうです。(50代)
- 現在の村は最終処分場とし、村の地下に福島第一原発の廃炉によって出た廃棄物を処分する。日本中の原発を廃炉とし、それらも村で処分する。(50代)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が35件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が25件、「対応の長期化、遅れについて」が6件などとなっている。

<図表3-5-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 国が何を考えているのかわからない。飯館村でたくさんの思い出、財産をなくしたのに本当にわかっているのか？もう忘れられつつある気がする。(10～20代)
- 村民全員の帰村までの支援の継続。東電、国は、もっと親身になったほうがよい。(30代)
- 行政への不安と不満で、自分で生活再建をしました。村民の心情より形だけの帰還にあくせくしている。住民を、さらに困難にしているのは許せない。(50代)

【情報の開示・発信について】

- 定期的に意向調査を行って、調査した内容を統計的に処理するのはいいが、他の人はどのように考えているのか分かる資料がほしい。(30代)
- 除染の状況、今後の予定等、現場での情報を、復興庁担当もTVまかせでなく、もう少し指示や手直し等など住民の立場で仕事をしてほしい。(50代)
- 国は安全基準を(放射能)緩める、原子力規制委員会は放射線量の測定値を正確に発表していない。おかしいことである。そして、村の行政は、住民よりも村の復興を中心に計画を立てている。何と無責任だろうか。避難区域は、一つの行政単位として復興を進めるべきと思う。過疎地域であった場所が原発事故により約1/3の住民が戻らないと決めている。さらに過疎化が進むのは明白である。(60代)

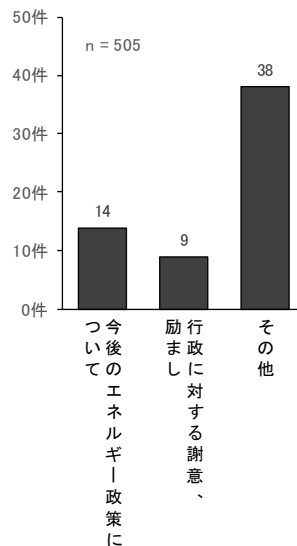
【対応の長期化、遅れについて】

- 国県村への要望 復興に向けて最も重要なことは、住民（村民）の主体性・自発性をいかに喚起するかということである。その点から考えると、この震災においては避難の指示、除染のあり方、復興計画の作成のいずれも、住民の主体性を発揮できる仕組みはなかった。災害発生当初は「初めての災害ゆえに経験がない」こともあり、暗中模索であったが、今後の復興に向けては原点に立ち返る必要があるのではないか。被災から4年間の指示待ちの月日と、賠償金に依存せざるを得ない住民の主体性・自主性を発揮させるのは容易なことではない。住民に最も近く、住民視点で考えることが可能なのは村当局であることを思い起こして奮起願いたい。（60代）

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「今後のエネルギー政策について」が14件と最も多く、次いで「行政に対する謝意、励まし」が9件などとなっている。

＜図表3-5-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【今後のエネルギー政策について】

- 今回のようなことが実際に起っているのだから、原子力発電について、しっかりと考えてもらいたい。(30代)
- 全国の原発は廃炉にすべき。安心安全など絶対ではないのに、どうして再開出来るのでしょうか？疑問しかありません。ガマン、ガマンで頑張ってきたが心が折れそうです。(50代)
- 長年、生まれ育ち、生活してきた、ふるさとを離れて暮らすことは断腸の思いです。復興が進まない中、寿命の方が早いと思いますが、あくまで飯館村の住民として生涯を終えたい。原発はいらない！再稼動には反対します。(70代以上)

【行政に対する謝意、励まし】

- 村役場職員の方々は本当に頑張っていると思います。どうか体と心の健康に気を付けて下さい。国に対してはもう何を言うのも疲れ果てたという思いです。自分としては、家族や子供すら満足に守りきれてないので情けない思いです。特に子供とはもっと真剣に向かいあわなくてはと思っています。まずは自分の事、家族の事。あたり前ですが、一人一人が自分の身の丈にあった出来る事をしていくしかないと思います。(40代)
- 色々な事情は有ると思いますが、お互いに体には十分気をつけて、前進して、行きたと考えております。今後とも、より良い、アドバイス、の方宜しくお願いします。(50代)
- 行政の方々のご努力により、どうかか過ごせていること大変うれしい。自分でできることは全力で自立して生きて行きたい。人任せではなく、自分の力で行政に支えていただき、必ず立派な村に再生させたい。原発事故のモデル実験が今回です。私たちは100年先に立ち自信を持ち地域を愛し世界に誇れる復興をさせなくてははいけません。飯館村民は他の地区の人々より長寿であったと証明することです。(60代)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

飯舘村住民意向調査

記入上の注意

● 調査の目的

この調査は、国・福島県・飯舘村が共同で行う調査です。

この調査は、皆様の避難生活の現状や、村への帰還に向けた意向、そして原発避難者向け復興公営住宅への入居意向等を把握することを主な目的としています。

皆様からいただいたご回答は、今後国・県・村が進めていく避難者支援や復興の取り組みに活かして参りたいと考えています。

避難生活でお疲れのところ恐縮ですが、調査の目的・趣旨をご理解の上、よろしくご協力をお願いいたします。

※復興住宅への入居意向確認にかかるご連絡の関係から、**調査は記名式でお願いしております。最後のページに「氏名」を、またさしつかえなければ、「住所」、「連絡先」のご記入をお願いいたします。**

● 調査をお願いする方

震災発生時、飯舘村に住民登録をしていた世帯（避難後の転出者を含む）が対象です。

ご回答は、**世帯の代表者の方**をお願いいたします。

現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合は、**それぞれの場所にお住まいの代表者の方**にご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をつけた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。

の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。

➤ 個人情報について

・調査票に記載いただいた個人情報は、飯舘村、福島県及び復興庁において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用致しません。

・また、回答はすべて統計的な処理を行い、**個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。**

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**1月21日（水）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

調査の趣旨、記入方法について

復興庁

「住民意向調査」

問い合わせセンター

復興公営住宅について

福島県

フリーダイヤル 0120-966-389

[設置期間：1月8日（木）～1月21日（水）10時～17時]

土・日・祝を除く

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号

企画調整部避難地域復興局生活拠点課 Tel 024-521-8618

飯舘村に関することについて

飯舘村

〒960-1301 福島県福島市飯野町字後川10番地の2

飯野出張所 総務課企画係 Tel 024-562-4246

はじめに、あなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にかがいます。】

問 1 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にかがいます。】

問 2 あなたの性別(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

【すべての方にかがいます。】

問 3 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | | |
|---------------------------|------------------|--------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 8. 見守り隊 | } ⇒問4へ |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 9. 学生 | |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探していない) | |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 11. 無職(職を探している) | |
| 5. 団体職員 | 12. その他(具体的に |) |
| 6. 公務員 | | |
| 7. パート・アルバイト | | |



【問3(1)で「1」~「7」、「12」と回答した方にかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | | |
|-------------------|----------------|---|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 | } |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 | |
| 3. 製造業 | 9. 教育 | |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務(見守り隊含む) | |
| 5. 運輸業 | 11. その他(具体的に |) |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 | | |
| | | |

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 4 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|---------------------------------|
| 1. 草野 | 9. 宮内 | 17. 関根・松塚 |
| 2. 深谷 | 10. 飯樋町 | 18. 白石 |
| 3. 伊丹沢 | 11. 前田・八和木 | 19. 前田 |
| 4. 関沢 | 12. 大久保・外内 | 20. 二枚橋・須萱 |
| 5. 小宮 | 13. 上飯樋 | 21. その他(わからない場合
住所を記載してください) |
| 6. 八木沢・芦原 | 14. 比曾 | 〔 |
| 7. 大倉 | 15. 長泥 | |
| 8. 佐須 | 16. 蕨平 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 5 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他(具体的に |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 〔 |
| 5. 公営住宅 | |
| 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) | |

【すべての方にうかがいます。】

問 6 あなた(もしくはあなたのご家族)は、避難後に、避難前のご自宅へどの程度戻られていますか(一時帰宅の形も含めます)。(○は1つ)

- | |
|--|
| 1. 一度も自宅には戻っていない |
| 2. 何度か自宅に戻ったが、現在はほとんど戻らない |
| 3. 何度か自宅に戻っており、現在も時々戻っている ⇒ (毎月: 回数) (年: 回数) |
| 4. 定期的に自宅に戻っている ⇒ (毎月: 回数) (年: 回数) |
| 5. その他(具体的に:) |

【すべての方にうかがいます。】

問 7 避難で留守にしている間の、ご自宅の被害状況についてうかがいます。わかる範囲でお答えください。(○はいくつでも)

- | |
|---------------------------|
| 1. 特に被害はない |
| 2. 屋根などの損傷により、雨漏りが発生している |
| 3. 水道管などの損傷により、水漏れが発生している |
| 4. 室内でカビなどが発生している |
| 5. 小動物が室内に入り込むなどして荒らされている |
| 6. イノシシやサルなどに庭が荒らされている |
| 7. シロアリなどの被害が出ている |
| 8. 不審者による侵入、盗難があった |
| 9. その他(具体的に:) |
| 10. 自宅の被害状況はわからない |

【すべての方にかがいます。】

問 8 震災発生当時の、あなたの職業を教えてください。

なお、当時、仕事に就いていた方は、業種・就業先の所在市区町村も教えてください。また、2つ以上の職業を持っていた場合は、主な収入源になっていた職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

1. 自営業・会社経営者	7. 学生	} ⇒問 9 へ
2. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務)	8. 無職(職を探していなかった)	
3. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務)	9. 無職(職を探していた)	
4. 団体職員	10. その他 (具体的に)	
5. 公務員		
6. パート・アルバイト		



【問 8 (1) で「1」～「6」、「10」と回答した方にかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

1. 農・林・漁・畜産業	7. 金融・保険業
2. 建設業	8. 医療・福祉
3. 製造業	9. 教育
4. 電気・ガス・水道業	10. 公務
5. 運輸業	11. その他 (具体的に)
6. 卸・小売り・飲食、サービス業	



【問 8 (1) で「1」～「6」、「10」と回答した方にかがいます。】

(3) 就業先の所在市区町村

(都・道・府・県)

(市・区・町・村)

避難状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問9 あなたが現在避難されている市区町村名を教えてください。(○は1つ)

【浜通り】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 檜葉町
6. 川内村
7. 新地町

【中通り】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【会津】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【福島県内のその他の市町村(1から23以外)】

24. 福島県内のその他の市町村
→具体的にご記入ください

(市・町・村)

【福島県外】

25. 福島県外
→具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・区・町・村)

【すべての方にうかがいます。】

震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

問10 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

問10-1 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

問 10-2 震災発生当時ご一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。

(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|-------------|
| 1. 世帯でまとまって避難している(一人暮らし含む) | ⇒問 11 へ |
| 2. 合計2か所に分散 | } ⇒問 10-3 へ |
| 3. 合計3か所に分散 | |
| 4. 合計4か所以上に分散 | |



【問 10-2 で「2」「3」「4」と回答した方にうかがいます。】

問 10-3 分散して住むことになった理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 住居が狭いため | 5. 放射線の影響を考慮して |
| 2. 家族の仕事のことで | 6. その他 (具体的に |
| 3. 子どもの学校のことで |) |
| 4. 家族の健康上のことで | |

【すべての方にうかがいます。】

問 11 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償) | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償) | 7. 親戚・知人宅 |
| 3. 公営住宅(1.は除く。有償) | 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) |
| 4. 民間賃貸住宅(有償) | 9. その他 (具体的に |
| 5. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) |) |

復興公営住宅など今後の避難期間中の居留意向についてお聞かせください。

福島県における原発避難者向け復興公営住宅について

◆飯館村民を入居対象とした復興公営住宅の整備を今後予定している地区と戸数
（地区・戸数は、現時点のものであり、今後変更になる場合があります。）

受入自治体名	地区名	予定戸数	飯館村	富岡町	大熊町	双葉町	浪江町	南相馬市	川俣町	募集時期	入居可能時期(予定)
福島市	調整中	68	12				○			検討中(注)	検討中(注)
		68	68								
南相馬市	上町 (集合住宅)	180	50			○	○	○			
	鹿島 (戸建住宅)	50	50								
二本松市	調整中	20	20								
川俣町	壁沢 (木造住宅)	80	60				○		○	平成27年秋頃募集予定	平成28年度第2四半期

※「○」⇒共通入居の市町

※平成28年中の入居に向け用地造成・建設の期間について検討しており、確定次第お知らせします。

飯館村関係・復興公営住宅整備予定地



【すべての方にうかがいます。】

問 12 現在、福島県は前頁に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。あなたのご家族は、復興公営住宅への入居を希望しますか。(○は1つ)

※この質問で、入居申し込みや入居の確約を行うものではありません

1. 既に当選または入居が決定している	} ⇒問 12-1、2、3 へ
2. 入居の申し込み中である	
3. 今後、入居の申し込みをしたい	
4. 現時点では判断できない ⇒問 13 へ	
5. 入居を希望しない ⇒問 12-4、5 へ	

【問 12 で「1」、「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

※1 家族が多い等の理由により、復興公営住宅を2戸借りられる方(希望も含む)は、<2世帯目>の列にもお答えください。

※2 「5」を選択した場合は、()内に具体的にご希望の市町村名を記入してください。

(1)市町村名を教えてください。

		<1世帯目> (○は1つ)	<2世帯目> ※1 (○は1つまで)
生活拠点を整備中 又は検討中の市町村	1. 福島市	1	1
	2. 南相馬市	2	2
	3. 二本松市	3	3
	4. 川俣町	4	4
5. その他の市町村 ※2	5()	5()	
6. 分散して入居しない		6	

(2)入居する際の家族構成をご記入ください。(人数で回答)

※現在、分散してお住まいのご家族についてはご記入いただかなくて結構です。

	<1世帯目>	<2世帯目>
ア)未就学児(小学校入学前)	人	人
イ)小学生	人	人
ウ)中学生	人	人
エ)15歳以上18歳未満(中学生を除く)	人	人
オ)18歳以上65歳未満	人	人
カ)65歳以上	人	人

【問 12 で「1」、「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問 12-2 復興公営住宅に入居した場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1. 避難住民同士の交流会等の開催 | 6. その他(具体的に |
| 2. 地元住民との交流会等の開催 |) |
| 3. 高齢者向けの見守り(巡回等) | |
| 4. 子どもの学習支援 | |
| 5. 健康相談員の設置 | |

【問 12 で「1」、「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問 12-3 現在、ペットを飼っていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. 室内で犬を飼っている |) |
| 2. 室外で犬を飼っている | |
| 3. 猫を飼っている | |
| 4. 犬、猫以外のペットを飼っている(具体的に: | |
| 5. ペットは飼っていない | |

➤ 問 13 へお進みください

【問 12 で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 12-4 復興公営住宅への入居を希望しない場合に、居住を希望する市区町村名を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 檜葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 中 通 り 】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【 会 津 】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【 福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外) 】

24. 福島県内のその他の市町村
→具体的に記入ください

(市・町・村)

【 福島県外 】

25. 福島県外
→具体的に記入ください

(都・道・府・県)

(市・区・町・村)

【 その他 】

26. 決めかねている

【問 12 で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます】

問 12-5 今後のお住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建)
2. 持ち家(集合住宅)
3. 民間賃貸住宅(一戸建)
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)
5. 公営住宅
6. 給与住宅(社宅など)
7. 家族のどなたかのお住まい・実家
8. 親戚・知人宅
9. その他(具体的に: _____)
10. 現在のお住まい
11. 現時点では判断できない

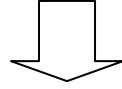
将来に関するご意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

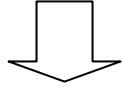
問 13 将来、飯舘村の避難指示が解除された後の飯舘村への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。

1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)

2. まだ判断がつかない



問 13-1-1 へお進みください



問 13-

問 13-1-1 飯舘村へ戻る時期についてどうお考えですか。
(○はひとつ)

1. 解除後すぐに戻りたい
2. 解除後3年以内に戻りたい
3. 解除後5年以内に戻りたい
4. 解除後10年以内に戻りたい
5. 時期は決めていないがいずれ戻りたい

問 13-1-2 飯舘村へ戻る場合に家族の全員か一部かについて
教えてください。(○はひとつ)

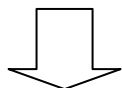
1. 家族全員での帰還を考えている
2. 家族一部での帰還を考えている
3. まだわからない

問 13-2-1 飯舘村へ戻ることを判断
お考えか伺います。
(○はいくつでも)

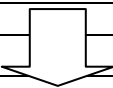
1. 避難指示解除となる時期の目安
2. 道路、バス、病院などの社会基盤
3. 村内での学校再開(幼稚園、小・
4. どの程度の住民が戻るか
5. 放射線量の低下の目途、除染成
6. 中間貯蔵施設の情報
7. 原子力発電所の安全性に関する
8. 放射線の人体への影響に関する
9. 雇用の確保の目途
10. 農業再開の目途
11. 受領する賠償額の確定
12. 住宅確保への支援に関する情報
13. 自宅のリフォーム、建て替えの目途
14. 現時点で家族間の意見が分かれ
15. その他(具体的に:

問 13-2-2 上記で○をつけたものの
ください。また、その理由

選択肢番号	



問 13-4 へお進みください



問 13-3 今後も村との“つながり”を

1. そう思う
2. そう思わない
3. わからない



問 13-8 へお進み

下の「1」「2」「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。(○は1つ)

3. 戻らないと決めている

2-1 へお進みください

問 13-3 へお進みください

するために必要なことについて、どう

(インフラ)の復旧時期の目途
中学校)の目途

果の状況

情報(事故収束や廃炉の状況)
情報

ており、帰還意向について回答できない)

うち、特に重要と思うものを3つまで選んで
を教えてください。

理由

保ちたいと思いますか。(○は1つ)

問 13-3 今後も村との“つながり”を保ちたいと思いますか。
(○は1つ)

1. そう思う
2. そう思わない
3. わからない

ください

問 13-9 へお進みください

問 13 で「1. 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-4 今後、どのような支援を望みますか。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 被ばく低減対策 | 9. 公共交通機関の再開 |
| 2. 住宅の修繕や建て替えへの支援 | 10. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善 |
| 3. 商業施設の再開や新設 | 11. 村内への復興住宅建設 |
| 4. 村内での営農支援 | 12. 放射線量の測定・公表(空間線量・水) |
| 5. 雇用確保・就業支援 | 13. 道路や農地、農業用施設の整備 |
| 6. 医療、介護福祉施設の再開や新設 | 14. 生活が安定するまでの補償の継続 |
| 7. 村内での保育所・預かり保育の再開 | 15. その他(具体的に: _____) |
| 8. 村内での学校や教育施設の再開や新設 | 16. 特になし |

【問 13 で「1. 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-5 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------------|-----------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む) | ⇒問 14 へ |
| 2. 自宅とは別の場所(村内)に新たに一戸建ての持ち家を建てたい | ⇒問 13-6 へ |
| 3. 公営住宅 | ⇒問 13-7 へ |
| 4. 賃貸アパート | } ⇒問 14 へ |
| 5. 家族のどなたかのお住まい・実家 | |
| 6. 親戚・知人宅 | |
| 7. その他(具体的に _____) | |
| 8. 現時点では判断できない | |

【問 13-5 で「2」と回答した方にうかがいます。】

問 13-6 自宅とは別の場所を希望される理由は、何ですか。(○はいくつでも)

- | |
|------------------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)周辺の放射線量の高さが心配だから |
| 2. 元の持ち家(自宅)周辺に住む人が少ないと思うから |
| 3. 飯舘村内の新たな場所で生活を開始したいから |
| 4. 元の持ち家(自宅)が荒廃しているから |
| 5. その他(具体的に: _____) |

➡ 問 14 へお進みください

【問 13-5 で「3」と回答した方にうかがいます。】

問 13-7 村では、復興計画(第4版)において、自宅に戻っても一人暮らしが難しい高齢者や、村内で働く方などのための村営住宅(復興住宅)を深谷地区の村内拠点エリアに建設する計画を立てています。また、この他にも、草野大谷地地区にも新しく村営住宅を建設します。

村営住宅が建設された場合、入居を希望しますか。(○は1つ)

- | |
|----------------------|
| 1. 大谷地住宅に入居を希望する。 |
| 2. 村内拠点の村営住宅に入居を希望する |
| 3. 希望しない |
| 4. わからない |

➡ 問 14 へお進みください

【問 13 で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 13-8 今後、どのような支援を望みますか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1. 県借上げ住宅制度の継続 | 8. 村民同士の交流の場の確保 |
| 2. 村外への2世代・3世代が同居できる復興住宅の確保 | 9. 放射線被ばくを軽減するための勉強会 |
| 3. 子育て支援(母親同士のつながりづくりなど) | 10. 行政情報の継続的な発信 |
| 4. 要介護者への支援 | 11. 原発災害に関する補償の継続 |
| 5. 就労先の紹介・あっせん | 12. その他(具体的に) |
| 6. 運動・レクリエーション・スポーツ活動への支援 | |
| 7. 趣味などを通じた生きがいづくり支援 | |

→ 問 14 へお進みください

【問 13 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-9 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

【帰還の前提・健康に関わるもの】

1. 除染がまだだから
2. 除染後の放射線量の低下が不十分だから
3. 原子力発電所の安全性に不安があるから
4. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから

【村内の復旧状況に関わるもの】

5. 飯舘村に戻っても仕事がなさそうだから
6. 飯舘村での事業の再開が難しいから
7. 営農ができそうにないから
8. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
9. 飯舘村外への移動交通が不便だから
10. 道路、バス等の交通インフラに不安があるから
11. 医療環境に不安があるから
12. 介護・福祉サービスに不安があるから
13. 教育環境に不安があるから
14. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

15. 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから
16. 他の住民も戻りそうにないから
17. 帰還までに時間がかかるから
18. 避難先で仕事を見つけているから
19. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
20. 避難先の方が生活利便性が高いから
21. その他(具体的に)

【問 13 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-10 帰還しない場合に、居住を希望する市区町村名を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】

1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 檜葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 中 通 り 】

8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【 会 津 】

21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【 福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外) 】

24. 福島県内のその他の市町村
→具体的にご記入ください

(市・町・村)

【 福島県外 】

25. 福島県外
→具体的にご記入ください

(都・道・府・県)

(市・区・町・村)

【 その他 】

26. 決めかねている

【問 13 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-11 帰還しない場合に、今後のお住まいとして、希望する住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建)
2. 持ち家(集合住宅)
3. 民間賃貸住宅(一戸建)
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)
5. 公営住宅
6. 給与住宅(社宅など)
7. 家族のどなたかのお住まい・実家
8. 親戚・知人宅
9. その他(具体的に: _____)
10. 現在のお住まい
11. 現時点では判断できない

【問 13 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 13-12 今後、どのような支援を望みますか。(○は3つまで)

1. 復興公営住宅に関する情報提供
2. 借上げ住宅制度(家賃補助)の延長
3. 原発災害に関する補償の継続
4. 移転先での農林業、商工業再開への支援
5. 健康管理への支援(総合健診、放射線に関する健診)
6. 情報の提供継続(広報誌・お知らせ版等)
7. 村イベント等への継続招待
8. 村民との交流に関する支援
9. 自宅・土地等財産の維持管理に関する支援
10. その他(具体的に: _____)

現在のあなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 14 避難後のご家族(ご自身を含む)の食生活・栄養状態などについてどのように変化しましたか。
(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 以前と変わらない | 6. 塩分の多いものを食べるが増えた |
| 2. 外食やコンビニ弁当が増えた | 7. 食が細くなった |
| 3. 食事を作るのが大変になった | 8. 食べ過ぎることが多くなった |
| 4. 油っぽいものを食べるが増えた | 9. 物が噛めなくなったり、飲み込みにくくなった |
| 5. お菓子など、糖分の多いものを食べるが増えた | 10. その他(具体的に |

【すべての方にうかがいます。】

問 15 避難生活が続く中で、ご家族(ご自身を含む)の生活や体調などに変化はありますか。
(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 農作業や園芸など、身体を動かす機会が少なくなった |
| 2. 何もすることがなく、ぼんやり過ごすようになった |
| 3. 周辺に友人・知人が少なく、話し相手がいない |
| 4. 隣近所の人との交流がうまくいかない |
| 5. タバコやアルコールを飲む回数や飲む量が増えた |
| 6. 睡眠があまりとれていない |
| 7. 体重が急に増えた・減った |
| 8. 血圧の変化や、不整脈などが起こるようになった |
| 9. イライラすることが増えた |
| 10. 出歩く機会が減り、部屋に引きこもりがちになった |
| 11. その他(具体的に: |

【すべての方にうかがいます。】

問 16 ご家族(ご自身を含む)の健康状態(病気など)はいかがですか。(○は1つ)

- | |
|------------------------------|
| 1. 以前と変わらない |
| 2. 少し健康状態が悪くなった家族(自分を含む)がいる |
| 3. 非常に健康状態が悪くなった家族(自分を含む)がいる |
| 4. 介護が必要になって、家族の負担が増えている |
| 5. 避難後、健康状態の悪化により亡くなった家族がいる |
| 6. 健康状態が比較的改善した(自分・家族を含む) |
| 7. その他(具体的に: |

【すべての方にうかがいます。】

問 17 現在村では各家庭を訪問し健康相談や生活支援相談などを行っていますが、どのような感想をお持ちですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 訪問してもらって助かっている | 5. 来ているのかわからない |
| 2. もう少し多く来てもらえれば助かる | 6. その他(具体的に |
| 3. もう少し訪問回数を減らしてもよい |) |
| 4. いない | |

【すべての方にうかがいます。】

問 18 これまでのご近所づきあいなど、友人・知人とのお付き合いや地域コミュニティの面で、お困りのことはありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1. 友人・知人の連絡先、行政区長の連絡先がわからない |) |
| 2. 友人・知人と集まる機会がない | |
| 3. 元の行政区単位で集まる機会がない | |
| 4. 遠隔地に避難しているため、友人・知人に会うことが難しい | |
| 5. 現在の住まいの周りにいる村民同士が集まる機会がない | |
| 6. 避難先の地元の人やボランティアと交流する機会がない | |
| 7. 近くに情報交換や相談、書類記入をお願いできるような人がいない | |
| 8. その他(具体的に: | |

【すべての方にうかがいます。】

問 19 村の将来を担う子どもたちの教育について、今後心配な事がありますか。(○は3つまで)

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 学習環境が激変したことによる学力の低下 |) |
| 2. 子どもの数が減ることによる学校再編・複式学級化 | |
| 3. 遠方からのスクールバス通学による時間的・体力的負担 | |
| 4. 体育や部活動等が制限されることによる体力の低下 | |
| 5. 避難生活による精神的な疲れ、こころの不安定化 | |
| 6. 教育費を賄うことができないのではないかと不安 | |
| 7. その他(具体的に: | |
| 8. 特に心配はない | |

【すべての方にうかがいます。】

問 20 村では、村外に仮設校舎や園舎を建て、教育環境を整備しています。今後一層教育の充実を図るため、どのようなことが必要だとお考えですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. 奨学金など就学援助制度の充実 |) |
| 2. 仮設校舎・園舎近くへの復興住宅の建設 | |
| 3. 学童保育、預かり保育などの保育施設の整備 | |
| 4. スクールバスの一層の充実 | |
| 5. 国内外研修など感動体験プログラムの充実 | |
| 6. 他の学校に転校した子供たちとの交流プログラム | |
| 7. 教育環境の整備に満足している | |
| 8. その他(具体的に: | |

【すべての方にかがいます。】

問 21 放射線に関しては、村では情報誌「かわら版みちるべ」を中心に情報提供を行っておりますが、この他、放射線に対しての勉強会等を開催する場合、どのように実施すると参加しやすいですか。
(○はいくつでも)

1. 学校や幼稚園、保育園、PTA の行事として実施して欲しい
2. 行政区や、仮設住宅などの自治会で実施して欲しい
3. 健康教室と一緒に実施して欲しい
4. 住民懇談会の中で一緒に実施して欲しい
5. 専門家による講演会の場で実施して欲しい
6. 放射能について非常に心配なので、個別に相談を実施してほしい
7. 広報やチラシ、新聞などで特集を組み、知らせたい
8. その他(具体的に:)

【すべての方にかがいます。】

問 22 除染が終了した後の家屋及び家屋周辺の維持管理についてはどのようにお考えですか。
(○は1つ)

1. 自分で管理する
2. 管理を知人や親せきに任せたい
3. 管理を行政区に任せたい
4. その他(具体的に:)

【農地を所有するすべての方にかがいます。】

問 23 除染が終了した後の農地の維持管理についてはどのようにお考えですか。
(○は1つ)

1. 全て自分で管理する
2. 自分で耕作できる面積以外は、他の農家に任せたい。
3. 管理を知人や親せきに任せたい
4. 管理を行政区に任せたい
5. 管理を農地管理組合(仮称)等の公的団体に任せたい
6. その他(具体的に:)

【すべての方にうかがいます。】

問 24 国、県、飯舘村への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。



最後に、あなたのお名前・住所・連絡先について教えてください。

避難生活を安心して過ごしていただくためには、仮設住宅等から、早期に安定的な居住・生活環境にお移り頂くことが重要と考えております。入居を迷っている方などに今後の居住についてご意向をお聞きしたり、復興公営住宅の進捗に応じて、復興公営住宅への入居希望をお持ちの方に希望の状況について改めてお聞きする場合がありますので、あなたの氏名のご記入をお願いします。また、さしつかえなければ、現在のご住所とご連絡先もご記入いただけますと幸いです。

なお、本調査は、今後の復興公営住宅整備に向けて、住民のみなさまのご意見やご要望などをおうかがいすることを目的の一つとして実施しておりますので、当該欄にご記入いただくことによって、復興公営住宅への入居申し込みや入居の確約となるわけではありません。

F1 あなたの氏名を教えてください

F2 現在のあなたの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F3 あなたの連絡先(電話番号)

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
1月21日(水)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**飯舘村 住民意向調査
報告書**

平成27年3月

復興庁 福島県 飯舘村

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

